

琵琶湖博物館業績目録

第 28 号

2023 年度(令和 5 年度)

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2024 年(令和 5 年) 9 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 28

From April 2023 to March 2024

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: OKUBO, Mika)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, Sep 2024

All rights reserved

目 次

収録内容		3
館長		
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	5
副館長		
亀田 佳代子	KAMEDA, Kayoko O.	8
上席総括学芸員		
山川 千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	13
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	17
環境史研究係		
林 竜馬	HAYASHI, Ryoma	21
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	24
楊 平	YANG, Ping	28
妹尾 裕介	SENOO, Yusuke	32
田畑 諒一	TABATA, Ryoichi	35
島本 多敬	SHIMAMOTO, Kazuyuki	39
加藤 秀雄	KATO, Hideo	43
半田 直人	HANDA, Naoto	46
*大久保 実香	OKUBO, Mika	
生態系研究係		
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	49
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	52
大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke	54
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	59
中川 信次	NAKAGAWA, Shinji	61
片山 大輔	KATAYAMA, Daisuke	63
米田 一紀	YONEDA, Kazuki	66
鈴木 隆仁	SUZUKI, G. Takahito	69
大槻 達郎	OHTSUKI, Tatsuo	72
川瀬 成吾	KAWASE, Seigo	76
美濃部 諭子	MINOBE, Satoko	81
菅原 巧太郎	SUGAWARA, Kotaro	83
博物館学研究係		
金尾 滋史	KANAO, Shigefumi	86
芦谷 美奈子	ASHIYA, Minako	90
中村 久美子	NAKAMURA, Kumiko	93
松岡 由子	MATSUOKA, Yuko	95

安達 克紀	ADACHI, Yoshinori	97
渡邊 俊洋	WATANABE, Toshihiro	99
今田 舜介	IMADA, Shunsuke	101
会計年度任用職員		
小山 勝	KOYAMA, Masaru	104
細川 眞理子	HOSOKAWA, Mariko	105
山岡 眞澄	YAMAOKA, Masumi	106
名誉学芸員		
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	108
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	109
用田 政晴	YODA, Masaharu	110
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	111
特別研究員		
天野 一葉	AMANO, Hitoha	112
井内 美郎	IUCHI, Yoshio	115
池田 勝	IKEDA, Masaru	116
今井 一郎	IMAI, Ichiro	118
岩木 真穂	IWAKI, Maho	121
上中 央子	UENAKA, Hisako	112
大久保 卓也	OKUBO, Takuya	123
柏尾 珠紀	KASHIO, Tamaki	124
柏谷 健二	KASHIWAYA, Kenji	126
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	127
小松原 琢	KOMATSUBARA, Taku	128
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	130
寺本 憲之	TERAMOTO, Noriyuki	131
戸田 孝	TODA, Takashi	133
中井 克樹	NAKAI, Katsuki	134
根来 健	NEGORO, Takeshi	140
廣石 伸互	HIROISHI, Shingo	143
藤岡 康弘	FUJIOKA, Yasuhiro	144
増田 敬祐	MASUDA, Keisuke	146
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	147
山本 綾美	YAMAMOTO, Ayami	149
山本 充孝	YAMAMOTO, Michitaka	151
総合研究・共同研究による印刷物		152
2023年度の研究活動をふりかえって		153

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および会計年度職員、名誉学芸員、特別研究員等の2023年4月から2024年3月までの内容が収録されています。
2. *は、育児休業中の学芸職員のため、次年度に報告します。
3. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】（査読を受けて掲載された論文）
- 【専門分野の著作】（査読を経ないが、専門的性の高い内容の著作）
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績目録に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表等】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等の主催行事
 - 視察等への対応
 - メディアへの対応
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動
- 【展示活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動

- 【企画調整活動】
- 【広報営業活動】
- 【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

- 【館内の人事】
- 【海外渡航】
- 【館外の活動】

館長

琵琶湖博物館では「第3期中長期基本計画」の3年目が行われた。昨年度より博物館協議会委員による外部評価が開始され、その評価の結果もふまえて各係で活動計画について修正を行いながら、現在、計画を進めている。今後もこうした評価と修正を繰り返しながら地域に役立つ博物館を目指していきたい。

本年度の主な事業である「デジタルミュージアム推進事業」「ギャラリー展」「企画展」「びわ博フェス」「新琵琶湖学セミナー」なども予定どおり実行された。それぞれ事業における振り返りを十分に行い、地域の人たちと共に歩む博物館事業の充実を今後も目指す必要がある。

昨年2月には、水族展示のオオナマズ水槽が破損する事故があった。その後、外部委員による検討委員会を開催し、事故原因を明らかにし、水族展示のすみやかな復旧を目指した。11月からはクラウドファンディング「みんなで作る新水槽」を実施し、目標額の2倍以上の寄付と暖かい応援コメントをいただいた。また、同時に企業・団体や滋賀ふるさと観光大使の西川貴教氏からもご厚志を頂戴し、水槽復旧の第1期を成し遂げることができた。

個人的には、代表となっている科学研究費基盤（B）「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程のための総合的研究」が昨年度で終了し、今年度は共同研究者によるまとめの原稿の作成を行った。次年度に冊子にまとめて公表する予定である。そのほか、日立製作所との共同研究「高解像度X線CT撮影法を用いた化石の非破壊分析手法の開発」も行った。また、3年間行った宮内庁正倉院事務所より正倉院宝物特別調査「動物由来素材『牙甲角』」が終了し、来年度の報告書を提出する予定である。

なお、本年度末を持って館長の任期が終了することから、琵琶湖博物館を退職する。

印刷物

【学術論文】

Handa, N., Kato, T., Takahashi, K., Baba, R. and Kitabayashi, E. (2023) An additional remain of Pliocene Rhinocerotidae from Ajimu, western Japan. *Historical Biology*: 1-7. DOI: 10.1080/08912963.2023.2217197.

Tomida, Y. and Takahashi, K. (2023) A New Species of *Ploptentalagus* (Lagomorpha, Mammalia) from the Pliocene Kobiwako Group, central Japan. In: Yuong-Nam Lee, (ed.), *Windows into sauropsid and synapsid evolution, Essays In Honor of Louis L. Jacobs*, Dinosaur Science Center Press. 332-340.

【専門分野の著作】

高橋啓一 (2023) 直良信夫のゾウ化石研究と直良コレクションに見られるゾウ化石資料, *国立歴史民俗博物館研究報告*, 第243集: 97-115.

【一般向けの著作】

高橋啓一 (2023) 日本列島のゾウの交代劇. In: 春成秀爾 (編), *何が歴史を動かしたのか 第1巻 自然史と旧石器・縄文考古学*, 雄山閣, 東京, 307pp. 21-32.

高橋啓一 (2023) フィールドへびわ博いちおし ②④ あなたのいちおしフィールド. *京都新聞滋賀版*, 3月24日.

高橋啓一 (2023) フィールドへびわ博いちおし ③⑥ 想像を過去・未来・遠くへ. *京都新聞滋賀版*, 9月22日.

高橋啓一 (2023) 古代湖としての琵琶湖～400万年の歴史～. In: 一般社団法人 全国医師国民健康保険組合連合会 (編), *第61回全体協議会記録*, 80pp. 49-64. 【講演内容の印刷物】

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

京都大学生態学研究センター「ゾウおよびマンモスの適応的健康カレンダー：毛中コルチゾールと安定同位体分析」（研究代表者：京都大学野生動物研究センター・木下こづえ），分担者（2023年4月1日～2024年3月31日）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

化石研究会，運営委員。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10件。

2023年11月18日，びわ博フェス「みんなで出会い学びあえる場」，琵琶湖博物館，開会挨拶。

2023年11月18日，びわ博フェス「みんなで出会い学びあえる場」交流会，琵琶湖博物館，挨拶。

他の博物館・機関等主催行事

2023年7月28日，「ミエゾウと大山田、そして琵琶湖とのかかわりについて」，ライトピアおおやまだ子ども会体験学習（伊賀上野大山田子供会），琵琶湖博物館，講師。

2023年8月26日，「琵琶湖とその生き物たちのおいたち」，日本地学教育学会全国大会（日本地学教育学会），琵琶湖博物館ホール，講師。

2023年10月7日，「古代湖としての琵琶湖～400万年の歴史～」，一般社団法人全国医師国民健康保険組合連合会第61回全体協議会全医連近畿ブロック，びわ湖大津プリンスホテルコンベンションホール淡海，講師。

2024年2月21日，「出あい、学びあう博物館をめざして」，令和5年度第2回全国科学博物館協議会理事会・総会，全国科学博物館協議会，琵琶湖博物館ホール，講師。

2024年3月9日，「ナウマンゾウとマンモスゾウ、日本に最後にいたゾウたち」，ナウマンゾウの化石「浜町標本」記念碑制作に係る記念講演会，浜町メモリアル（東京），講師。

2024年3月14日，「古代湖としての琵琶湖」，東海自然学園，琵琶湖博物館，講師。

視察等への対応

2023年11月11日，挨拶と館内案内，中国湖南省政府代表团。

メディアへの対応

2023年12月13日，関西テレビ「Newsランナー」，出演，（12月13日生中継）。

2023年3月，ケーブルネット鈴鹿「放送セミナー」三重の大地をゾウが行く，インタビュー，（11月1日撮影）。

2023年3月，伊賀上野ケーブルテレビ「時の散策」服部川足跡化石は語る 伊賀にゾウがいた時代，コメンテーター，（11月1日撮影）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「古琵琶湖層群産のウサギ化石について」，1回（4日）。

【企画調整活動】

琵琶湖博物館 博物館実習，開講挨拶（2023年8月21日，セミナー室）.
国立洛東江生物資源館 経営管理本部長.
琵琶湖博物館第31回企画展示オープン式典，開会挨拶（2023年7月15日，アトリウム）.

【広報営業活動】

2023年12月発行，日本電気硝子社内報「硝友」NO.435，2023創立記念特別号，インタビュー，（9月26日取材）.
感謝状贈呈式，挨拶・感謝状贈呈，8件.
目録贈呈式，挨拶，1件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2023年9月19日～21日，韓国（国立洛東江生物資源館），MOU協力活動協議.

【館外の活動】

琵琶湖環境研究推進機構，研究顧問（2019年4月1日～）.
滋賀県博物館協議会，理事（2019年4月1日～）.
日本博物館協会，参与（2019年4月1日～）.
海と日本プロジェクト in 滋賀実行委員会，委員長（2019年4月1日～）.
雲南大学，客員教授（2019年6月13日～）.
多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト検討委員会，委員長（2020年7月～）.
正倉院宝物特別調査員 動物由来素材「牙甲角」第三年度，（2023年11月13日～11月17日）.
高島市指定管理者候補者選定委員会，委員長（2022年10月1日～2027年9月30日）.

副館長

2023年度の特筆すべき館内業務としては、2月に起こったビワコオオナマズ水槽破損事故への対応と、DX（デジタル・トランスフォーメーション）事業の開始があげられる。水槽破損事故については、主担当ではないものの、滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会の会議に出席するとともに、館内協議に携わった。同時並行で、水族展示再生のためのクラウドファンディングの検討が始まり、他館での取り組み状況に関する情報収集や館内寄附制度の整理などを行った。クラウドファンディング終了後は、展示室ツアーの実施や館長不在時のツアー参加者へのあいさつと参加証授与なども行った。

DX事業では、地理情報システム（GIS）を用いた生物分布デジタルマップ作製を担当し、他の学芸職員や委託職員などとともに、鳥類標本の情報や日本野鳥の会等の探鳥会情報を入力し、鳥類分布データベースを作成した。さらに、そのデータを地図化できるプラットフォームの構築では、より使いやすいシステムを構築できるよう業者との打合せに参加した。

以前から担当している伊藤忠商事株式会社との連携研究では、希少淡水魚であるアユモドキの人工繁殖と生態観察池の池干し開始を受けて、研究の進捗状況や成果のとりまとめと先方との連絡調整を担当した。残念ながら屋外展示の池を活用したタナゴ類と二枚貝の保全については連携研究の対象からは外れることになったが、アユモドキの保全については引き続き支援をいただいで進めることになった。

2023年度は海外との関わりも比較的多く、視察対応以外では、イタリアの大学院生の博物館学に関する調査の依頼を受け、対応を行った。これは、前年度に台湾国立博物館主催のオンラインシンポジウムで、参加型調査を含む琵琶湖博物館の研究について講演したことがきっかけとなっており、その講演を聞いた大学院生から、ぜひ琵琶湖博物館で調査をさせてほしいと依頼があったものである。

館外からの依頼では、新たに京都市環境影響評価審査会と千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会の委員に就任した。後者では、当館と同規模の県立総合博物館として千葉県立中央博物館の状況について学ぶことができ、今後の当館の運営などに参考になった。それ以外には、兵庫県第二種特定鳥獣管理計画（カワウ）策定への助言も行った。

研究においては、総合研究のとりまとめに向けた検討を行い、琵琶湖博物館研究セミナーでも発表を行ったが、まだ十分なとりまとめができていないと言いたい。今後、最終年度である2025年度に向けて、報告書作成やデータセット構築を進めていく必要がある。一方、専門研究にも関わる鶺鴒のウミウの研究においては、昨年度まで参加していた国立民族学博物館の共同研究の成果として、本の1章を執筆し提出した。また、京都大学野生動物研究センターの共同研究の一環として、3月に研究会を開催した。ハイブリッド形式で開催した研究会では、共同研究者以外にも鶺鴒のウミウに関わる研究者に出席してもらい、情報共有を行うことができた。多くの新たな情報や発見があり、それに基づいた議論ができたことから、今後の研究の発展に期待が持てた。また、生態学会の「生態学と人間の文化」セッションにおいて鶺鴒に関する口頭発表を行い、人の文化と関わる生態学や進化に関心のある研究者と交流を深めることができた。これらの成果を次年度以降の研究の発展につなげていきたい。

印刷物

【一般向けの著作】

- 亀田佳代子 (2023) 田んぼは生き物の宝庫—鳥類—. In: 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館 (編) 滋賀県立琵琶湖博物館 第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然— (図録), 18-27.
- 亀田佳代子 (2023) 琵琶湖と人のものがたり《その4》 琵琶湖の森をめぐる鳥と人の歴史. 叶匠壽庵広報誌『鳥梅』, 2023年冬 (43): 5-7.
- 亀田佳代子 (監修) (2024) 海岸でも見られるカワウ. In: (株)少年写真新聞社 (編), ためしてわかる実験・観察理科総合大百科 2024 (2022年度『理科教育ニュース』縮小活用版), (株)少年写真新聞社, 東京, 28.

- 亀田佳代子（監修）（2024）日本に生息するウの仲間の観察. In: (株)少年写真新聞社（編），*ためしてわかる実験・観察 理科総合大百科 2024（2022年度『理科教育ニュース』縮小活用版）*，(株)少年写真新聞社，東京，84-85.
- 亀田佳代子（監修）（2024）日本に生息するウ ～自然の中でのウの役割と人との関わり～. In: (株)少年写真新聞社（編），*ためしてわかる実験・観察 理科総合大百科 2024（2022年度『理科教育ニュース』縮小活用版）*，(株)少年写真新聞社，東京，125.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 亀田佳代子（2023年7月11日）2023年度琵琶湖博物館総合研究「過去150年」研究会，琵琶湖博物館，ハイブリッド，[運営・司会].
- 亀田佳代子（2023年7月21日）総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」の概要と進捗状況. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 亀田佳代子（2024年3月6日）京都大学野生動物研究センター共同研究「鶺鴒のウミウの遺伝的背景の解明」研究セミナー，琵琶湖博物館，ハイブリッド，[運営・司会].
- 亀田佳代子（2024年3月6日）鶺鴒のウミウの性判別：偏った性比の要因と飼育下の個体間関係. 京都大学野生動物研究センター共同研究「鶺鴒のウミウの遺伝的背景の解明」研究セミナー，琵琶湖博物館，ハイブリッド，[口頭発表].
- 亀田佳代子（2024年3月16日）鶺鴒のウミウの生態学：馴化過程と飼育下の生活史、個体間関係. 第71回日本生態学会大会（日本生態学会），横浜国立大学（神奈川県横浜市），オンライン，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：亀田佳代子），研究代表者（2019年度～2025年度）.
- 琵琶湖博物館専門研究「鳥の視点から見た鳥類と人との関係：鶺鴒のウミウペアの性別と行動」，（2023年度）.
- 京都大学野生動物研究センター共同利用・共同研究「鶺鴒のウミウの遺伝的背景の解明」（研究代表者：亀田佳代子），研究代表者（2023年度）.
- 岐阜市長良川鶺鴒習俗総合調査委員会・関市小瀬鶺鴒習俗総合調査委員会「全国鶺鴒習俗基礎調査」（事務局：岐阜市教育委員会・関市協働推進部），調査者（2019年度～2024年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本鳥学会，評議員，2006年1月～2023年12月.
- 一般社団法人日本鳥学会，代議員，2024年1月～2025年12月.
- 日本鳥学会員近畿地区懇談会，世話人，2000年1月～.
- 日本生態学会，近畿地区会自然保護専門委員，2008年1月～2025年12月.
- 日本生態学会，第71回日本生態学会大会，英語口頭発表賞審査員，2024年3月16日.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年1月10日，Ph.D. student (Ms. Chiara Parisi) of University of Ferrara, Italy, 博物館学の学位論文のためのインタビュー対応.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，10件。

質問対応，琵琶湖博物館，9件。

2023年11月19日，閉会あいさつ，びわ博フェス2023 ～みんなで出会い学びあえる場～，琵琶湖博物館。

2023年12月3日，琵琶湖の冬の水鳥たち，淡海こどもエコクラブ活動交流会，琵琶湖博物館，講師。

2024年1月13日，水鳥を観察しよう！，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2023年7月29日，出張授業「琵琶湖の水鳥：魚を食べる鳥のお話」，「鳥人間コンテスト2023」応援イベント（読売テレビ本社），読売テレビ放送株式会社，講師。

2023年8月19日，ytvアナウンサー×学芸員 夏休み特別授業「森にすむ鳥、カワウが教えてくれること」，鳥人間コンテストSP イベント in 琵琶湖博物館（琵琶湖博物館），読売テレビ放送株式会社，講師。

2023年8月26日，講演「琵琶湖地域における鳥と人との関わり」，公開講演会シリーズ『深掘り滋賀』第1回第2部（龍谷大学瀬田キャンパス），放送大学滋賀学習センター，講師。

2023年12月3日，講演「琵琶湖の冬の水鳥たち」，淡海こどもエコクラブ活動交流会（琵琶湖博物館），琵琶湖博物館環境学習センター，講師。

視察等への対応

2023年5月9日，展示案内，韓国忠清北道庁・道知事顧問等。

2023年11月11日，あいさつ・展示室同行，中国湖南省友好提携40周年代表団。

2024年1月25・26日，博物館運営組織についての調査の対応，千葉県立中央博物館。

2024年2月27日，C展示室「川から森へ」カワウのすむ森の展示解説，国際青少年サイエンス交流事業 さくらサイエンスプログラム（カメルーン大学院生）。

2024年3月9日，あいさつ，ニカラグア全権大使。

メディアへの対応

静岡第一テレビ，2023年6月19日夕方報道番組内，静岡・東部の狩野川で増えているカワウについて，電話取材，（2023年6月16日取材対応）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

動物標本の整備および収蔵庫の維持管理に関すること，副担当。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）事業におけるGISデータの整備とコンテンツ作成に関すること，副担当。

鳥類資料の受入，9件。

鳥類資料の製作，8件。

鳥類資料の利用，本剥製標本，企画展示，17点。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「カワウのすむ森」コーナーに設置した冊子の説明，1回（4日）。

展示交流員と話そう，内容指導，1人。

常設展示更新，C展示室「川から森へ」ゾーン「カワウのすむ森」コーナー，（4月22日，冊子3種設置）。

他博物館・機関の活動

特別展示「比べてみよう！鵜飼のいきもの」解説パネルの確認，長良川うかいミュージアム。

【企画調整活動】

自然史系博物館長懇談会，出席，（2024年1月17日・北九州市立自然史・歴史博物館）。
クラウドファンディングリターン，副館長ツアー，展示案内，（2024年2月23日）。
クラウドファンディングリターン，水族ツアー，あいさつ，（2024年2月10日）。
クラウドファンディングリターン，学芸員DEEPツアー（プランクトン），あいさつ，（2024年3月9日）。
クラウドファンディングリターン，水族ツアー，あいさつ，（2024年3月17日）。

【広報営業活動】

広報営業活動における対外折衝に関すること。
地域や企業と連携した取り組みの統括に関すること。
SNS 発信「イタリアの大学院生が琵琶湖博物館で博物館学の調査を行いました！」執筆，（2024年1月）。
SNS 発信「Italian graduate student conducted museology research at the Lake Biwa Museum!」執筆，（2024年1月）。
株式会社伊藤園・滋賀県民共済生活協同組合・東レエンジニアリング株式会社・株式会社村田製作所野洲事業所，
感謝状贈呈式出席（2023年5月10日）。
大阪ガス株式会社・株式会社三東工業社，感謝状贈呈式出席（2023年5月18日）。
YouTuber マーシーの獲ったり狩ったり，感謝状贈呈式出席（2023年11月24日）。
株式会社ブリヂストン彦根工場，感謝状贈呈式出席（2023年11月30日）。
株式会社ダイフク，感謝状贈呈式出席（2023年12月13日）。
積水樹脂株式会社，感謝状贈呈式出席（2024年1月12日）。
日本メンテナンスエンジニアリング株式会社，感謝状贈呈式出席（2024年3月14日）。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会，委員。
研究等の推進に向けた外部資金の獲得に関すること。
新聞・雑誌の連載に関すること，叶匠寿庵担当。
伊藤忠商事株式会社，連携研究対応。
琵琶湖環境研究推進機構，委員。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023年6月20日，令和5年度幹部職員研修，オンライン受講。
2023年11月29日～2024年1月19日，令和5年度デジタル人材育成研修，動画視聴受講。

【館外の活動】

京大大学生態学研究センター，協力研究員（1997年4月1日～2024年3月31日）。
滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員（2006年8月1日～2027年3月31日）。
農林水産省滋賀森林管理署「伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ」，委員（2006年7月12日～2024年3月31日）。
滋賀県カワウ総合対策協議会，委員（2010年7月21日～2024年3月31日）。
滋賀県カワウ総合対策協議会個体数調整部会，委員（2010年7月21日～2024年3月31日）。
関西地域カワウ広域管理計画の推進に関する検討委員会，委員（2014年1月6日～2024年3月31日）。

環境省カワウ保護及び管理に関する検討会，委員（2015年9月1日～2024年3月25日）.
岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査専門委員会，委員（2016年2月1日～2025年3月31日）.
関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会専門部会，委員（2016年2月1日～2025年3月31日）.
兵庫県コウノトリ野生化対策懇話会，構成員（2016年8月1日～2024年7月31日）.
京都市環境影響評価審査会，委員（2023年6月12日～2025年6月11日）.
兵庫県，兵庫県第二種特定鳥獣管理計画（カワウ）策定への助言（2023年7月12日～2024年3月31日）.
千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会，委員（2023年11月10日～2025年3月31日）.
川重冷熱工業株式会社，敷地内のため池に生息する水鳥の確認と環境整備への助言（2024年2月28日）.

「新生代の大型植物化石」を研究対象とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、植物相の変遷、古環境を明らかにする研究を行っている。

今年度から始めた共同研究「鮎河および綴喜層群産化石群による前期中新世後期の古環境について」代表 山川千代美 (2023~2024 年度) では、琵琶湖誕生以前に堆積した鮎河層群および綴喜層群産の化石群に基づき、琵琶湖周辺地域の約 18-17Ma 前の古環境を明らかにすることを目的としている。琵琶湖博物館の収蔵標本や、新産地による寄贈標本データを加え、化石群の組成を捉え直し、総合的に海域・陸域の古気候・古環境を示したいと考えている。大型植物化石では、共同研究者とともに綴喜層群の新産地の化石群について総数約 750 点近くの同定作業と主な分類群の写真撮影を行なった。成果については、琵琶湖博物館研究報告としてまとめる予定である。また、この研究に関連して、近畿地域に分布する中新統の植物化石群として、未だ明らかにされていないものを対象に研究を広げており、特に、二上山博物館所蔵の二上層群産の植物化石群を対象に同定作業を行なっている。

専門研究「滋賀県多賀町四手の下部更新統産植物化石群におけるブナ属とスギ属」は、多賀町立博物館が行っている古代ゾウ発掘プロジェクトの発掘調査第一次から第十次までのうち、中間報告 (第一次から第四次) 以降に産出した大型植物化石のデータをまとめる過程で、注目する分類群についての研究となる。この古代ゾウ発掘プロジェクトによる約 180 万年前の古植生・古環境の研究は、琵琶湖博物館はしかけグループ「古琵琶湖発掘調査隊」とともに植物化石資料の同定や整理を進めている。昨年度から進めている定量分析による洗い出し法から、種実化石の検出や同定作業を行い、多産するブナ属の総苞と種子の形態観察を行い、ブナタイプとイヌブナタイプに区別することを試みている。関連して、発掘場所の上位層となる富之尾火山灰層層準から産出している大型植物化石群集の組成を明らかにする研究を継続している。

そのほか、昨年度で終了した研究 2 件のうち、共同研究「古琵琶湖層群および関東平野西縁地域の化石林に基づく鮮新-更新世の湿地林の植生復元と気候変動との関係性について」は、6 月 10 日に研究報告会で発表を行い、その成果をまとめた論文を投稿したところである。また、科研 (基盤研究 B)「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合研究 (代表 高橋啓一)」分担者 (2018 年~2021 年) では、古琵琶湖層群の植物相の変遷についてまとめる方向でデータを整えている。これ以外では、同志社大学所蔵の新島裏が採取した漸新統産神戸層群産植物化石の同定作業と写真撮影等を行っており、その成果について日本古生物学会で発表した。今後、論文にまとめる方向で調整している。加えて、名古屋市植田川河床の約 350 万年前の化石林調査による材化石の同定作業を行い、今後まとめることとなる。

印刷物

【学術論文】

大江新一・林 竜馬・出穂雅実・百原 新・大脇航平・佐々木尚子・高原 光・植田弥生・山川千代美・山野井 徹
(2024) 山形県立谷川河床埋没林から復元する最終氷期最盛期の植生. *植生史研究*, 43-58.

【専門分野の著作】

Yamakawa, C. (2023) Field excursion guide; Lake Biwa and its History (Stop 1 - September 3, 2023); Latest Pliocene Yasu River Fossil Forests (Stop 1 - September 4th). In: Momohara, A. (ed.), *NECLIME Annual Conference 2023, Field excursion guide*, 10.

【一般向けの著作】

山川千代美 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 古代湖・琵琶湖を取り巻く古植生の変遷 1 化石林はタイムカプセル. *朝日新聞滋賀版*, 4 月 11 日.

- 山川千代美 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 古代湖・琵琶湖を取り巻く古植生の変遷 2 動物が棲む林. 朝日新聞滋賀版, 4月25日.
- 山川千代美 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 古代湖・琵琶湖を取り巻く古植生の変遷 3 植物の消滅と出現. 朝日新聞滋賀版, 5月7日.
- 山川千代美 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 古代湖・琵琶湖を取り巻く古植生の変遷 4 現在につながる. 朝日新聞滋賀版, 5月21日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 山川千代美 (2023年6月10日) 古琵琶湖層群および関東平野西縁地域の化石林に基づく鮮新-更新世の湿地林の植生復元と気候変動との関係性について. 2023年度研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 山川千代美 (2023年8月18日) 中部中新統二上層群産植物化石群について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Yamakawa, C., Ueda, Y., Ryoma Hayashi, R., Kamiya, E. and Nishimura, Y. (2023年9月1日) Reconstruction of the wetland forests at the Pliocene-Pleistocene boundary based on fossil forests around Paleo-Lake Biwa, central Japan. NECLIME Annual Conference 2023.
- 山川千代美・植村和彦・林田 明・同志社大学地学研究会・小枝弘和 (2024年1月27日) 新島裏採集の神戸層群産植物化石標本について. 日本古生物学会第173回例会, [口頭発表].
- 山川隆良・山川千代美・佐々木猛智 (2024年1月27日) 北浅川河床檜原メタセコイア化石林の3Dモデル化と樹高推定. 日本古生物学会第173回例会, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「滋賀県多賀町四手の下部更新統産植物化石群におけるブナ属とスギ属」, (2023年度~).
- 琵琶湖博物館共同研究「鮎河および綴喜層群産化石群による前期中新世後期の古環境について」代表 山川千代美 (2023~2024年度)
- 多賀町立博物館・古代ゾウ発掘プロジェクト.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2023年度博物館実習, 講師 (琵琶湖博物館の概要・事業部について), 2023年8月21日.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本植生史学会, 会計幹事, 2018年度~2023年度.
- NACLIME 2023 日本大会・エクスカッション, 運営担当
- 「花粉学会誌」原著論文, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 12件.

はしかけグループ「古琵琶湖発掘調査隊」, 「ちこあそ」担当.

2023年11月18日19日, びわ博フェス, 運営補助, 挨拶

2024年3月23日, 新琵琶湖学セミナー「研究を展示する:びわ博展示の裏話」<第3期リニューアル>大3回, 大型植物化石が語る琵琶湖地域の400万年間の植物相-A 展示室(うつり変わる気候と森)-, 講演.

他の博物館・機関等の主催行事

2023年4月27日・30日，古代ゾウ発掘プロジェクト第十次発掘参加，多賀町四手，専門班植物化石担当。

2024年3月24日，座談会「多賀町四手のアケボノゾウ・ワニはこんなところに棲んでいた =多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第5次～第9次発掘および洗い出し法による成果より」，多賀町立博物館，講師。

視察等への対応

2023年5月30日，視察対応，インド領事館。

2024年2月21日，質疑応答調整，国立科学博物館。

2024年2月23日，視察対応，熊本博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学収蔵庫・冷温収蔵庫，担当。

収蔵庫担当者会議，出席，報告。

古琵琶湖層群産化石標本，受け入れ対応・標本整備推進・研究利用対応。

故南木睦彦氏さく葉標本および植物関連図書，受け入れ対応。

他の博物館等の活動

多賀町立博物館 古代ゾウ発掘プロジェクト第10次発掘，資料整理・化石同定。

香芝市二上山博物館 植物化石標本整理・同定作業。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

A展示室：変わる気候と森コーナー，植物化石標本管理。

モーニングレクチャー，講義「変わる気候とメタセコイアの森」，1回4日。

【企画調整活動】

マネジメント会議，構成員。

琵琶湖博物館協議会，出席と事案説明。

新任職員研修，「琵琶湖博物館の概要・事業部」について（2023年4月18日）。

2023日野原重明記念新老人「滋賀の会」講演会（2023年11月12日）受け入れ担当

ビワコオオナマズ水槽破損事故，第三者委員会の委員会運営補助と連絡調整、委員会開催調整。

水槽再生事業「みんなでつくる水槽」クラウドファンディング第1弾の運営補助、業者打ち合わせ、メッセージ回答。

クラウドファンディング返礼「館長ツアー」（2024年2月23日），対応。

クラウドファンディング返礼「地学学芸員体験」（2024年3月31日），対応。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（川那部浩哉・用田政晴），受入担当。

研究部代表者会議，構成員。

情報誌「びわはく」掲載記事，添削。特集担当。

湖国と文化連載「琵琶湖センス・オブ・ワンダー」，掲載調整。

韓国洛東江生物資源館研究交流，準備対応，協議対応（2023年12月6日）。

冷凍・冷蔵収蔵庫修繕に係る荷物移動調整等，対応。

研究協力員，対応。

地学研究発表会，企画・運営。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

衛生委員.

会計年度任用職員採用試験, 面接対応 (2023年6月28日・29日)・(2024年2月28日).

広報委託プロポーザル, 審査員.

【館外の人事】

万博滋賀県ブース設計のプロポーザル, 審査会委員 (2023年8月25日).

守山市埋蔵文化財, 審議員 (2023年4月～).

西日本自然史系博物館ネットワーク, 理事 (2020年2月～).

西日本自然史系博物館ネットワーク 標本救済ネット, ケースワーカー (2020年2月～).

文化庁イノベート・ミュージアム事業, 推進担当 (2023年6月～2024年2月).

地層から過去の堆積環境の解析や、地層中の火山灰層から、地層の年代決定、水系の変化推定、爆発的火山噴火活動の変遷の検討を中心に研究を行っており、これらの研究は、現在の琵琶湖が形成されてきた地史を解明する研究に結びついている。また、現在の琵琶湖の堆積物から、過去 1000 年程度の時代における環境変遷の研究についても実施し始めている。

過去の湖があった時代から現在までの数百万年オーダーの変化、現在位置での琵琶湖があった時代の数万年オーダーの変化、人が関係している時代の数千～数百年オーダーの変化を対象として研究を行っている。数百万年オーダーでは、琵琶湖地域を中心とした近畿・東海地域における水系変化の検討を行っており、今年度は初期の湖について、東海層群地域にあった湖との関係について議論し、その結果を日本地質学会大会において発表した。数万年オーダーについては、国際プロジェクトである IODP の expedition386 において、乗船して国内外の研究者と共に日本海溝付近の堆積物を対象とした研究を行い、特に火山灰層に着目して、海溝部の平面的な堆積物の広がりについて検討を行った。このプロジェクトの基盤となるデータ論文は、IODP の専門ページにて公表された。また、分析試料をつかった研究論文が Nature Communications に掲載された (いずれも共著者)。数百年オーダーについては、琵琶湖南湖を対象に、湖内植物生産量の変化を解明することを目的としたボーリング調査を、当館の共同研究で行っており、それを発展させた南湖・北湖の比較研究を行う事で、人為的な影響を因る検討を実施している。この研究は、科学研究費補助金基盤 C が採択されて実施している。この研究についてのこれまでの研究成果を日本第四紀学会大会にて発表した。

博物館の研究発信として出版されている琵琶湖博物館研究調査報告について、J-STAGE での公開を過去の号も含めて公表することを進めている。事業では、今年度から広報・営業部門も加わった企画・広報営業課長として、博物館運営の調整を主な業務として行い、第三次中長期基本計画をもとにした初年度の内部・外部を含めた評価書をまとめ、次年度以降の事業計画の見直しを推進し、営業事業や広報事業の調整を行った。また、水族展示室における大型水槽破損に伴う水族展示再生についての事業調整などに関わる事業を行った。今年度の業務は大部分の時間をこれらの業務に当てざるを得ない状況であり、専門分野の学芸業務の運営も危うい状況となっている。博物館業務全体の見直しが課題と思われる。

担当しているはしかけグループでは、地域の岩石調査やグループ内の勉強会などのサポートを行った。その他、毎年、当館の地学関係者が事務局として行っている地域の方々との研究発表会は、3年ぶりの開催を実施した。

印刷物

【学術論文】

- Chu, M., Bao, R., Strasser, M., Ikehara, K., Everest, J., Maeda, L., Hochmuth, K., Xu, L., McNichol, A., Bellanova, P., Rasbury, T., Kölling, M., Riedinger, N., Johnson, J., Luo, M., März, C., Straub, S., Jitsuno, K., Brunet, M., Cai, Z., Cattaneo, A., Hsiung, K., Ishizawa, T., Itaki, T., Kanamatsu, T., Keep, M., Kioka, A., McHugh, C., Micallef, A., Pandey, D., Proust, J. N., Satoguchi, Y., Sawyer, D., Seibert, C., Silver, M., Virtasalo, J., Wang, Y., Wu, T-W. and Zellers, S. (2023) Earthquake-enhanced dissolved carbon cycles in ultra-deep ocean sediments. *Nature Communications*: doi.org/10.1038/s41467-023-41116-w
- Kojima, T., Saito-Kato, M., Ohtsuka, T. and Satoguchi, Y. (2023) Two new species of the diatom genus *Praestephanos* from the Pliocene Ueno Formation, Kobiwako Group, Mie Prefecture, Japan. *Paleontological Research*, 28: 291-306.

【専門分野の著作】

- Strasser, M., Ikehara, K., Everest, J., and the Expedition 386 Scientists (2023) Japan Trench Paleoseismology. *Proceedings of the International Ocean Discovery Program*, 386: College Station, TX (International Ocean Discovery Program). <https://doi.org/10.14379/iodp.proc.386.2023>
- 里口保文 (2024) 書評 大阪市立自然史博物館監修：見るだけで楽しめる！日本の氷河時代 化石でたどる気候変動. *第四紀研究*, 63 : 43-44.

【一般向けの著作】

- 里口保文 (2023) 国内の代表的なチバニアン期の地層. 加藤久佳・八木令子 編, 千葉県立中央博物館令和5年度特別展「よみがえるチバニアン期の古生物」展示図録, 千葉県立中央博物館, 千葉県千葉市 : 11.
- 里口保文 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 琵琶湖の水系はどう変わったか? ① 川の流れ変えた地形の変化. *朝日新聞滋賀版*, 6月5日.
- 里口保文 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 琵琶湖の水系はどう変わったか? ② 大阪への流れ生き物に影響. *朝日新聞滋賀版*, 6月19日.
- 里口保文 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 琵琶湖の水系はどう変わったか? ③ 地層が語る湖と河川の変化. *朝日新聞滋賀版*, 7月3日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 正木紫苑・堂満華子・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・芳賀裕樹・加 三千宣・廣瀬孝太郎 (2023年5月13日) 琵琶湖南湖における過去30年間の珪藻群集変化と湖内環境変化. 日本珪藻学会第44回大会, 日本珪藻学会, 文教大学 (東京都), [ポスター発表].
- 富 小由紀・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト (2023年5月14日) 滋賀県犬上郡多賀町四手産の珪藻化石に基づく古環境. 日本珪藻学会第44回大会, 日本珪藻学会, 文教大学 (東京都), [口頭発表].
- 里口保文・加 三千宣・林 竜馬・芳賀裕樹 (2023年9月1日) 琵琶湖南湖と北湖の泥質堆積物の堆積速度比較. 日本第四紀学会2023年大会, 日本第四紀学会, 早稲田大学 (埼玉県所沢市), [ポスター発表].
- 長橋良隆・里口保文・中川和重 (2023年9月2日) 始良 Tn 火山灰の火山ガラスの形状解析. 日本第四紀学会2023年大会, 日本第四紀学会, 早稲田大学 (埼玉県所沢市), [口頭発表].
- 長橋良隆・里口保文・中川和重 (2023年9月18日) プリニー式噴火および大規模火砕流噴出に伴う降下テフラの火山ガラスの形状解析. 日本地質学会, 京都大学 (京都府京都市), [口頭発表].
- 里口保文 (2023年9月19日) 古琵琶湖層群上野層のウェーブリップル斜交葉理. 日本地質学会第130年学術大会, 日本地質学会, 京都大学 (京都府京都市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖南湖堆積物中のアルカンによる水生植物生産量と陸上植物流入量の推定に関する基礎的研究」(研究代表者: 里口保文), 研究代表者 (2021年度~2024年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 共同研究者 (2019~2023年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群下部~中部の火山灰層露頭の現状調査」, (2022年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤C) 「湖環境への人為的影響をはかるための歴史時代における湖内植物生産量変動の解明」(研究代表者: 里口保文), 研究代表者 (2021年度~2023年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤C) 「テフラ粒子の数値化による新たな広域テフラの検出: 500万年間の破局噴火の発生頻度」(研究代表者: 長橋良隆), 研究分担者 (2021年度~2023年度).
- International Ocean Discovery Program (IODP) Expedition 386 「Japan Trench Paleoseismology」(研究代表者: Prof. Michael Strasser & Dr. Ken Ikehara), 乗船研究者 (2021年~2023年).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本地質学会，代議員（地方区），2022年5月～2024年4月。
日本地質学会近畿支部，幹事長，2016年5月～2024年4月。
日本地質学会，生涯教育委員，2022年7月～2024年7月。
日本地質学会，2023年大会巡検案内書編集長，2022年8月～2023年9月（延長中）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年度前期集中講義，滋賀県立大学，地球科学 II。
2023年度博物館実習，講師（企画・広報営業課の業務について），2023年8月24日。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12件。
はしかけグループ「大津の岩石調査隊」，担当学芸員。

他の博物館・機関等主催行事

2023年6月6日，自然の作用としての地層形成と土砂災害，滋賀県土木交通部砂防課，土砂災害防止月間講演会，滋賀県庁，講師。
2023年8月16日，地質から見た琵琶湖の地理と歴史，奈良県高等学校地理教育研究会・歴史研究会，合同夏季巡検，琵琶湖博物館，講師。
2023年11月7日，琵琶湖のでき方，八幡市福祉委員会，地学研修，琵琶湖博物館，講師。
2023年11月9日，地層が残すもの，高島市教育研究所，実践研究授業，高島市立高島中学（滋賀県高島市），講師。

視察等への対応

2023年7月25日，出版助成についての意見聴取，日本生命財団，琵琶湖博物館。

メディアへの対応

読売新聞，全科協大会について，内容説明，（2024年2月28日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

岩石鉱物標本寄贈，受け入れ対応，3件。
地学資料利用，受け入れ対応，5件。
地学資料整理，方針等検討。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2023年4月1日，A展示室・地域の人びとによる展示，展示対応。
2023年10月1日，A展示室・地域の人びとによる展示，展示対応。
2024年2月9日，A展示室・地域を調べてきた人びとの資料（寄贈標本展示），展示実施。
モーニングレクチャー，講義「うつり変わる大地と湖展示の解説」，1回（4日）。

他博物館・機関の活動

千葉県立中央博物館，2023年7月，展示パネル協力，解説文・写真提供.

【企画調整活動】

琵琶湖博物館第三次中長期基本計画，調整・推進.

企画・広報営業課業務全般，実施内容調整等，2023年度.

新人職員研修，企画・広報営業課の業務講義，

Toyota Social Fes，受け入れ対応，2023年10月28日，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

J-STAGEの研究調査報告，アップロード等管理，2023年度.

琵琶湖の湖底堆積物を中心とした花粉分析に基づいて、東アジア地域における過去数十万年間の森林植生の変遷と気候変動、さらには人間活動との関連についての研究を進めている。

本年度は、科学研究費基盤研究（C）に関連して、琵琶湖堆積物および日本海堆積物を用いた花粉分析や定量的植生復元手法の開発を目指した花粉生産量に関する研究を継続して実施した。また、定量的な植生景観復元モデルの応用に関する研究の公表準備を進めた。西の湖ヨシ群落での現存量推定に関する研究については、2021年に「地域自然史と保全」に公表した論文について関西自然保護機構より四手井綱英記念賞を受賞し、新たにドローンを活用した推定手法の開発や円山地域でのヨシ群落調査を実施した。

琵琶湖博物館総合研究および共同研究の中では、琵琶湖周辺における過去150年間の森林景観の復元を行うことを目的として、琵琶湖南湖堆積物の花粉分析を実施し、共同研究者とともにバイオマーカー分析に基づく水草の変遷について研究を進めた。また、滋賀県の遺跡での花粉分析結果の集成と解析を継続的に実施し、奈良文化財研究所との共同研究を推進し、その成果の一部を第四紀研究において公表した。琵琶湖博物館申請専門研究では、日本海堆積物の花粉群集組成との比較を目的に、鳥取県における遺跡での花粉分析データの収集と整理を進めた。これらの研究成果の一部については、琵琶湖博物館研究セミナーや大学講義などをおして、一般に向けた紹介にも努めた。

博物館事業に関しては、展示係の展示交流員担当として、展示交流事業に関する運営に取り組んだ。また、「展示資料WEB図鑑（交流員おすすめ展示）」の公開を行なった。館外での活動としては、日本花粉学会の編集委員と行事幹事を12月までつとめ、1月からは同学会編集委員長に就任した。

印刷物

【学術論文】

林 竜馬（2024）滋賀県の遺跡花粉データベースからみる地域・局所スケールの植生変遷史. *第四紀研究* 63 : 3-17.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 林 竜馬（2023年7月21日）UAV（ドローン）-SfM 測量による西の湖ヨシ群落の群落高および地上部バイオマスの簡易推定手法の開発. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 林 竜馬・板木拓也・宮川歩夢・福富友馬・齋藤明美・押川千恵・児塔栄子・岸川禮子（2023年12月3日）自動スライドスキャナと人工知能を用いた空中花粉自動計測システムの開発. 第38回日本植生史学会・日本花粉学会第64回大会, 鹿児島大学（鹿児島市）, [口頭発表].
- 佐々木尚子・斎藤俊彦・高原 光・林 竜馬・中村琢磨・竹谷尚樹・野坂麻子・杉田真哉（2023年12月3日）アカエゾマツ林の花粉生産量: 定量的植生復元の基礎資料として. 第38回日本植生史学会・日本花粉学会第64回大会, 鹿児島大学（鹿児島市）, [ポスター発表].
- 林 竜馬・山田直明・竹田勝博・太田俊浩（2024年3月3日）参加型刈り取り調査と群落高法による琵琶湖ヨシ群落の冬季地上部現存量の推定-「ヨシ刈り活動」における炭素回収量の簡易推定手法の開発-. 関西自然保護機構2024年度大会, 大阪自然史博物館, [四手井綱英記念賞記念発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「山陰地域における遺跡花粉分析データベースの構築－琵琶湖地域との比較と日本海の花粉化石が記録する植生範囲の推定－」, (2023 年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖南湖堆積物中のアルカンによる水生植物生産量と陸上植物流入量の推定に関する基礎的研究」(研究代表者: 里口保文), 研究副代表者 (2021 年度～2023 年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「歴史景観生態学からみた森と人の関係」(研究代表者: 妹尾祐介), 共同研究者 (2021 年度～2023 年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 共同研究者 (2019 年度～2024 年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 C)「過去 50 万年の琵琶湖・海洋花粉分析からみる温暖期の森の脆弱性と日本海効果の評価」(研究代表者: 林 竜馬), 研究代表者 (2023 年度～2026 年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 C)「湖環境の人為的影響をはかるための歴史時代における湖内植物生産量変動」(研究代表者: 里口保文), 研究分担者 (2021 年度～2023 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本花粉学会, 日本花粉学会会誌 副編集委員長 (2015 年～2023 年).
- 日本花粉学会, 行事幹事 (2021 年～2023 年).
- 日本花粉学会, 日本花粉学会会誌 編集委員長 (2024 年～).
- 日本第四紀学会, 評議委員 (2023 年～).
- Palaeo3, LAGUNA, 査読, 2 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2023 年 6 月 26 日, 龍谷大学深草キャンパス, 里山学「花粉で探る過去の里山環境」.
- 2023 年 7 月 25 日, 龍谷大学瀬田キャンパス, 里山学「花粉で探る過去の里山環境」.
- 2023 年 8 月 29 日, オンライン, 龍谷大学, びわ湖・滋賀学「気候変動と人の利用による植生変遷」.
- 2023 年 8 月 31 日, 琵琶湖博物館, 龍谷大学, びわ湖・滋賀学「A 展示室見学」.

【受賞など】

- 四手井綱英記念賞 (関西自然保護機構), 2024 年 3 月 3 日, 参加型刈り取り調査と群落高法による琵琶湖ヨシ群落の冬季地上部現存量の推定－「ヨシ刈り活動」における炭素回収量の簡易推定手法の開発－. (山田直明 (滋賀県琵琶湖環境部 (当時))・竹田勝博 (葭留)・太田俊浩 (コクヨ工業滋賀 (当時))).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 13 件.

はしかけグループ「森人」, 担当学芸員.

2024 年 2 月 24 日, 新琵琶湖学セミナー「研究を展示する: びわ博展示の裏話」, 「鳥の目で森と湖を楽しむ遊歩道をつくる」, 講演.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学標本整備, 収蔵庫維持管理, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員，主担当.

ユニバーサルデザイン，主担当.

モーニングレクチャー，講義「樹冠トレイルと屋外展示について」，1回（4日）.

展示交流員と話そう，「滋賀県のツキノワグマ」内容助言.

2023年10月31日～1月21日，福井県年縞博物館連携事業「湖ラボ展 地層をはぎとる」，実施.

「湖と人間」との関係性総体の歴史を琵琶湖地域に即して諸学統合的に把握するために、地球環境史や一国環境史に対置する「地域環境史」という枠組みを提起し(橋本道範 2016d、2022b、2023b)、17世紀に地域の基礎単位として確立した「ムラ」(現在の大字、地域の言葉でいえば「在所」)をめぐる二つの仮説①非力の村論(橋本道範 2004のち2015に収録、2016e)と②生業の稠密化論(橋本道範 2015)、そして、消費の場における嗜好の変化、加工時期の変化や調理・加工体系の転換などの解明から「逆照射」して生業の変化、環境利用の変質を究明する③環境史的消費論(橋本道範 2020a、2022a、2023a)、魚類等の自然のコード化とその脱構築から生業や消費の変化を解明しようとする④第三の自然観論(橋本道範 2021、2022b)の都合四つの仮説からその具体化と統合を目指している。かつて「環境史は歴史学の一分野史なのか」といった議論があったが(篠原徹 2004など)、環境史は学際的研究であると定義し(橋本道範 2022b)、歴史学は環境史に積極的に参画するべきであると明確に主張している(橋本道範 2022c)。

I、今年度の大きな成果は、地域環境史の成果を国際的に発信する論文「Regional Environmental History: The lake biwa Region」を藤原辰史編『Handbook of Environmental History in Japan』(MHM Limited)のなかで公表できたことである。これは、2015年以来、京都大学人文科学研究所研究班「環世界の人文学—生きもの・なりわい・わざ」(班長:大浦康介)、「生と創造の探究—環世界の人文学」(班長:藤原辰史・石井美保のち岩城卓二)、「環境問題の社会的研究」(班長:岩城卓二)、「生きる営みと環境問題」(班長:岩城卓二)と継続的に参加して学んだことを踏まえ、琵琶湖産フナ属に注目し全体史を目指したもので、自然観論では「コード化された自然」に注目し、種とは異なる単なる「コード」が時代ごとに登場して、極めてご都合主義的に利用されていたこと。消費論では「洗練化」と廃絶に注目し、17世紀に塩漬けせず、「寒の内」より70日以上飯漬けした寒鮓のフナズシが登場したが、その後廃絶したこと。生業論では「稠密化」に注目し、13世紀に involuted type のエリが出現して、17世紀には沖合へと発達し、京都の生食料理の発達に関わること(佐野静代 2017)。また小糸網漁も恐らく16世紀に沖合のフナ属も漁獲できるように技術的に発達していたこと。以上、三つの仮説を提示し、生態と自然観と消費と生業との連動を捉えることが重要で、その過程では必ず小さくても常に政治があることを主張した。

II、上記のように、四つの仮説をいかに接合して地域環境史を描くかが論者の喫緊の課題であるが、琵琶湖産ヨシに注目して、第三の自然観論と生業の稠密化論の接合を目指した論文「コード化された自然と村落—琵琶湖地域のヨシをめぐる一」を公表した。まず、琵琶湖地域の小さな「ムラ」である須原(野洲市)のブランド米生産に注目し、円山(近江八幡市)など、17世紀には「ムラ」にも名産品があったことを指摘した。次に、ヨシの「コード」に注目し、もともとは粗末なものという「コード」であったが、15、16世紀に一転して豊かさを象徴する「コード」に転換すると推定した。そして、15、16世紀の須原を含む兵主郷(野洲市)におけるヨシをめぐる紛争に着目し、現在のヨシ生産のサイクルとはまるで異なるサイクルでヨシが栽培・刈り取りされていたこと。しかし、「ムラ」による統合的な管理によってそれが克服されていくことを明らかにした。この内容については、第三回中世日欧比較史研究会(3e séminaire d'une histoire comparée du Japon médiéval et de l'Occident médiéval)でも発表し、フランス側参加者から高い評価を得ることができた。

III、環境史的消費論を構築するために、元禄2年(1689)の料理書『合類日用料理抄』に記載された「江州鮓の鮓」(本研究では、「古フナズシ」と呼んでいる)の製法(厳寒期に塩切せずに糯米の玄米で漬け込む)の再現実験に取り組んでいる。これは、共同研究「フナズシの歴史的な位置付けについての研究II—「古フナズシ」の再現実験—」(2022年度～2024年度:研究代表者橋本道範)の資金で行っているものであるが、幸い、サントリー文化財団2022年度研究助成「学問の未来を拓く」「ナレズシはいかに「洗練化」したのか—乳酸菌分析にもとづく環境史へのアプローチ」(研究代表者:橋本道範、2022年8月～2023年7月)の助成を得たため、木桶を使った第4回目再現実験を行った。実験は、2023年1月20日に漬け始め、20日目:2月10日、70日目:4月1日、120日目:5月20日、180日目:7月20日にサンプリングと環境測定を行った。現在、龍谷大学農学部ラボにおいて、インキュベーターを利用した第5回目再現実験(最終実験)を開始している(2024年2月7日～)。

なお、年度前半は兼務先として事業部展示係に所属していたが、10月1日より環境学習・交流係に異動し、「びわ博フェス2024～みんなで出会い学びあえる場～」を応援するとともに、フィールドレポーター担当として「近江のナレズシ県民大調査」を実施し、有効回答2893を得ることができた。

印刷物

【学術論文】

Hashimoto, M. (2023) Regional Environmental History: The lake biwa Region. In: Fujihara, T. (ed.), *Handbook of Environmental History in Japan*, MHM Limited. 161-175.

橋本道範 (2023) コード化された自然と村落—琵琶湖地域のヨシをめぐって—. *歴史学研究*, 1042 : 2-13, 65.

【一般向けの著作】

橋本道範 (2023) 湖国・滋賀の食卓 なれずし編 江戸時代のふなずし ジャーキーのような味わい, *朝日新聞*, 5月30日.

橋本道範 (2023) 江戸時代のフナズシに挑む. *情報誌びわはく*, 滋賀県立琵琶湖博物館, 7 : 1-3.

橋本道範 (2023) フィールドへ びわ博いちおし ㊤ 天皇も食べたドジョウズシ 湖国では大橋のみ伝承, *京都新聞滋賀版*, 7月14日.

橋本道範 (2023) ふなずし. In: 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館 (編) *滋賀県立琵琶湖博物館 第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然— (図録)*, 148-153.

橋本道範 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 地域環境史を開拓する 1 自然と人間の関係 ひもとく. *朝日新聞滋賀版*, 8月28日.

橋本道範 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 地域環境史を開拓する 2 自然への負荷「ムラ」で調整. *朝日新聞滋賀版*, 9月13日.

橋本道範 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 地域環境史を開拓する 3 エリ漁の発達と「ムラ」の関係. *朝日新聞滋賀版*, 9月25日.

橋本道範 (2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 地域環境史を開拓する 4 エリ漁の魚 売買され消費. *朝日新聞滋賀版*, 10月9日.

橋本道範 (2024) ふなずし 多様な作り方 (インタビューによる). *日本経済新聞*, 2月2日.

橋本道範 (2024) なれずしと近江文化. *近江のなれずし製造技術—登録無形民俗文化財—*, 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課, 13-14.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

橋本道範 (2023年4月21日) 15世紀～16世紀における首都京都の淡水魚消費. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

Hashimoto, M. (2023年9月15日) Regional Environmental History: The lake biwa Region. 第三回中世日欧比較史研究会 (3e séminaire d' une histoire comparée du Japon médiéval et de l' Occident médiéval), オンライン, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

サントリー文化財団二〇二二年度研究助成「学問の未来を拓く」「ナレズシはいかに「洗練化」したのか—乳酸菌分析にもとづく環境史へのアプローチ」(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者 (2022年8月～2023年7月).

科学研究費助成事業（基盤 A）「中近世「菅浦文書」の公開促進と史料学的・文理融合的研究」（研究代表者：滋賀大学経済学部・青柳周一），研究分担者（2021 年度～2025 年度）。

京都大学人文科学研究所研究班「生きる営みと環境問題」（班長：京都大学人文科学研究所・岩城卓二），班員（2023 年度～2024 年度）。

琵琶湖博物館共同研究「フナズシの歴史的な位置付けについての研究Ⅱ—「古フナズシ」の再現実験—」（研究代表者：橋本道範），研究代表者（2022 年度～2024 年度）。

琵琶湖博物館専門研究「地域環境史の理論的構築」，（2023 年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023 年度春学期，佛教大学，前近代の世界 H 講義。

2023 年度秋学期，佛教大学，日本古代史史料講読 2 A・京都学文献研究 2 A・日本史史料講読（古代・中世）1 A。史料講読。

2023 年 8 月 27 日，龍谷大学，びわ湖・滋賀学，講義。

2023 年 9 月 4 日～7 日，就実大学，吉備地方文化特論 3，集中講義。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，12 件。

フィールドレポート調査「近江のナレズシ県民大調査」，担当。

「びわ博フェス 2024～みんなで出会い学びあえる場～」，応援。

Query 担当（10 月 1 日～1 月 31 日），担当。

2023 年 11 月 18 日，びわはくフェス 2024，フナズシ研究最前線，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等の主催行事

2023 年 5 月 20 日，江戸時代のふなずし漬け，令和 5 年度第 1 回食まなび館セミナー，食まなび館（長浜市），講師。

2023 年 7 月 7 日，フナズシの洗練化をめぐる，魚食文化と水環境，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2023 年 7 月 16 日，江戸時代のフナズシに挑む，あいがもけんぶん塾，蒲生コミュニティセンター（東近江市），講師。

2023 年 10 月 13 日，歴史学は創造の学問だ，大野町立揖東中学校校外学習，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2023 年 10 月 24 日，フナズシについて，SC 富田林会員研修旅行，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2023 年 11 月 30 日，固有種はなぜおいしい？～ふなずしとその歴史～，令和 5 年度 全国建設技術センター等協議会 設立 50 周年記念式典・全国会議，琵琶湖ホテル（大津市），講師。

2023 年 12 月 6 日，琵琶湖とフナとフナズシと，環境省ローカル SDG² リーダー研修「migakiba（ミガキバ）」，オンライン，講師。

2024 年 3 月 1 日，鮎と堅田にまつわるお話し，琵琶湖堅田の鮎と地酒・地ビールを楽しむ会，しづか楼（大津市），講師。

メディアへの対応

2023 年 11 月 19 日，「なれずし」の今 実態探る 食べる頻度など 琵琶博がアンケート，読売新聞，取材対応。

2023 年 11 月 29 日，家庭の「ふなずし」消費や生産実態は 琵琶湖博物館が調査，中日新聞，取材対応。

2023 年 11 月 30 日，なれずし県民大調査 30 年ぶり 消費、生産の実態把握へ，滋賀夕刊，取材対応。

2023 年 12 月 30 日，なれずし 食べてる？ 湖国のソウルフード 30 年ぶり大調査，京都新聞，取材対応。

2024 年 1 月 20 日，「なれずし」食べている人どれくらい？ 琵琶湖博物館が調査，朝日新聞，取材対応。

2023年3月27日, [再発見する滋賀] なれずしはお好き?, かけはし310, 株式会社滋賀銀行, 取材対応.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

歴史資料整備, 収蔵庫維持管理, 副担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示維持管理, 担当 (～9月31日).

2023年10月17日(火)～11月26日(日), 第19回学芸員のこだわり展示「重要文化財・琵琶湖博物館所蔵東寺
文書展 戦国時代の災害調査―流田内検帳―」, B展示室, 担当.

モーニングレクチャー, 講義「戦国時代の災害調査―流田内検帳―」, 1回(4日).

【企画調整活動】

滋賀県博物館協議会 令和5年度第1回情報交換会・見学会「SNSとクラウドファンディングの活用について」,
滋賀県立琵琶湖博物館, 運営, 2023年10月19日.

滋賀県博物館協議会 令和5年度第1回講演会「博物館法の改正について」, 大津市歴史博物館, 運営, 2024年2月9
日.

【研究部活動】

研究セミナー運営, 担当.

研究最前線, 担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023年度, 滋賀県博物館協議会研修委員会幹事.

【館外の活動】

神奈川大学日本常民文化研究所, 客員研究員(2022年度～2023年度).

佛教大学, 非常勤講師(2023年度).

就実大学, 非常勤講師(2023年度).

近江のなれずし製造技術魅力発信冊子作成委託業務事業者選定審査会, 委員(2023年10月4日).

「自然資源と人との関わり」というテーマで自然資源の利活用および地域再生のありかたについて研究調査を行っている。琵琶湖地域を中心としたフィールド調査においては、川や湧水など水をめぐる資源の利活用や地域運営の仕組みについて、社会的研究調査を進めている。これまでの研究成果は学会や研究会などにて発表を行った。今年度の研究成果の一部を『環境社会学 現代的課題との関わりで』『入門・社会学シリーズ』（学文社出版）にて公開を行った。地域再生に向けて生活組織と地域共同資源との関わり方の原理を究明し、改めてコミュニティにおける資源の利用価値の変化にともなう水環境との関係の再構築のあり方を示した。琵琶湖地域における水辺暮らしを対象に、関わり方の変化や工夫を解明することを目的とした水辺調査を共同研究で行っている。その研究成果の一部を新聞連載にて公開を行った。

事業部では、博物館と地域とのつながりや学びあい、交流の場として、様々な連携に重視しつつ交流事業を進めた。本年度も環境学習交流係長を担当しつつ、中長期基本計画の「みんなで学びあう博物館へ」の推進の一環として交流事業である、びわ博フェス、観察会やエコクラブ交流会等の交流イベント系事業や、地域連携業務などのサポートや推進を務めた。上記の交流事業の推進のほか、多様な地域団体などの参画による博物館連携事業を盛り込んで博物館利用者層の拡大を図った。また、琵琶湖地域におけるフィールド調査地の方々や地域団体やはしかけの方々との意見交換会などを実施することができた。その他の活動としては、地域団体からの問合せや活動協力への依頼など、地域との連携に関する対応も行った。これらをきっかけに、博物館環境学習・交流事業における地域との交流をさらに深めた連携活動や「みんなで学びあう博物館へ」の推進を行った。

印刷物

【学術論文】

楊 平・香川雄一（2023）琵琶湖的環境治理と政策—環境社会学視角的探索. *環境社会学*, 2023 (3) : 141-158.

【専門分野の著作】

楊 平（2024）利用価値の変化にともなう水環境との関係の再構築. In: 牧野厚史・藤村美穂・川田美紀（編著）*入門・社会学シリーズ 環境社会学 現代的課題との関わりで*, 学文社出版, 171-189.

【一般向けの著作】

楊 平(2023) フィールドへ びわ博いちおし ㊦ 自然に親しむ地域づくり. *京都新聞滋賀版*, 9月8日.

楊 平(2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 水と暮らしの再発見 ① 環境守る 地域独自の知恵. *朝日新聞滋賀版*, 10月22日.

楊 平(2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 水と暮らしの再発見 ② 豊かな川 地域の人々が育む. *朝日新聞滋賀版*, 11月5日.

楊 平(2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 水と暮らしの再発見 ③ 資源管理 地域ごとに仕組み. *朝日新聞滋賀版*, 11月19日.

楊 平(2023) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 水と暮らしの再発見 ④ 協働支える 多様なつながり. *朝日新聞滋賀版*, 12月3日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

楊 平 (2023年5月20日) 琵琶湖の環境保全について. 水環境国際シンポジウム, 中国(武漢), [口頭発表].

楊 平 (2023年7月7日) 資源の共同利用と環境保全. 総合的共同研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

楊 平 (2023年8月18日) 人と水とのかかわりについて. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「自然資源の利用と管理」, (2023年度).

琵琶湖博物館共同研究「水資源の利活用と地域再生」(研究代表者: 楊 平), 研究代表者 (2023年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

湖沼科学, 水資源保護, 査読, 4件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導】

2023年6月13日, 水環境の社会調査について, 卒論指導.

2023年度博物館実習, 講師(環境学習交流事業について), 2023年8月25日.

2024年1月4日, 滋賀県立大学, 博物館実習, 講師.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

環境学習・交流係事務の総括に関すること.

幅広いニーズに応える交流事業の運営・企画・総括.

深く学ぶ力に基づく琵琶湖学習支援, 学校連携の総括に関すること.

質問コーナー及び質問等の対応, 16件.

水環境の保全と社会に関する質問への対応, 5件.

環境学習・交流事業全体の総括、担当.

はしかけグループ「水と暮らし研究会」, 担当学芸員.

情報誌掲載記事, 添削.

2023年度地域連携, はしかけ調査活動の支援, 調査などの対応, 8件.

2023年度, 交流イベント系事業への対応, 7件.

2023年4月27日, 社会調査について, はしかけ調査勉強会, 講師.

2023年6月18日, 交流イベント「自然観察」, 対応.

2023年6月21日, 水環境と社会調査について, 社会調査勉強会, 講師.

2023年7月16日, 琵琶湖博物館環境学習関連イベント, 対応.

2023年7月22日, 地域イベント, 地域での観察会, 対応.

2023年7月26日, 農村暮らし研究会, 講師.

2023年8月4日, 自然保全研究会, 出席.

2023年8月28日, 環境学習に関する協議会, 出席.

2023年9月3日, 琵琶湖博物館交流イベント, 対応.

2023年9月27日, はしかけ調査方法について, 講師.

2023年10月7日, イナズマロック琵琶博イベント, 対応.

2023年10月31日、はしかけ水と暮らし研究会、調査内容および調査方法について、対応。
2023年11月18日、びわ博フェス、企画、推進総括、司会。
2023年11月19日、びわ博フェス、推進、総括。
2023年12月3日、子どもエコクラブ大会、総括、開会挨拶。
2024年1月8日、子どもエコクラブ大会作品展会場、対応。
2024年1月31日、はしかけ水と暮らし研究会調査内容について、対応。
2024年3月17日、環境学習関連事業、対応。

他の博物館・機関等の主催行事

2023年4月28日、大津市景観計画審議会、審議。
2023年7月10日、こども環境会議実行委員会、助言。
2023年7月14日、大津市景観計画審議会、対応。
2023年8月23日、こども環境会議実行委員会、助言。
2023年10月25日、地域連携事業、広島フェニックス工業研修、講義、講師。
2023年11月16日、近江八幡市環境審議会、審議。
2023年11月25日、地域連携、対応。
2023年12月22日、地域連携、高島市、対応。
2023年12月23日、地域連携、高島市、対応。
2024年1月15日、地域連携、近江八幡市総合計画審議会、審議。
2024年1月19日、地域連携、近江八幡市環境審議会、対応。
2024年2月3日、子ども環境会議大会、出席。
2024年2月20日、地域連携、近江八幡市環境審議会、対応。
2024年3月6日、博物館研究会、参加。
2024年3月18日、環境学習推進協議会、出席。
2024年3月27日、近江八幡市環境審議会、審議。
2024年3月29日、大津市景観計画審議会、対応。

視察等への対応

2023年10月27日、展示案内、湖南省環境視察団。
2023年11月2日、滋賀の会、講演会関連の視察、展示室案内。
2023年11月11日、展示案内、湖南省視察。
2024年2月27日、地域連携、京都大学アフリカ研究グループ、視察対応。
2024年3月1日、地域連携、霞ヶ浦研究センター、視察、挨拶。

メディアへの対応

2023年11月18日、新聞、テレビ局、びわ博フェスについて、取材対応。
2023年11月19日、新聞、テレビ局、びわ博フェスについて、取材対応。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2023年度、常設展示C展示室 農村展示、管理。
2023年5月2日、展示室対応。
2023年5月4日、展示室対応。
モーニングレクチャー、講義「C展示室」、1回（4日）。
展示交流員と話そう、2名、内容指導。

【企画調整活動】

2023年4月18日，新任職員研修，環境学習・交流事業について概要説明，展示紹介。
2023年4月20日，新任職員研修，C展示室水と暮らし・富江家，展示紹介。
2023年8月3日，博物館協議会，環境学習交流事業について，対応。
2023年11月10日，滋賀県湖南省友好提携記念事業レセプション，出席。
2023年11月12日，日野原重明記念事業シンポジウム，対応。
2024年1月30日，博物館協議会，環境学習交流事業について，対応。
2024年2月21日，全国博物館大会，参加。

【研究部関連事業】

学芸会議，記録担当，2023年6月16日。
京都新聞連載「びわ博からフィールドへ」，担当（2021年～）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023年度，環境学習・交流係，採用選考，対応。

【館外の活動】

草津市こども環境会議実行委員会，委員（2023年度）。
近江八幡市総合計画審議会，委員（2023年度～）。
大津市景観審議会，委員（2023年度～）。
近江八幡市環境審議会，委員（2019年度～）。

琵琶湖周辺地域を中心とした原始・古代の人びとの暮らしと、アジア視点でみたおこめ文化について、考古学研究をすすめている。2023年度は、(1)土器製作実験と調理実験、(2)過去の森と人の相互関係、(3)東南アジアのコメ調理調査という3つのテーマで研究をすすめた。

(1) 2023年度専門研究「琵琶湖周辺地域の産出粘土をつかった土器製作実験と使用実験」

守山市教育委員会と滋賀県立陶芸の森の研究者とともに野洲市大篠原で採集した粘土を使い、弥生土器の復元製作実験をした。具体的には、自然粘土と砂粒追加粘土の2種に分けて土器製作をし、焼成時における破損割合を調べた。そのうえで、燃料材に稲わらを入れるか否かの2種の簡易な窯を作成して覆い型野焼き方法で焼成実験をしてデータを収集した。また今年度は調理実験を10回実施することができデータの蓄積が進んだ。

(2) 共同研究「歴史景観生態学からみた森と人の関係」

集落を中心とした景観、生態から森と人の関係を解明することを目的として、考古学、民俗学、地理学、生態学の共同研究を進めた。さらに琵琶湖をもつ滋賀県の特徴を浮き彫りにすることを目論んで、「盆地」が共通する滋賀県と奈良県のデータを比較した。本年度は、最終年度であるので研究成果をまとめた。

(3) 科学研究費補助金基盤研究(B)「和食の成立過程の解明:湯取り法炊飯からウルチ米蒸しへの転換過程」

(研究代表者:小林正史)

伝統的なおこめを中心とした暮らしの構造解明を目的に、タイ北部のゾミア山地において現地調査および聞き取り調査を実施した。少数民族であるとくに先行する民族誌調査が少ないPaka村について次のような調査成果を得た。①先行研究では少ない記述で触れられる程度であった、茹で蒸し法によるコメ調理方法を映像記録と聞き取り記録および調理時間や調理量などのデータとして入手した。②Paka村には3人のシャーマン(No.1-No.3の序列あり)がいて、今なお村人がアミニズムを信仰し、伝統的なコメを中心とした暮らしを維持しているという世界でも貴重な社会組織が残存していることが判明した。③村の世帯を反映させた村内地図を完成させ、自給的なムラの実態を知る1次資料を得た。④本調査により取得した各種データは、伝統的家屋(本宅・別宅・米蔵)の3Dモデル、村全体の世帯地図、伝統的コメ調理方法(茹で蒸し法)の観察記録、シャーマンを中心とした儀礼、木工技術の記録映像と多岐にわたる。

事業面では、第31回企画展示「おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」を担当した。本企画展示では、おこめをテーマとして、琵琶湖博物館ならではの多様な研究領域からなる展示によって、田んぼを場とした生態系、イネの植物学的情報、おこめと文化、おこめ調理の歴史を紹介した。展示期間中に行ったアンケート調査から、未就学児から90歳代までの幅広い世代に利用いただいたこと、親子3世代など家族全員で楽しんでいただいたこと、45都道府県という全国各地からの来館者があったこと、学校団体が課題として企画展示室を利用し教材としての活用があったことなど、おこめという身近なテーマが世代、地域を越えた非常に魅力あるテーマであることを改めて知ることができた点が大きな成果であった。

印刷物

【一般向けの著作】

- 妹尾裕介(2024) 文様をもたない土器. In: 京都大学総合博物館(編), *比叡山麓の縄文世界(図録)*, 20.
- 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館(編)(2023) *滋賀県立琵琶湖博物館第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—(図録)*. 滋賀県立琵琶湖博物館, 160.
- 妹尾裕介(2023) おこめと私たち びわ博のまなざし①おこめどころ近江. *京都新聞滋賀版*, 10月13日.
- 妹尾裕介(2023) おこめと私たち びわ博のまなざし②弥生水田の出現. *京都新聞滋賀版*, 10月27日.
- 妹尾裕介(2023) おこめと私たち びわ博のまなざし③水田の発展と拠点集落の形成. *京都新聞滋賀版*, 11月10日.
- 妹尾裕介(2023) おこめと私たち びわ博のまなざし④水田が作った新たな社会. *京都新聞滋賀版*, 11月24日.
- 妹尾裕介(2023) おこめと私たち びわ博のまなざし⑤おこめの故郷. *京都新聞滋賀版*, 12月8日.
- 妹尾裕介(2023) おこめと私たち びわ博のまなざし⑥熱帯ジャポニカと温帯ジャポニカ. *京都新聞滋賀版*, 12月22日.
- 妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑦日本の水田とおこめ. *京都新聞滋賀版*, 1月12日.
- 妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑧うるち米ともち米. *京都新聞滋賀版*, 1月26日.
- 妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑨おこめ調理の原理. *京都新聞滋賀版*, 2月9日.
- 妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑩弥生時代のおこめ調理. *京都新聞滋賀版*, 2月23日.
- 妹尾裕介(2024) ビワハツ琵琶湖博物館研究だより①湖底遺跡の謎に迫る. *朝日新聞滋賀版*, 2月25日.

妹尾裕介 (2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑪古代のおこめ調理. 京都新聞滋賀版, 3月8日.
妹尾裕介 (2024) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより ② 湖底遺跡の謎に迫る. 朝日新聞滋賀版, 3月10日.
妹尾裕介 (2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑫今につづくおこめ調理. 京都新聞滋賀版, 3月22日.
妹尾裕介 (2024) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより ③ 湖底遺跡の謎に迫る. 朝日新聞滋賀版, 3月24日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

妹尾裕介・大塚泰介・加藤秀雄 (2023年12月17日) 「琵琶湖博物館第31回企画展示「おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」開催報告」. 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
妹尾裕介 (2024年1月19日) 実験考古学から探る弥生ナベの製作技術と機能. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
前野弘志・小川拓郎・佐藤育子・妹尾裕介・辻村純代・藤本 悠・堀賀 貴 (2024年3月23日) 「フェニキア都市ティールの大型墓—レバノンのユネスコ世界遺産アルバスサイト南東部の発掘調査 (2023年)—」, 第31回西アジア発掘調査報告会, 日本西アジア考古学会, 帝京大学文化財研究所 (山梨県), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「歴史景観生態学からみた森と人の関係」(研究代表者:妹尾裕介), 研究代表者 (2021年度~2023年度).
琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺地域の産出粘土をつかった土器製作実験と使用実験」, (2023年度).
科学研究費助成事業 (基盤B) 「和食の成立過程の解明:湯取り法炊飯からウルチ米蒸しへの転換過程」(研究代表者:小林正史), 研究分担者 (2022年度~2024年度).
科学研究費助成事業 (基盤B) 「レバノン南部の都市ティールにおけるアルバスサイトの発掘調査 (研究代表者:広島大学・前野弘志), 研究分担者 (2023年度~2025年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事
質問コーナー, 12回.
クエリ, 回答, 4件.

他の博物館・機関等の主催行事

2023年8月26日・8月27日・9月30日・11月19日, 弥生人養成講座「弥生土器づくり」, 下之郷史跡公園 (滋賀県守山市), [口頭発表].

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動
考古資料整備, 収蔵庫維持管理, 担当.
考古資料貸出, 3件.
考古収蔵庫特別観覧対応, 3件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動
B展示室, 維持管理.
第31回企画展示「おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」(2023年7月15日~11月19日), 展示室担当.
第18回学芸員のこだわり展示「壺と高坏—土器からみる弥生文化—」(2023年8月1日~10月15日), 担当,
モーニングレクチャー, 講義「おこめ展について」, 1回 (4日)

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2023年8月31日～9月26日，レバノン，科研費調査.

2024年1月4日～1月11日，タイ　ゾミヤ山地，科研費調査.

【館外の活動】

京都大学総合博物館，研究協力者（2015年10月～現在）.

近畿弥生の会，滋賀県世話人（2017年12月～現在）.

分子遺伝解析を用いて、琵琶湖の魚類の起源、歴史、進化に関する研究を進めている。本年度は、代表者として行っている科研費若手研究「ゲノミクス系統地理情報を基にした淡水魚類の保全戦略マップの作成」、などの研究課題に取り組んだ。琵琶湖の魚類の進化史の推定や希少淡水魚の保全遺伝解析を実行し、その内の一部を日本魚類学会年会にて口頭発表を行ったり、共著者として論文発表を行ったりした。論文発表の中には、滋賀県立大学・原田教授や岐阜県立森林文化アカデミー・玉木先生、当館の大槻主任学芸員らとの共同研究であるイブキノエンドウの遺伝解析も含まれている。この研究成果は、マスコミにも取り上げられた。今年度の日本魚類学会では、コイ科の希少淡水魚・シナイモツゴの分布最北端の個体群の遺伝的集団構造の解明について、ポスター発表を実施した。また、他にも、京都大学の渡辺勝敏准教授とその学生、龍谷大学の丸山敦准教授とその学生などとの共同研究や研究協力を複数行っている。前年度に琵琶湖博物館公式YouTubeチャンネル「びわこのちからチャンネル」にて紹介した滋賀県産ミナミヌマエビと外来種のカワリヌマエビ属について、研究試料の収集をはしかけグループ「うおの会」の方々に協力してもらい、県内サンプルの遺伝分析と滋賀県生き物総合調査への報告を行った。

昨年度まではコロナ禍で海外との研究交流がしづらい状況だったが、2023年度の9月には、5年ぶりに韓国国立洛東江生物資源館を訪問し、キム・サンギ研究員と共同研究に関する打ち合わせを対面で行ったり、12月には洛東江生物資源館の本部長らが琵琶湖博物館に来館し、今後の共同研究に関する協議を行ったりするなど、国際的な共同研究が再び動き出そうとしている。一方で、詳細は後述するが、2022年度末に発生したビワコオオナマズ水槽破損事故に伴う水族展示関連の業務が非常に多く、研究事業を中心に進めることができなかった。そのため、代表者として取り組んでいる科研費若手研究は、本来は2023年度が最終年であったが、日本学術振興会に研究期間の1年間の研究機関延長の申請を行った。

博物館事業に関しては、資料活用係に戻り、図書室担当業務、収蔵庫空間の設備管理、これまでも行ってきた水族飼育管理業務の担当を担った。水族に関しては、2023年度から水族担当の総括を務めることとなった。水族飼育に関わる維持管理（施設・設備の修繕手配、予算管理、水族資料収集、水族展示の運営）といった内容については引き続き担当を努めた。2023年度は、それらの通常業務に加えて、年度の前半には2022年度末に発生したオオナマズ水槽破損事故の事故原因究明の第三者委員に関する対応、および水槽破損事故に伴い閉鎖していた水族展示室の再開、水族展示再生事業として、アクリル交換工事の予算獲得や入札準備を行った。年度後半からは、アクリル交換工事の実施、水槽設計業務委託の入札と設計の打ち合わせ、さらに希少淡水魚の保護増殖事業について、全体総括の副担当、主担当となる各種の追加があり、それらの業務にあたった。特に希少淡水魚については、伊藤忠商事との協同研究事業であり、水族展示室前身の琵琶湖文化館時代から40年にわたって飼育されたきたアユモドキ、環境省および公益社団法人・日本動物園水族館協会が共同事業として生息域外保全を行っていて、唯一の担当園館だった宮津水族館が閉館したことで当館が担当園館に変わったタンゴスジシマドジョウと、繁殖・保護増殖事業の非常に重要な種と位置付けられている2種の主担当に年度の途中から変更されたため、関係省庁や関係機関との連絡会議への出席、捕獲や移動などの許可申請に忙殺されている。

水族展示室は、令和5年5月の大型連休明けから、一部閉鎖区画を設け、トンネル水槽・オオナマズ水槽等を閉鎖しながらも、部分再開を果たした。その後、6月には、閉鎖区画を撤廃し、順路を正常に戻し（トンネル水槽を含む10程度の水槽は閉鎖している）、コロナ禍対応のため中止していた水族飼育員による解説給餌を再開させた。12月から3月にかけては、アクリルの交換工事が行われ、令和6年度の初頭からトンネル水槽およびよみがえれ！日本の淡水魚コーナーの順次再開を目指している。また、水槽設計については、当初は令和5年度末に設計が完了予定だったが、諸事情により設計の完了は令和6年度途中に変更となっている。ただし、2023年度末の時点では工事の入札や完了については予定通り行われることとなっている。

印刷物

【学術論文】

- Fuke, Y., P. Musikasinthorn, Kano, Y., Tabata, R., Matsui, S., S. Tun, L. K. C. Yun, T. Bunthang, P. Thach and Watanabe, K. (2023) Online. Origin of endemic species in a moderately isolated ancient lake: the case of a snakehead in Inle Lake, Myanmar. *Zoologica Scripta*, 53: 16–31.
<https://doi.org/10.1111/zsc.12633>
- Yamamoto, S., Morita, K., Kitano, S., Tabata, R., Watanabe, K. and Maekawa, K. (2023) Phylogeography of a salmonid fish, white-spotted charr (*Salvelinus leucomaenis*), in a historically non-glaciated region in the northwestern North Pacific. *Biological Journal of Linnean Society*, 139: 115–130.
<https://doi.org/10.1093/biolinnean/blad002>
- Tamaki, I., Mizuno, M., Ohtsuki, T., Shutoh, K., Tabata, R., Tsunamoto, Y., Suyama, Y., Nakajima, Y., Kubo, N., Ito, T., Noma, N. and Harada, E. (2023) Phylogenetic, population structure, and population demographic analyses reveal that *Vicia sepium* in Japan is native and not introduced. *Scientific Reports* volume 13, Article number: 20746.

【一般向けの著作】

- 田畑諒一 (2023) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち「タモロコ」. *産経新聞*, 4月16日.
- 田畑諒一 (2023) 田んぼは生き物の宝庫—魚類—. In: 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館 (編) *滋賀県立琵琶湖博物館 第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然— (図録)*, 40–45.
- 田畑諒一 (2023) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち「オオシマドジョウ」. *産経新聞*, 7月16日.
- 田畑諒一 (2023) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち「カワムツ」. *産経新聞*, 10月15日.
- 田畑諒一 (2024) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち「カワムツ」. *産経新聞*, 1月14日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 三内悠吾・田畑諒一・渡辺勝敏 (2023年9月2日) シマドジョウ問題：異質倍数化と生態適応のモデルとして. 2023年度日本魚類学会年会, 長崎大学文教キャンパス (長崎市), [口頭発表]. <優秀口頭発表賞受賞>
- 高田喜光・諸澤崇裕・田畑諒一・渡辺勝敏 (2023年9月2日) ゲノムワイドSNPデータを用いたミヤコタナゴの遺伝的集団構造の再検討. 2023年度日本魚類学会年会, 長崎大学文教キャンパス (長崎市), [ポスター発表].
- 大貫溪介・田畑諒一・三品達平・西田睦・渡辺勝敏 (2023年9月2日) ゲノムワイドデータから推定された周伊勢湾域固有種ネコギギの集団形成史. 2023年度日本魚類学会年会 (長崎大学文教キャンパス, 長崎). [ポスター発表]. <優秀ポスター発表賞受賞>
- 井戸啓太・三品達平・田畑諒一・岩田明久・阿部 司・渡辺勝敏 (2023年9月2~3日) ゲノムワイドSNPデータから推定されたアユモドキ (*Parabotia curtus*) の野生・飼育集団の遺伝的特性. 2023年度日本魚類学会年会, 長崎大学文教キャンパス (長崎市), [ポスター発表].
- 田畑諒一・福家悠介・佐原雄二・高谷 悟 (2023年9月3日) 青森県又八沼でのモツゴ類の遺伝分析と外部形態による同定結果の比較. 2023年度日本魚類学会年会, 長崎大学文教キャンパス (長崎市), [ポスター発表].
- 田畑諒一・川瀬成吾・妹尾裕介 (2023年11月18日) 滋賀県のツチフキは外来種なのか?. 第77回魚類自然史研究会, 三重県総合博物館, [口頭発表].
- 田畑諒一 (2023年11月29日) 滋賀県立琵琶湖博物館における水槽破損事故の報告. 日本動物園水族館協会 第33回動物園水族館設備会議, 男鹿水族館 GAO (秋田県男鹿市), [口頭発表].

田畑諒一・川瀬成吾・妹尾裕介（2023年12月15日）滋賀県のツチフキは外来種なのか？. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖博物館水族資料を用いた繁殖および特異な生態行動観察」, (2023年度).

琵琶湖博物館共同研究「日本産ニゴイ類の比較形態学的研究」(研究代表者:川瀬成吾, 副代表者(2022年度～2024年度)).

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者:亀田佳代子, 共同研究者(2019年度～2023年度)).

科学研究費助成事業(若手)「ゲノミクス系統地理情報を基にした淡水魚類の保全戦略マップの作成」(研究代表者:田畑諒一), 代表者(2021年度～2023年度).

科学研究費助成事業(国際共同研究加速基金(国際共同研究強化B))「カタツムリにおける左右二型現象の起源と進化動態」(研究代表者代表:細将貴), 分担者(2020年度～2025年度).

公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団 国内研究助成「標本×遺伝×形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守るー琵琶湖淀川水系産モロコ類を例にー」(研究代表者:川瀬成吾), 分担者(2022年度～2023年度).

生きもの総合調査委員会 魚類部会, 2023年度.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会若手の会, 世話人.

日本動物園水族館協会, 全国水族館技術者研究会, 発表賞審査員.

生きもの総合調査委員会 魚類部会, 委員(2023年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年, 京都大学農学部学生, シマドジョウ類におけるDNA分析.

2023年, 京都大学大学院理学研究科修士課程学生, ヒナモロコにおけるDNA分析.

2023年, 京都大学大学院理学研究科修士課程学生, アユモドキにおけるDNA分析.

2023年, 京都大学大学院理学研究科修士課程学生, イトモロコ・ズナガニゴイ・ムギツクにおけるDNA分析.

2023年, 京都大学大学院理学研究科博士課程学生, イタセンパラ・ネコギギにおけるDNA分析.

2023年, 京都大学大学院理学研究科博士課程学生, ミヤコタナゴ・ヨシノボリ類におけるDNA分析.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.

クエリの質問対応, 魚類に関する質問への対応, 10件.

ディスカバリールームイベント, 主担当, 4件.

はしかけグループ「うおの会」, 主担当, 特別採捕許可の申請, 館内イベントでの連絡調整.

メディアへの対応

テレビ番組への協力, 出演・コメント提供, 4件.

新聞への協力, コメント提供, 6件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集，担当.
水族設備維持管理，担当.
水族飼育管理，予算担当.
水族保護増殖事業，担当.
魚類標本，担当.

他の博物館・機関等の活動

龍谷大学，水族生体資料特別観覧.
京都大学，魚類液浸資料特別観覧.
東北大学，水族関係資料特別観覧.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

大人のディスカバリー魚類コーナー，主担当.
A 展示室魚類コーナー，担当.
水族展示室，展示維持管理担当.
水族展示室，オオナマズ水槽破損事故対応，担当.
水族展示室，水族展示室再生事業，担当.
モーニングレクチャー，講義「水族展示室」，1回（4日）.

【研究部関連事業】

外部研究資金，担当.
コンプレッサー室維持管理，担当.
韓国洛東江川生物資源館との交流，担当.
バイカル博物館との交流，担当.

館内の人事・館外活動に関すること

【海外渡航】

2023年9月19日～21日，韓国・国立洛東江生物資源館，MOUに関する両機関長協議.

【館外の活動】

環境省，淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会
環境省および日本動物園水族館協会，生物多様性保全の推進に関する基本協定（スジシマドジョウ類総括およびタンゴスジシマドジョウ担当園館）
三重県教育委員会，天然記念物ネコギギ保護調査員
日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会，副類別調整者，種別管理者（アユモドキ，ネコギギ），
調査種担当（タンゴスジシマドジョウ）

2023年度の研究活動は、主に下記の2テーマに沿って実施した。

(1) 琵琶湖流入河川および淀川流域における近世・近代河川管理関係資料の研究

主に2023年度専門研究および日本学術振興会科学研究費の研究課題の一環で、①比良山麓地域（大津市旧志賀町域のうち八屋戸以北）の中小諸河川、②瀬田川ほか淀川流域、③吾妻川（大津市）を事例地とし、当該地域の古地図および堤防等の普請や土砂流出・堆積への対応について記した古文書を調査した。①については、近世の地図や文書に記載された沈砂池や水路に堆積した土砂を流す慣行について、総合地球環境学研究所による成果公表の一環で「地球研叢書」所収の論考にまとめた。②については、京都産業大学図書館が所蔵する18世紀末から19世紀初頭の淀藩の土砂留め管理管轄区域を描いた地図帳を調査し、その成果を同大学日本文化研究所の紀要に論文として公表した。③については、19世紀初頭の吾妻川を描いた当館および県内機関所蔵の資料を分析し、その成果を学会で口頭発表した。また、年度途中から、④愛知川中下流域における水制の一種、サルオ（猿尾）の復原研究に参画した。地形学、生態学、河川工学などを専門とする研究者と共同で、愛知川河岸に現存し、古地図・古文書にもその存在が確認できるサルオについて、レーザー測量と歴史資料の分析、現地踏査、聞き取りによって場所や規模を特定し、近世から現在にいたるサルオの立地や管理の様相や洪水対策としての機能を検証する試みである。一般財団法人河川情報センターの研究助成を受けたプロジェクトチームのメンバーとして、いくつかの地域での歴史資料の調査や住民への聞き取りを進めている。

(2) 近世地図出版の研究

日本では17世紀以降に地図の商業出版が盛んにおこなわれ、世界、日本、令制国、河川、都市といった単位で、不特定多数への地理情報の伝播と共有が進み、特定の視座からの自然環境の認知や地域イメージの流通が活発化した。当館がテーマとしている自然と人間の関係の歴史について、日本近世における地図を主たる素材とし、地理情報の流通という観点から見直す取り組みを進めている。

主に日本学術振興会科学研究費の研究課題の一環で、近世の大坂における都市図・河川絵図・災害図等の地図出版の社会的状況について、大坂本屋仲間記録の記述と現存する出版地図の書誌学的分析を交えて検討した。今年度は特に、火災発生後にその焼失範囲を描いた都市火災図の出版と、平時から都市図等を出版していた書肆との関わりについて分析し、その成果を学会で口頭発表した。

2023年度の博物館事業に関する活動は、分掌にしたがい、主に下記の内容について実施した。

A. 総務部企画・広報営業課

広報部門のうち、取材依頼や記事校正に関すること、資料提供・プレスリリースに関すること、SNS情報の管理に関することについて、主担当として対応した。特に、当該の業務についてマニュアルを整備し、対応のフローチャートづくり、過去データおよび現用資料のデータの整理によって、次年度以降をも想定した業務のルーティン化・円滑化・負担軽減につとめた。また、博物館公式SNSの発信についても、副担当としての立場から積極的に記事の投稿を呼びかけ、自らも率先して記事を作成・投稿した。

B. 歴史資料担当

歴史分野の主担当として、特別観覧への対応や、今後のデジタルアーカイブ公開に向けた歴史資料のデジタル画像作成（スキャナを用いたフィルムデジタル化、およびDX事業に基づく高精細デジタル撮影（後者は妹尾学芸員らと共同で作業）をおこなった。また、特別収蔵庫管理の主担当、一時保管庫管理の副担当として、日常の収蔵庫の清掃・維持管理作業をおこなった。

C. その他研究部業務

研究倫理研修副担当（2023年9月21日以降は、主担当者の特別休暇にともない主担当業務を実施）として、外部講師を招いた研究倫理研修の準備、当日の運営、欠席者の事後受講に関する庶務をおこなった。また、新琵琶湖学セミナー主担当として、2024年1～3月開催の連続講演会「新琵琶湖学セミナー」の準備、広報、当日の運営等をおこなった。

印刷物

【学術論文】

島本多敬・鈴木康久（2024）絵図からみる淀藩の土砂留め管理—「城州江州土砂留場絵図」の検討—。京都産業大学日本文化研究所紀要, 29: 11-67.

【専門分野の著作】

- 島本多敬 (2023) 金田章裕著『琵琶湖』—水辺の文化的景観—. *人文地理* (人文地理学会), 75 (4), 440-441.
- 渡部圭一・島本多敬 (2024) 山の荒廃と土砂対応. 吉田丈人・深町加津枝・三好岩生・落合知帆 編, *地球研叢書 災害対応の伝統知—比良山麓の里山から—*, 昭和堂, 京都, 57-78.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 島本多敬 (2023年6月3日) 歴史地理学と日本近世史—土砂留め絵図を素材に—. 第25回洛北史学会大会 (洛北史学会), 教養教育共同化施設「稲盛記念会館」(京都府京都市), [口頭発表].
- Ogura, T., Mizuno, T., Shimamoto, K., Katayama, D. and Hattanji, T. (2023年6月12日) Visualization of Traditional Flood Control Methods Buried in Riparian Forests Using UAV-LiDAR Measurements—Case Study of Echi River, Central Japan—. 2023 ICEO&SI Conference, National Taiwan University(Taipei).
- 島本多敬 (2023年11月25日) 渡部圭一報告へのコメント. 第162回人文地理学会歴史地理研究部会「『はげ山』再考」(人文地理学会歴史地理研究部会), 法政大学市ヶ谷キャンパス (東京都千代田区), [コメンテーター].
- 島本多敬 (2023年11月26日) 播磨屋九兵衛の災害図出版—19世紀前期大坂の地図板元による地理情報の権利化—. 2023年人文地理学会大会, 法政大学市ヶ谷キャンパス (東京都千代田区), [口頭発表].
- 島本多敬・鈴木康久 (2024年2月16日) 「城州江州土砂留場絵図」にみる淀藩の土砂留め管理—絵図の機能論的検討—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 小倉拓郎・島本多敬・水野敏明・山内啓之・片山大輔・八反地剛 (2024年3月20日) 高精細地理情報と絵図を用いたEco-DRR施設の可視化—滋賀県愛知川中流域・猿尾の事例—. 日本地理学会2024年春季学術大会 シンポジウムS6「地形・植生・人の見えないつながりを見える化する—高精細地理情報を用いた流域内コネクティビティの研究—」, 青山学院大学青山キャンパス (東京都渋谷区), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「19世紀中期以降の滋賀における治水に関する文書・図面類の資料学的研究」, (2023年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「歴史景観生態学からみた森と人の関係」(研究代表者: 妹尾裕介), 研究分担者 (2021年度~2023年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系の季節変動モニタリング —植生・河川・土地利用の時間空間変動解析—」(研究代表者: 美濃部諭子), 研究分担者 (2023年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究分担者 (2019~2025年度).
- 科学研究費助成事業(若手)「日本近世の河川管理システムにおける絵図の機能の解明」(研究代表者: 島本多敬), 研究代表者 (2021~2025年度).
- 一般財団法人河川情報センター研究助成「Eco-DRR デジタルデータベースを利用した水害伝統知の教育普及」(研究代表者: 兵庫教育大学・小倉拓郎), 共同研究者 (2023年10月~2025年9月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 人文地理学会歴史地理研究部会, 世話人, 2019年11月~2023年10月.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2023年度博物館実習, 資料整理実習(歴史分野), 2023年8月22日.
- 2023年9月27日~11月29日, 京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科, 人文地理学I(島本多敬担当).
- 2023年11月29日~2023年1月26日, 京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科, 人文地理学II(島本多敬担当),

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー12件, フロアトーク9件.

2023年6月13日, 須原魚のゆりかご水田オンライン観察会2023, 野洲市須原, オンライン配信補助, 1件.

他の博物館・機関等の主催行事

- 2023年7月1日、講演「琵琶湖博物館の活動と歴史学・地理学」、佛教大学網島聖ゼミ臨地研修（佛教大学・網島聖氏）、琵琶湖博物館、講師。
- 2023年9月6日、講演「災害対応の知は歴史のなかに～史資料、景観、古老のお話～」、第83回防災カフェ（滋賀県防災危機管理局）、滋賀県危機管理センター（滋賀県大津市）＋オンライン、ゲスト。
- 2023年12月22日、発表「地図から読み解く近江の治水史」、令和5年度滋賀県試験研究機関研究発表会～滋賀の未来を創る試験研究（滋賀県試験研究機関連絡会議）、オンライン、発表者。

視察等への対応

- 2023年10月29日、滋賀県史編さん担当職員実地研修（講義および展示見学）、滋賀県立公文書館、琵琶湖博物館。

メディアへの対応

- 2023年8月29日、テレビ東京系列「おはスタ：シン・おはガール 全国イッテラリレポート！滋賀編」、B展示室解説出演（2023年8月2日）。
- 2024年3月23日・30日、BSよしもと「レギュラーの全国あるある探検隊」、出演者向けレクチャーおよび解説出演（2024年1月29日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 歴史資料分野、主担当。
- 特別収蔵庫管理、主担当。
- 一時保管庫管理、副担当。
- 歴史資料特別観覧対応、4件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 常設展示、B展示室維持管理、湖ゾーン担当。
- B展示室館蔵品紹介コーナー、統括
- トピック展示（B展示室館蔵品紹介コーナー）、第17回学芸員のこだわり展示「初公開！県指定文化財「北比良の石屋用具」」（2023年5月23日～7月30日）、副担当。
- トピック展示（B展示室館蔵品紹介コーナー）、第18回学芸員のこだわり展示「壺と高坏—土器からみる弥生文化—」（2023年8月1日～10月15日）、副担当。
- トピック展示（B展示室館蔵品紹介コーナー）、第19回学芸員のこだわり展示「重要文化財・琵琶湖博物館所蔵東寺文書展 戦国時代の災害調査—流田内検帳—」（2023年10月17日～11月26日）、副担当。
- トピック展示（B展示室館蔵品紹介コーナー）、第20回学芸員のこだわり展示「発見！滋賀県独自の民具資料—目加田唐箕—」（2023年11月28日～2024年1月21日）、副担当。
- トピック展示（B展示室館蔵品紹介コーナー）、第21回学芸員のこだわり展示「琵琶湖博物館の龍骨図」（2024年1月27日～3月9日）、主担当。
- トピック展示（B展示室館蔵品紹介コーナー）、第22回学芸員のこだわり展示「村のかたち：滋賀郡中浜村」（2024年3月12日～5月19日）、主担当。
- 展示交流員と話そう、大津市旧志賀町域におけるシシガキや石材利用に関する参考文献紹介。
- 2023年9月25日、展示交流員フィールド研修、大津市北比良の山林利用と景観に関する講義・実地案内。

【企画調整活動】

- 新任職員研修、B展示室湖ゾーン・館蔵品紹介コーナーの説明（2023年4月20日）。

【広報営業活動】

- 取材対応・記事校正等に関すること、主担当。
- 資料提供・プレスリリースに関すること、主担当。
- YouTube 動画制作、SNS 等による情報発信に関すること、副担当。
- SNS 情報の管理に関すること、主担当。

【研究部関連事業】

- 研究倫理研修、副担当（2023年9月20日以降、主担当業務を兼任）。

新琵琶湖学セミナー，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

立命館大学歴史都市防災研究所，客員協力研究員（2020年4月1日～2024年3月31日）.

琵琶湖および他の湖沼周辺で営まれる人びとの暮らしと、これに関わる物質文化の比較研究を進めている。これと併行して湖沼環境を利用した水産資源増殖に関わる様々な取り組みが、それぞれの湖沼と地域社会に与えた影響を調査している。

資料活用係では民俗・環境・映像・図書資料の収集、整理、活用に関する業務と収蔵施設の温湿度管理、防虫防黴、資料燻蒸を担当した。また本年度から DX 事業における GIS 構築に関わる業務に携わり、琵琶湖博物館の収蔵資料データベースとデジタルマップの連携に向けた作業に着手した。

【研究活動】

(1) 専門研究「湖沼に関する民俗知の基礎的研究」

本年度は青森県の十和田湖と石川県の河北潟でフィールドワークを行い、それぞれの湖沼における資源利用について調査を行った。前者については明治期に試みられたヒメマスの放流が当該地域の生業に大きな影響を与えたことが確認され、その功労者に対する顕彰活動など民俗学的も興味深い事例の調査を行うことができた。後者については琵琶湖の内湖における干拓との比較研究を意図した調査を行った。河北潟は1985年に干拓が完了しており、現在はスイカやレンコンの栽培が行われている。この調査を踏まえて今後は湖沼における水産資源の利用・増殖だけでなく、干拓をはじめとする環境変化が人びとの暮らしにいかなる影響を与えたのか調査を進める予定である。

(2) 科研費・若手研究「琵琶湖産アユ種苗の流通ネットワークに関する広域民俗誌の試み」

2023年度は3か年計画で実施する科研費・若手研究の2年目であり、琵琶湖に生息するコアユの近代における資源化と流通ネットワークの展開について、安曇川人工河川、養殖業者などでフィールドワークを行った。人工河川では天然アユの産卵量に応じた人工河川からの仔魚の放流と関連設備の調査を行い、養殖業者では魚病対策を実地ではどのように行っているか聞き取りを行った。その成果の一部は「琵琶湖とアユの話」(2023年12月～2月)と題した新聞連載で発表した。

【事業活動】

資料活用係として収蔵環境の温湿度管理と防虫防黴に関わる業務に従事し、燻蒸庫におけるCO2燻蒸(年4回)とエキヒューム燻蒸(年2回)、テント式燻蒸(年1回)を実施した。資料整理について特筆すべき点は画像データベースのリニューアルを行い、環境・動物・民俗に関わる画像1082件を公開したことが挙げられる。また企画展示「おこめ展：おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然」の副担当として企画立案・運営に携わった。

印刷物

【専門分野の著作】

渡部圭一・加藤秀雄(2023)研究者旧蔵資料のデジタルアーカイブ化の課題—地域博物館の取り組みを例に—。アジア民族文化研究, 22:163-178.

加藤秀雄(2023)人・動物の境界を揺るがすもの—動物の言語使用と人間的な振る舞いについて—。動物たちの日本近代—ひとびとはその死と痛みに向きあってきたのか—。ナカニシヤ出版, 245-266.

加藤秀雄(2023)神を助けた俵藤太と猿丸太夫(2)—二荒山信仰と小野猿丸—。淡海文化財論叢, 15:252-256.

加藤秀雄(2023)「妹の力」から女のための民俗学へ—瀬川清子の関心をめぐる—考察—。女性の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程(アジア遊学)。勉誠社, 220-231.

【一般向けの著作】

加藤秀雄(2023)日本の辻、琵琶湖をゆく。鳥梅 2023年夏, 42, 叶匠寿庵, 6月1日。

加藤秀雄(2023)フィールドへびわ博いちおし ⑩ 湖上交通で運ばれた石。京都新聞滋賀版, 6月23日。

加藤秀雄(2023)コアユの「出世」支える伝統漁法。湖国と文化, 184, (公財)びわ湖芸術文化財団, 58-59。

加藤秀雄(2023)ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 琵琶湖とアユの話① 「コアユ」の旅 100年前に始まる。朝日新聞滋賀版, 12月18日。

加藤秀雄(2023)ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 琵琶湖とアユの話② 氷魚 伝統の鮎漁で生け捕り。朝日新聞滋賀版, 1月15日。

加藤秀雄(2023)ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 琵琶湖とアユの話③ 湖産種苗養殖 各地に広がる。朝日新聞滋賀版, 1月29日。

加藤秀雄(2023)ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 琵琶湖とアユの話④ 資源守る 科学×環境民俗学。朝日新聞滋賀版, 2月12日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 加藤秀雄・山本充孝（2023年5月19日）湖産アユ種苗の需要と供給体制の展開をめぐって。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 加藤秀雄（2023年10月21日）民俗学でつながる、民俗学をつなげる－フィールドワークのこれからを考える
－. 日本民俗学会，成城大学，[口頭発表].
- 加藤秀雄（2023年12月13日）民俗研究におけるテキスト遺産の活用－南方熊楠の国際的・学際的方法を事例に
－. 現代民俗学会，早稲田大学，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「湖沼に関する民俗知の基礎的研究」，（2023年度）.
- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：亀田佳代子），共同研究者（2019年度～2023年度）.
- 科学研究費助成事業（若手研究）「日琵琶湖産アユ種苗の流通ネットワークに関する広域民俗誌の試み」（研究代表者：加藤秀雄），研究代表者（2022～2024年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 現代民俗学会 研究企画委員（2022年5月～）.
- 日本民具学会 評議員（2022年9月～）.
- 日本民俗学会第75回年会実行委員（2023年2月～）.
- 熊楠研究，査読，1件.
- 日本民俗学，査読，1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2023年6月11日，京都文教大学，京都芸術大学，博物館資料保存論.
- 2023年8月1日，佛教大学，博物館実習Ⅱ.
- 2023年8月27・31日，龍谷大学，びわ湖滋賀学.
- 2023年10月28日，中央大学附属中学校，琵琶湖の概要とMLGs.
- 2024年2月15日，成安造形大学，琵琶湖の民俗史.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

- 琵琶湖博物館の主催行事*
- 質問コーナー，12回.
- クエリ，回答，2件.

視察等への対応

- 2023年11月17日，視察対応，国際連合食糧農業機関，琵琶湖博物館.
- 2024年2月27日，視察対応，国際青少年サイエンス交流事業さくらサイエンスプログラム，琵琶湖博物館.

メディアへの対応

- 2023年7月17日，びわ湖放送，BBCニュース「おこめ展」，取材対応，（2023年7月16日）.

【情報整備活動】

- 琵琶湖博物館の活動*
- 琵琶湖博物館公式YouTubeチャンネル，びわこのちからチャンネル「地引網」，撮影，1件.

【資料整備活動】

- 琵琶湖博物館の活動*
- 民俗資料整備，収蔵庫維持管理，担当.
- 環境資料整備，収蔵庫維持管理，担当.
- 映像資料整備，収蔵庫維持管理，担当.

図書・文献資料の収集整理，担当。
収蔵施設等の温湿度管理，担当。
収蔵施設等の防虫防バイ対策，担当。
二酸化炭素燻蒸（燻蒸庫），担当，4件。
エキヒュームS燻蒸（燻蒸庫・テント・包み込み），担当，3件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

トピック展示（B展示室館蔵品紹介コーナー），第17回学芸員のこだわり展示「初公開！県指定文化財「北比良の石屋用具」」，2023年5月23日～7月30日，担当。
トピック展示（B展示室館蔵品紹介コーナー），第20回学芸員のこだわり展示「発見！滋賀県独自の民具資料一目加田唐箕ー」，2023年11月28日～2024年1月21日，担当。
モーニングレクチャー，講義「北比良の石屋用具」，1回（4日）。

【企画調整活動】

2023年度滋賀県博物館協議会委員，広報委員。

【研究部関連事業】

外部研究者（特別研究員、研究協力員等の受入，担当）
琵琶湖博物館特別研究員（辻川智代・増田敬祐），受入担当。
琵琶湖博物館研究協力員（市川秀之・大塚活美・米田実），受入担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

山中湖村史編纂委員会，山中湖村史編纂調査員（2021年4月～）。

古琵琶湖層群ないしそれと同時期の国内における新生代後半の陸生哺乳類化石相を明らかにすること、およびそのユーラシアの化石動物相における意義について研究を行っている。

本年度は琵琶湖博物館の所蔵する大分県宇佐市で発見されたサイ化石を記載し、これと古琵琶湖層群の化石記録を含めた鮮新世の日本のサイ化石の古生物地理学的意義を考察し、国際学術雑誌へ公表した。また国内の鮮新世～更新世サイ化石記録について、その分類の刷新、産出年代の修整および東アジアから日本への移動経路について総括し、これを学会発表で公表した。このほか専門研究の一環として、神奈川県および兵庫県で産出した中新世サイ化石2点の分類を再検討した。海外調査として、科学研究費助成事業(基盤C)の一環としてタイ北東部のナコンラチャシマ市において、同地で収集されている哺乳類化石の分類作業を行った。具体的には上記地域で採集された奇蹄類およびキリン化石の分類を行った。加えて、この調査の成果として、同市のシンチャルーン採砂場から発見された脊椎動物化石群集の報告を、共著者として国際学術雑誌に公表した。このほか科研費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))の一環として、ミャンマー国内で発見された陸生哺乳類化石を調査した。具体的にはキリン化石を観察し、その分類の検討および形態変化を検討するための計測に取り組んだ。

学芸業務においては企画・広報営業課に配属され、下記の業務に従事した。視察・研修等受入担当として国内外の政府関係者、教育機関、博物館、および企業から申し出のあった視察に対応した。館外連携について、博物館関係の協議会等の情報共有および総会等への参加者について調整役を担った。全国科学博物館協議会総会・研究発表会が琵琶湖博物館で開催され、この運営にあたった。展示については、音声ガイドの多言語化のため、展示案内アプリ「ポケット学芸員」の英語版音声ガイドを導入した。資料活用については、館外から依頼のあった地学標本および動物標本の観察および借用に対応した。

印刷物

【学術論文】

- Handa, N., Kato, T., Takahashi, K., Baba, R. and Kitabayashi, E. (2023) An additional remain of Pliocene Rhinocerotidae from Ajimu, western Japan. *Historical Biology*: 1-7.
- Naksri, W., Nishioka, Y., Duangkrayom, J., Métais, G., Handa, N., Jintasakul, P., Martin, J.E., Sila, S., Sukdi, W., Suasamong, K., Tong, H. and Claude, J. (2023) A new Miocene and Pleistocene continental locality from Nakhon Ratchasima in Northeastern Thailand and its importance for vertebrate biogeography. *Annales de Paléontologie*, Volume 109(Issue 4): 1-20.

【専門分野の著作】

- 半田直人(2023)直良コレクションのサイ科化石. *国立歴史民俗博物館研究報告*, 第243集: 71-79.
- 地学団体研究会 編(2024) *最新 地学事典*, 平凡社, 2046p. (一部執筆)

【一般向けの著作】

- 半田直人(2023)書評「化石の復元、承ります 古生物復元師たちのおしごと」. *化石*, 114: 69-70.
- 半田直人(2023)書評「日本の気候変動5000万年史 四季のある気候はいかにして誕生したのか」. *化石研究会誌*, 55巻 第2号: 67.
- 半田直人(2024)書評「哺乳類前史—起源と進化をめぐる語られざる物語—」. *化石*, 115: 93.
- 半田直人(2024)化石友の会普及講演会「稲井層群の古脊椎動物—ひとちぼっちじゃなかった歌津魚竜—」開催報告. *化石*, 115: 109.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 半田直人(2023年6月16日)日本のサイ化石研究と今後の展望. 琵琶湖博物館研究セミナー. 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Handa, N. (2023年8月3日~6日) A review of late Cenozoic fossil Rhinocerotidae from Japan. 2nd Asian Palaeontological Congress, The University of Tokyo, [ポスター発表].

半田直人 (2023年9月8日～11日)日本の鮮新世～更新世サイ化石研究の現状と今後の展望. 日本哺乳類学会 2023年度大会 100周年記念沖縄大会自由集会. 琉球大学, [口頭発表].
半田直人・樽 創 (2023年9月17日～19日)神奈川県上部中新統大磯層から産出したサイ科化石の分類学的再検討. 日本地質学会第130年学術大会. 京都大学 (京都府), [口頭発表].
半田直人・國松 豊・西岡佑一郎・日下宗一郎 (2024年1月26日～28日)タイ北東部コラート地域プラプット・サンドピットの中新世サイ科化石群集. 日本古生物学会第173回例会, 東北大学, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群を中心としたアジアにおける陸生哺乳類化石相の変遷解明」(2023年度). 科学研究費助成事業 (基盤C)「東南アジア中新世後期におけるヒト上科・オナガザル上科の進化と生息環境の解明」(研究代表者: 龍谷大学・國松 豊), 分担 (2021年度～2023年度).
科学研究費助成事業 (基盤B)「モンゴルにおける最初期ホモサピエンスの適応的・行動的多様性の形成」(研究代表者: 東京都立大学・出穂雅実), 分担 (2022年度～2025年度).
科学研究費助成事業 (国際共同研究加速金 (国際共同研究強化B))「森林減少に伴う脊椎動物高次分類群の多様性共変動パターンの解明」(研究代表者: 京都大学・富谷 進), 分担 (2022年10月～2027年3月).
多賀町立博物館, アケボノゾウ発掘プロジェクト第10次発掘, メンバー.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本古生物学会 化石友の会幹事. 2023年6月～2025年6月.
化石, 第四紀研究, Frontiers in Earth Science, Historical Biology, Journal of Systematic Paleontology, Mammal Study, Paläontologische Zeitschrift, PeerJ, Zoological Journal of Linnean Society, 査読, 10件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年4月～2024年3月, 京都大学大学院博士課程学生, 研究の助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 11件.
はしかけ「ほねほねくらぶ」, 担当, 19件.
2023年11月19日, びわ博フェス, 口頭発表, 交流会・出席.

他の博物館・機関等の主催行事

2024年3月9日, ライオンズクラブ環境セミナー, 琵琶湖博物館, 運営準備・支援.

視察等への対応

2024年3月14日, 展示案内と施設説明, 山形県立博物館・山形県観光文化スポーツ部博物館・文化財活用課, 琵琶湖博物館.

メディアへの対応

2023年6月27日, 毎日新聞「350万年前のサイの下顎化石、大分で発見 中国北部と同種か」, 記事内容の助言 (2023年6月26日取材対応).
2023年7月9日, 大分新聞「安心院でサイの化石」, 記事内容の助言 (2023年6月26日取材対応).
2024年2月2日, クイズあなたは小学5年生より賢いの?, 監修, (2024年12月18日取材対応).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学標本整備, 収蔵庫維持管理, 担当.
DX事業, 3Dコンテンツ哺乳類担当 (9月から).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

A 展示室, 維持・管理.

モーニングレクチャー, 講義「古琵琶湖層群の哺乳類化石」, 1回 (4日).

音声ガイドの多言語化, 英語の音声ガイド導入.

他博物館・機関の活動

千葉県立中央博物館, 令和5年度特別展よみがえるチバニアン期の古生物 (2023年7月15日～9月18日), 古生物復元画の監修.

【企画調整活動】

研修・実習等に関すること, 副担当

来館者アンケートに関すること, 副担当

博物館刊行物の在庫管理に関すること, 主担当

視察・研修・地域連携に関すること, 主担当

滋賀県博物館協議会に関すること, 主担当

国内の博物館等の協定等に関すること, 主担当

情報システムの基盤設備と運用に関すること, 副担当

音声ガイドのシステム管理に関すること, 主担当

令和5年度滋賀県立琵琶湖博物館年報, 編集担当.

令和5年度滋賀県立琵琶湖博物館研究業績目録, 編集担当.

2023年11月15日～11月16日, 日本博物館協会大会, 日本博物館協会, 千葉県, 参加.

2024年2月20日～2月21日, 全国科学博物館協会総会・研究会, 琵琶湖博物館, 運営準備・支援.

【研究部関連事業】

国内機関 (NORNAC, 野生動物研究センター) との連携, 情報共有.

地学研究発表会, 準備・運営, 2024年2月18日.

館内の人事・館外活動に関すること

【海外渡航】

2023年10月26日～11月2日, ミャンマー・ヤンゴン市, 科研費国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) に関連するミャンマーで発見された哺乳類化石の分類学的調査.

2024年2月26日～3月6日, タイ・ナコンラチャシマ市, 科研費基盤研究 (C) に関連するタイで発見された哺乳類化石の分類学的調査.

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、世界の中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

研究面では、外部研究資金である文部科学省の科学研究費補助金（科研費）を獲得した。これで研究代表者としての採択は通算 6 回目となった。今回採択された研究課題は「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」である。国内では 4 月から 6 月にかけて九州、中国、近畿地方の河口干潟で野外調査を行った。国外では 6 月に韓国、7 月にはアメリカの河口干潟で野外調査を行った。これらの地域に固有な種（未記載を含む）を多数採集できた。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製を行っている。アメリカ合衆国ネバダ州リノで開催された第 10 回国際双翅目会議において「Distributional range limits of undescribed long-legged flies (Dolichopodidae: Hydrophorinae) inhabiting the intertidal zone of remote islands in Japan「日本の離島の潮間帯に生息する小型のアシナガバエの未記載種の分類学的位置」というタイトルで口頭発表を行った。また、会議の開催期間中に行われた理事会に出席した。

事業面では、C 展示室のこれからの琵琶湖の研究タジウムを第 8 期に更新した。

印刷物

【学術論文】

Masunaga, K. (2023) Distributional range limits of undescribed long-legged flies (Dolichopodidae: Hydrophorinae) inhabiting the intertidal zone of remote islands in Japan. Tenth International Congresses of Dipterology (Reno, Nevada, USA), North American Dipterists Society, Abstracts Volume, 130.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

Masunaga, K. (2023 年 7 月 19 日) Distributional range limits of undescribed long-legged flies (Dolichopodidae: Hydrophorinae) inhabiting the intertidal zone of remote islands in Japan. 10 th International Congresses of Dipterology, アメリカ・ネバダ州リノ, [口頭発表].

榊永一宏 (2024 年 2 月 16 日) 日本から発見された東アジアと北米東部に隔離分布する *Hypocharassus* 属のアシナガバエ. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究」, (2023 年度).

科学研究費助成事業（基盤 C）「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」(研究代表者：榊永一宏), 研究代表者 (2022 年度～2024 年度).

【学会等の役職・運営, 論文の査読など】

International Congresses of Dipterology, Members of the Council, 2014 年 8 月～.

XXVII International Congress of Entomology, Photo Competition, 担当, 2022 年 10 月～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導】

2023年度博物館実習，講師「収蔵庫見学」・琵琶湖博物館（2023年8月22日）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，琵琶湖博物館，12件。

他の博物館・機関等主催行事

2023年5月27日，ゲンジボタルの一生を知ろう&観察会，小さな自然再生ネットワーク，コミュニティセンター大宝（栗東市），講師。

2023年6月3日，ホタルの生態について，環境講座「ホタル観察学習会」，栗東市教育委員会生涯学習課，コミュニティセンター金勝（栗東市），講師。

2023年6月9日，ホタルの生態について，環境講座「ホタル観察学習会」，栗東市教育委員会生涯学習課，コミュニティセンター葉山（栗東市），講師。

2024年3月5日，「水生昆虫の種類、生態、環境との関わりについて」，吹田市吹三地区公民館，琵琶湖博物館セミナー室，講師。

視察等への対応

2023年11月21日，おとなのディスカバリー，能勢町教育委員会，琵琶湖博物館。

2023年12月7日，おとなのディスカバリー，洛東江生物資源館，琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース，維持管理。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

液浸収蔵庫維持管理，担当。

日本産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），500件。

クエリの質問対応，昆虫に関する質問への回答。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2023年度，C展示室「これからの琵琶湖」コーナーの展示更新と維持管理。

2023年度，E展示室「おとなのディスカバリー」の維持管理。

2023年度，研究最前線更新，1回。

モーニングレクチャー，講義「おとなのディスカバリー」，1回（4日）。

【企画調整活動】

新任職員研修，C展示室これからの琵琶湖，講師（2023年4月20日）。

新任職員研修，おとなのディスカバリー，講師（2023年4月20日）。

水族展示復活へ！トンネル水槽再生にご支援を 琵琶湖博物館【第1弾】活動報告，ビワコムシと質問コーナー，2023年12月1日，琵琶湖博物館公式Web。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023年度、生物多様性しが戦略推進会議連絡員。

【海外渡航】

2023年6月17日～23日、韓国・野外調査，科研費。

2023年7月11日～27日、アメリカ・国際学会発表と野外調査，科研費。

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，専門委員（2003年4月～）。

鹿児島昆虫相調査会，専門委員（2022年11月～）。

総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」の琵琶湖班を担当し、変化の大きな軸となる水位および水質の 150 年間の変動についての整理とまとめを行ってきた。また、個人的な担当としては南湖の沈水植物の長期変遷の解明に取り組んでいる。

2022 年に起こった定量調査の結果を論文として公表するとともに、1930 年代の藻採りによる沈水植物の除去量を推定した論文を投稿し受理された（2024 年 4 月掲載予定）。

研究部長の業務では、研究活動が遅滞なく行えるよう、基本的な庶務用務を丁寧に行った。

印刷物

【学術論文】

芳賀裕樹・芦谷美奈子・酒井陽一郎・石川可奈子（2023）琵琶湖南湖の 2022 年 8 月末の沈水植物の現存量分布、ならびに著しい沈水植物相の変化について. *陸水学雑誌*, 68 : 175-185.

【一般向けの著作】

芳賀裕樹（2023）琵琶湖センス・オブ・ワンダー（11）水面下に広がる大草原. *湖国と文化*, びわ湖芸術文化財団, 58-59.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

正木紫苑・堂満華子・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・芳賀裕樹・加三千宣・廣瀬孝太郎（2023 年 5 月 13 日）琵琶湖南湖における過去 30 年間の珪藻群集変化と湖内環境変化. 日本珪藻学会第 44 回大会, 日本珪藻学会, 文教大学東京あだちキャンパス（東京都足立区）, [ポスター発表].

里口保文・加三千宣・林 竜馬・芳賀裕樹（2023 年 9 月 1 日）琵琶湖南湖と北湖の泥質堆積物の堆積速度比較. 日本第四紀学会 2023 年大会, 日本第四紀学会, 早稲田大学所沢キャンパス（所沢市）, [ポスター発表].

石川可奈子・蔡 吉・芳賀裕樹（2024 年 3 月 29 日）人工衛星による植生指数（NDVI）を用いた水草モニタリング手法の実用化に向けた考察. 令和 6 年度日本水産学会大会春季大会, 日本水産学会, 東京海洋大学品川キャンパス（東京都品川区）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：亀田佳代子）, 研究分担者（2019 年度～2027 年度）.

伊藤忠商事株式会社, 連携研究.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023 年 8 月 9 日, 滋賀大学集中講義 令和 5 年度社会教育主事講習「博物館の経営戦略」, 滋賀大学瀬田キャンパス, 講師.

2023 年度博物館実習, 琵琶湖博物館の研究, 2023 年 8 月 21 日.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 10 件.

インターネットを通じた質問への対応, 5 件.

他の博物館・機関等の主催行事

2023 年 12 月 16 日, 環境授業「出会おう！感じよう！楽しもう！地球を動かすマイクロな生き物たち」, 村田製作所（株）, 琵琶湖博物館実習室, 共同開催.

2024年3月30日，子どもロケット教室，NPO法人草津未来プロジェクト，琵琶湖博物館セミナー室・職員駐車場，共同開催.

視察等への対応

2024年3月9日，館内案内，駐日ニカラグア全権大使.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式YouTubeチャンネル，びわこのちからチャンネル「江戸時代の藻採りに挑戦」，撮影，1件.

琵琶湖博物館公式YouTubeチャンネル，びわこのちからチャンネル，ショート動画公開，1件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「琵琶湖の治水・利水について」，1回（4日）.

【企画調整活動】

新任職員研修，琵琶湖博物館の研究について（2023年4月18日）.

【研究部関連事業】

研究部長.

滋賀県試験研究機関連絡会議，幹事.

滋賀県琵琶湖環境研究推進機構，幹事.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

水草対策チーム（滋賀県），チーム員（2023年度）.

魚たちのにぎわいを復活させるプロジェクト会議（滋賀県），委員（2023年度）.

新たに立ち上げたデジタルミュージアム推進事業と、学会関連の諸業務に翻弄された1年だった。しかしここでは紙面の都合上、今年度に論文などとして成果公表された研究と、進展が見られた研究を中心に記述する。

琵琶湖からこれまで報告されていないラン藻 *Raphidiopsis raciborskii* が、2022年10月以降に、琵琶湖南湖近くの琵琶湖博物館生態観察池でブルームを形成したので、出現状況を論文報告した。この種は熱帯性と考えられており、25°C以上でのみブルームを形成するとされてきた。しかし、この池では水温が10°Cを下回る12月20日まで優占が続いた。この種には、肝臓毒シリンドロスペルモブシンと麻痺性貝中毒を引き起こすサキントキシンを産生する系統があることが知られている。したがって、琵琶湖及びその周辺で発生した本種の毒性を確認し、その動向に注意を払う必要がある。なお本種は2023年夏にも生態観察池で前年度を上回る規模ブルームを形成している。現在進めている池干しによって本種の発生が抑えられるか経過観察したい。

2023年2月25日に行われた関西自然保護機構のシンポジウム「『視えない』外来種問題」で話した内容を大幅に増補修正した特集記事を、「地域自然史と保全」誌に掲載した。琵琶湖盆では近年、新顔の微細藻類が次々と発見され、その一部は大繁殖してブルームを形成している。その中には外来種かその可能性がある種が多く含まれている。こうした新顔の微細藻類のうち、ブルームを形成したか、近い将来にその可能性がある *Cymbella janischii*、*Microseira wollei*、*Dolichospermum minisporum*、”*Planktothrix pseudagardhii*”、*R. raciborskii* の5種を紹介した。

琵琶湖とその集水域から2020年から2023年6月までに新たに発見された、外来種またはその可能性がある8種の珪藻について、第26回国際珪藻シンポジウムで報告した。*Achnanthydium catenatum*、*Cymbella distalebiseriata*、*C. compactiformis*、*C. janischii*、*Fragilaria longifusiformis* ssp. *eufofusiformis*、*F. saxoplanctonica*、*Gomphoneis minuta*、*Sellaphora tanghongquii* である。これらは種によって、その形態、生息環境、推定原産地が異なる。その移入には、漁業や遊漁のための魚や他の水生動物の輸送、あるいはウェーダーなど漁具に付着しての移動などが関係している可能性がある。種ごとの出現報告は順次進めており、*C. compactiformis* については本発表以降に論文報告済み、*A. catenatum* および *S. tanghongquii* (本種は *Sellaphora constricta* の後継異名であることが判明した) についても論文を準備中である。また本研究成果の一部を月刊海洋の特集記事として公表する予定である。

琵琶湖のアオコ40年史をまとめ、第20回国際有害藻類シンポジウムで発表した。本研究の材料として、一瀬論博士が1979年4月からほとんど1人で毎週調査報告してきた「瀬田川のプランクトン」のデータを時系列データに直して異名同種を整理し、過去の論文報告等を参照しながら琵琶湖のアオコの時系列変化を検討した。琵琶湖で最初にアオコを形成したラン藻の少なくとも一部は、現在 *Dolichospermum hangangense* および *D. smithii* と同定されている。1985年と1986年には、*D. affine* がアオコの優占種になった。*Microcystis* 優占のアオコが最初に発生したのは1987年である。当時の優占種は *M. aeruginosa* と同定されたが、現在の分類基準では *M. ichthyoblabe* も含まれていた。1994年以来、貧栄養の琵琶湖北湖でも *M. novacekii* と *M. wesenbergii* を優占種とするアオコが発生した。1990年代後半以降、南湖で沈水植物が繁栄したときに、*Oscillatoria kawamurae* と *Aphanizomenon flos-aquae* がアオコを形成するようになった。2012年以来、*Dolichospermum* が再び優占するようになった。多くの場合、*D. flos-aquae* が優占したが、*D. affinis* が優占した年もあった。*D. minisporum* と似た不明種が2020年に初めて発見され、同年からアオコを形成した。

フィリピンのマニラ首都圏東部を流れるマリキナ川の珪藻植生研究を進めた。そのうち最も多くの種が観察された *Gomphonema* 属について分類学的に精査したところ、18種が出現し、うち12種がフィリピン新産種だった。本研究成果をフィリピン大学ロス・バニョス校のMilagrosa R. Martinez-Goss 名誉教授らと共に論文報告した。続いて同河川で出現した *Pinnularia* 属を精査すると、17種が出現しており、うち13種がフィリピン新産種であることが判明した。この研究成果をやはり Martinez-Goss 名誉教授らと共同で、第26回国際珪藻シンポジウムで発表した。

他にも共著論文として、古琵琶湖層群の *Praestephanos* 属珪藻の新種報告や、中池見湿地の *Epithemia* 属の生活史に関する報告なども出版した。ただしそれ以前から進める予定だった、はしかけ会員などとの共同研究や、書籍の出版準備などが軒並み後回しにされて滞っているので、次年度こそは懸案を片付けたい。

印刷物

【学術論文】

- 大塚泰介・鈴木隆仁・辻 彰洋 (2023) 琵琶湖辺の池におけるラン藻 *Raphidiopsis raciborskii* のブルーム形成. *日本水処理生物学会誌*, 59: 27-32. <https://doi.org/10.2521/jswtb.59.27>
- Martinez-Goss, M. R., Ohtsuka, T., Inoue, H., Arguelles, E. D. L. R., Ikeya, T., Peralta, E. M., Papa, R. D. S. & Okuda, N. (2023) *Gomphonema* species (Bacillariophyceae) from Marikina River, Rizal (Luzon), Philippines. *Philippine Journal of Science*, 152: 1653-1676. <https://doi.org/10.56899/152.05.11>
- 泉野央樹・洲澤多美枝・大塚泰介 (2023) 西日本 3 河川からの *Cymbella compactiformis* の出現. *Diatom*, 39: 47-53. <https://doi.org/10.11464/diatom.39.47>
- Kojima, T., Saito-Kato, M., Ohtsuka, T. and Satoguchi, Y. (2023) Two new species of the diatom genus *Praestephanos* from the Pliocene Ueno Formation, Kobiwako Group, Mie Prefecture, Japan. *Paleontological Research*, 28: 291-306. <https://doi.org/10.2517/PR220034>
- Kamakura, S., Ohtsuka, T., Nagumo, T. and Sato, S. (2024) Differential cell size reduction of two sympatric *Epithemia* (Bacillariophyta) taxa in Nakaikemi Wetland, Japan. *Phycological Research* (published online). <https://doi.org/10.1111/pre.12542>

【専門分野の著作】

- 大塚泰介・根来 健 (2023) 琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究. *令和4年度水質保全研究助成報告書*, 琵琶湖・淀川水質保全機構, 10 pp.
- 戸田 孝・芦谷美奈子・大塚泰介 (2023) アイキャッチとしての数式—琵琶湖博物館での実践例—, *博物館研究*, 48: 41-45.
- 大塚泰介 (2023) 特集:『視えない』外来種問題 公開シンポジウム『『視えない』外来種問題』企画趣旨. *地域自然史と保全*, 45: 3-4.
- 大塚泰介・根来 健・佐藤晋也・石川可奈子・辻 彰洋 (2023) 特集:『視えない』外来種問題 要注意! 琵琶湖とその集水域の「ミクロの外来生物」. *地域自然史と保全*, 45: 25-38.

【一般向けの著作】

- 大塚泰介 (2023) なぜ田んぼに水を張るのか. In: 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館 (編) *滋賀県立琵琶湖博物館 第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然— (図録)*, 70-72.
- 大塚泰介 (2023) 早期中干しは環境に良い? 悪い?. In: 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館 (編) *滋賀県立琵琶湖博物館 第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然— (図録)*, 73-76.
- 大塚泰介 (2023) イネの肥料、特にケイ酸について. In: 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館 (編) *滋賀県立琵琶湖博物館 第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然— (図録)*, 77-79.
- 大塚泰介 (2023) 自然栽培で米がとれるのはなぜか?. In: 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館 (編) *滋賀県立琵琶湖博物館 第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然— (図録)*, 80-83.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 大塚泰介・根来 健・井上晴絵・小倉謙一・草間雄大・辻 彰洋 (2023年5月13日) 日本からの *Achnanthydium catenatum* の出現報告, 日本珪藻学会第44回大会, 文教大学あだちキャンパス (東京都足立区), [口頭発表].
- 正木紫苑・堂満華子・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・芳賀裕樹・加 三千宣・廣瀬孝太郎 (2023年5月13日) 琵琶湖南湖における過去30年間の珪藻群集変化と湖内環境変化, 日本珪藻学会第44回大会, 文教大学あだちキャンパス (東京都足立区), [ポスター発表].

- 富小由紀・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト (2023年5月14日) 滋賀県犬上郡多賀町四手産の珪藻化石に基づく古環境, 日本珪藻学会第44回大会, 文教大学あだちキャンパス (東京都足立区), [口頭発表].
- 大塚泰介・根来 健・泉野央樹・佐藤晋也・石川可奈子・辻 彰洋 (2023年8月18日) 要注意! 琵琶湖と集水域の「ミクロの外来生物」, 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Ohtsuka, T., Negoro, T., Izumino, H., Sato, S. and Tuji, A. (2023年8月29日) Diatoms presumed to have recently invaded Lake Biwa Basin in Central Japan, The 26th International Diatom Symposium, Yamagata Terrsa (山形県山形市), [口頭発表].
- Kayama, M., Ohtsuka, T., Ishii, K. and Matsuoka, K. (2023年8月29日) Morphological and phylogenetic analysis of pennate diatoms isolated at 90 m water depth off the southern coast of Rishiri Island, Hokkaido, Japan, The 26th International Diatom Symposium, Yamagata Terrsa (山形県山形市), [ポスター発表].
- Martinez-Goss, M. R., Ohtsuka, T., Arguelles, E. D. L. R., Ikeya, T., Peralta, E. M., Papa, R. D. S. and Okuda, N. (2023年8月29日) *Pinnularia* species (Bacillariophyceae) in Marikina River, Rizal (Luzon), Philippines, The 26th International Diatom Symposium, Yamagata Terrsa (山形県山形市), [ポスター発表].
- Tuji, A. and Ohtsuka, T. (2023年8月29日) Phylogeny and evolution of *Praestephanos suzukii* and related taxa, The 26th International Diatom Symposium, Yamagata Terrsa (山形県山形市), [ポスター発表].
- Ohtsuka, T., Negoro, T., Tuji, A., Niiyama, Y., Ishikawa, K. and Ichise, S. (2023年11月6日) Cyanobacterial water blooms in Lake Biwa –revisiting 40 years of history, The 20th International Conference on Harmful Algae, Grand Prince Hotel Hiroshima (広島市南区), [ポスター発表].
- Tuji, A., Niiyama, Y., Ohtsuka, T., Nakagawa, M. and Ichise, S. (2023年11月6日) Taxonomy and phylogeny of geosmin-producing *Dolichospermum* species, The 20th International Conference on Harmful Algae, Grand Prince Hotel Hiroshima (広島市南区), [口頭発表].
- 根来 健・大塚泰介・辻 彰洋 (2023年11月18日) 琵琶湖南湖で多産する円盤型珪藻, 日本水処理生物学会第59回大会, 山形大学鶴岡キャンパス (山形県鶴岡市), [口頭発表].
- 小笠栄一郎・大杉知裕・村田 純・豊永宏美・根来 健・大塚泰介 (2023年11月28日) ホウネンエビの鰓脚に特異的に着生する緑藻の系統解析, 日本微生物生態学会第36回大会, アクトシティ浜松 (浜松市中区), [ポスター発表].
- 大塚泰介・金尾滋史・鈴木隆仁・川瀬成吾 (2023年12月17日) 企画運営. 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館+オンライン, [企画運営].
- 大塚泰介 (2023年12月17日) みどりの食料システム戦略における中干期間延長の論理とその落とし穴, 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館+オンライン, [口頭発表].
- 木本裕也・大塚泰介 (2023年12月17日) あなたも図鑑作成者にならないか? ~電子図鑑作成のための両棲類写真提供のおねがい~. 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館+オンライン, [ポスター発表].
- 大塚泰介・山田七緒子 (2023年12月17日) この長期観測データ, 誰か分析しませんか? 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館+オンライン, [ポスター発表].
- 小笠栄一郎・大杉知裕・村田 純・豊永宏美・根来 健・大塚泰介 (2023年12月17日) ホウネンエビの鰓脚に特異的に着生する緑藻の系統解析. 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館+オンライン, [ポスター発表].
- 大塚泰介・根来 健 (2024年3月22日) 琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究, (公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構 令和5年度水質保全研究助成 成果報告会, 大阪府立男女共同参画・青少年センター (大阪府中央区), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2024年3月30日) ここまで分かった! スズキケイソウ, 第16回SB-NOM 珪藻の様々な世界, 京都大学楽友会館 (京都市左京区), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「MT法を用いた外来珪藻の計量形態学的研究」, (2023年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2021年度~2024年度).
- (公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構 水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2022年度~2024年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会, 会長, 2023年1月~.

日本分類学会連合、副代表, 2024年1月～.
関西自然保護機構, 運営委員, 2014年1月～.
淡海生物研究会, 淡海生物, 編集委員, 2019年4月～.
International Society for the Study of Harmful Algae, ICHA2023 Hiroshima Scientific Committee, 2022年11月～2023年11月.
日本陸水学会, Limnology, 査読, 1件 (前年度からの継続).
日本昆虫学会, Entomological Science, 査読, 1件 (前年度からの継続).
日本珪藻学会, Diatom, 査読, 2件.
国立科学博物館, 国立科学博物館研究報告B類, 査読, 1件.
日本プランクトン学会, Plankton & Benthos Research, 査読, 1件.
日本藻類学会, Phycological Research, 査読, 1件.
International Society for Diatom Research, Diatom Research, 査読, 1件.
International Society for the Study of Harmful Algae, ICHA2023 Hiroshima Abstracts, 査読, 6件.

【大学・学校の講義・実習・学生・生徒の指導など】

2023年度博物館実習, 資料活用 (概論・収蔵庫見学)・講師 (2023年8月22日).
2023年9月28日, 環境微生物学, 京都府立大学, 講師 (藤田裕子・石川可奈子と共同).
2022年10月～2024年3月, 滋賀県立大学環境科学部学生, 研究指導・助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 11件.
インターネットを通じた質問への対応, 2件.
はしかけグループ「たんさいぼうの会」, 担当, 随時.
はしかけグループ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」, 担当, 随時 (鈴木隆仁と共同).
2024年1月27日, 講演「私が、TNB48のプロデューサーです!」, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等の主催行事

2023年6月11日, 解説「魚のゆりかご水田生き物観察」, 海と日本プロジェクト in 滋賀県実行委員会, 栗見出在家町の魚のゆりかご水田 (東近江市), 講師.
2023年6月27日, 講義「なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか (付録 琵琶湖のプランクトンの話)」, 校外実習 (摂南大学農学部応用生物科学科), 琵琶湖博物館, 講師.
2023年7月14日, 実習「プランクトン実習」, 滋賀県立彦根東高校 SSH, 琵琶湖博物館, 講師 (鈴木隆仁と共同).
2023年11月12日, 講義 “Collections of Lake Biwa Museum”, JICA「博物館とコミュニティ開発」コース, 琵琶湖博物館, 講師.
2023年11月12日, 実習「琵琶湖のプランクトン検鏡観察」, 自然大学 (NPO 法人自然と緑), 琵琶湖博物館, 講師, (鈴木隆仁と共同).
2024年2月21日～23日, Seminar-Training-Workshop “Diatom Taxonomy, the Use of Diatoms in Determining Water Quality of Aquatic Ecosystems”, University of the Philippines Los Baños, University of the Philippines Los Baños (Laguna, Philippines), 講師・トレーナー, (真山茂樹・Elsie de Torres-Techと共同).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

田んぼの生きもの全種データベース, 管理者, 随時増補更新.
デジタルミュージアム推進事業, 総括.
デジタルミュージアム推進事業, デジタル情報整備業務 (主担当).
デジタルミュージアム推進事業, ポータルサイト作成 (主担当).
デジタルミュージアム推進事業, 滋賀の生きもの図鑑, 両生類 (主担当).
デジタルミュージアム推進事業, 滋賀の生きもの図鑑, 哺乳類 (副担当→主担当).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料活用事業，総括.

資料整理保存維持管理業務（主担当）.

微小生物資料の収集，整理・監督・指示.

ナゴヤダルマガエル，採集・飼育.

ハッタミミズ，採集・飼育.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「田んぼへ」，維持管理（主担当）.

マイクロアクアリウム，維持管理（副担当）.

研究最前線，更新1回，2023年5月.

モーニングレクチャー，講義「田んぼの生きもの」，1回（4日）.

【企画調整活動】

新任職員研修，博物館資料の整備，収蔵庫・研究施設見学（2023年4月18日）.

新任職員研修，C展示室「田んぼへ」コーナー解説（2023年4月20日）.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（柏尾珠紀、廣石伸互、今井一郎、根来 健），受入担当.

琵琶湖地域の水田生物研究会，主催（主担当：金尾滋史・鈴木隆仁・川瀬成吾と共同）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2024年2月18日～24日，University of the Philippines Los Baños の珪藻調査同行および Seminar-Training-Workshop “Diatom Taxonomy, the Use of Diatoms in Determining Water Quality of Aquatic Ecosystems”
講師・トレーナー.

【館外の活動】

島根大学汽水域研究センター，協力研究員（2001年4月～）.

以下の研究を行なった。日本の研究者と共同で行なっていた日本のペットショップから収集したカイミジンコの外来種の可能性について調査し、*Zootaxa* 学術誌で出版した。日本の研究者と共同で行なっていた外来種のザリガニの表面に生息するカイミジンコについて調査し、群馬県立自然史博物館研究報告書で出版した。南西列島のカイミジンコの分類についての研究を完了し、学術誌 *Zootaxa* で出版した。東アジアのカイミジンコデータベースを拡大した。

印刷物

【学術論文】

- Smith, R. J., Ozawa, H., Nishida, S. and Nakai, S. (2024) Non-marine Ostracoda (Crustacea) collected from pet shops and a hobbyist's aquaria in Japan, including two new species. *Zootaxa*, 5410 (4): 451-494. <https://doi.org/10.11646/zootaxa.5410.4.1>
- Smith, R. J. (2023) Descriptions of two Cypridopsinae (Ostracoda, Crustacea) species from the Nansei Islands, Japan, with the first records of non-marine ostracods from the Daito Islands. *Zootaxa*, 5293 (2): 294-316. <https://doi.org/10.11646/zootaxa.5293.2.5>
- 星野 亨・群馬県立尾瀬高等学校理科部・大高明史・スミス ロビン J. (2023) 群馬県菅沼におけるウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus* と共生ヒルミミズ および貝形虫の新記録. *群馬県立自然史博物館研究報告* 27: 99-106.

【一般向けの著作】

- ロビン J・スミス (2023年4月~2024年3月), 85本のSNS (Facebook, Instagram, Twitter).
- ロビン J・スミス (2023年4月~2024年3月), 6本のYouTube動画の英語字幕.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 中井静子・水上 葵・山崎真広・忍足将人・中尾有利子・小沢広和・Smith, R. J. (2023年9月2日) 家庭に侵入する外来無脊椎動物の実態. 2023年 日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, [ポスター発表].
- スミス ロビン ジェームス (2024年1月19日) ペットショップや家庭の水槽から収集したカイミジンコについて: 在来種か外来種か?. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Zootaxa* の編集者, (通年).
- Invertebrate Reproduction and Development, 査読, 1件.
- Zookeys, 査読, 1件.
- 琵琶湖博物館学芸員の書いた英文 (論文等) の英文添削, 数件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，琵琶湖博物館，12 件.

視察等への対応

2023 年 5 月 30 日，見学案内，インド オリッサ州政府関係者.

2023 年 8 月 20 日，見学案内，マレーシア政府関係者.

2023 年 10 月 11 日，見学案内，研修員

2023 年 11 月 29 日，見学案内，研修員

2024 年 1 月 11 日，見学案内，JICA 研修員

2024 年 2 月 2 日，講義，研修員

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの 情報更新，多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

マイクロアクアリウムの展示コーナー，管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「マイクロアクアリウムの展示」，1 回（4 日）.

【企画調整活動】

2023 年 12 月 19 日～2024 年 01 月 12 日，イタリア人留学生の来訪に対応.

近年、旅行の質や目的地は大きく変化してきており、ICTの普及やコロナ禍がそのことに拍車をかけてきた。農業体験や自然体験へのニーズが高まりを見せる中で、農山村の地域資源を活用した体験旅行にも注目されている。

特に、琵琶湖を取り巻く農林水産業は2022年度には「琵琶湖システム」として世界農業遺産にも認定され、自然との共生を目指す農林水産業の価値が認められている。

このような背景のもと、地域の活性化施策の一つとして先進的に農山村へのツーリズムに取り組んでいる地域では、環境保全、文化の継承とツーリズムを結び付けようとする試みが内発的に始まっている。このような取り組みをさらに進めていくためには、取り組みの実態を把握するとともに、その効果を理論的に分析していく必要がある。そこで、本年は先進的な取り組みを行っている県内の地域について、その実態把握と分析を行った。

また、農林水産省では「農山漁村滞在型旅行」の推進に取り組んでおり、これまで全国599の地域を支援してきている。そして、今後は、都道府県において推進体制としてネットワーク組織を整えていくことが勧められている。そこで、2023年度は滋賀県農政水産部農村振興課と協力して、他府県の先進的なネットワーク組織の調査を行った。

県内地域の調査の結果、農山村ツーリズムは社会的価値と経済的価値を共に創造しうる存在であると考察した。そして、今後さらに両価値を高めていくためには「都市側の社会的価値」を創造すること、地域間で連携を強めることが必要であると考察した。

農山漁村滞在型旅行推進地域のネットワーク化については4月と11月～12月に調査し、整理したものを農村振興課に報告した。2024年以降は関係者の利害や要望を把握し、ネットワーク構築に向けた合意形成のプロセスについて、分析・提案していく予定である。

事業活動では交流担当として、はしかけ制度全般の運営を担当した。また、工房を中心に体験教室を、感染症対策を取りつつ5回実施した。延べ124名の参加者に水稻作と暮らしに関する体験、田んぼの生きものに触れる機会を提供し、参加者との交流を深めることができた。地域連携では、館内において3件の講演・講師等を行い、また、地元の大学生、滋賀県農政水産部農政課と協同で世界農業遺産関係の館内ルートマップの作成、PR動画の作成、取材対応も行った。

印刷物

【一般向けの著作】

中川信次・龍谷大学農学部食料農業システム学科(2024) 琵琶湖システム館内ルートマップ。琵琶湖博物館展示交流補助ツール:2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

中川信次(2023年7月21日) 農泊地域の現状の分析と今後の展開に関する研究—CSV(Creating Shared Value: 共通価値の創造)理論からのアプローチ。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年8月26日～9月1日, 龍谷大学社会学部, びわ湖・滋賀学, 講師(芳賀裕樹・金尾滋史・米田一紀・橋本道範・加藤秀雄・妹尾裕介・林 竜馬・半田直人と共同).

2023年11月8日, 龍谷大学農学部3回生, 琵琶湖博物館を活用した琵琶湖システムの探索と館内ルートマップの構築, 講師.

2023年12月1日・12月15日, 龍谷大学農学部1回生, 食の循環実習I「滋賀県の農業・農政」, 講師.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「フナズシの歴史的 position 付けについての研究II—「古フナズシ」の再現実験—(研究代表者: 橋本道範), 共同研究者(2022年度～2024年度).

琵琶湖博物館専門研究「MLGsを介した環境への学び」と「農山村ツーリズム」, 2023年度.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，11件。

田んぼ体験教室，担当。

2023年4月～2024年3月，田んぼ体験教室 5件，琵琶湖博物館，企画・運営，（中川 優と共同）。

はしかけ制度運営総括，担当。

2023年5月、9月、2024年3月，はしかけ登録講座(オンライン)，琵琶湖博物館，企画運営。

2023年9月24日，はしかけ登録講座(対面)，琵琶湖博物館，企画運営。

はしかけ事務局運営。

はしかけグループ「サロン de 湖流」「くらしをつづる会」，担当学芸員。

メディアへの対応

2024年3月22日，びわ湖放送「番組名：近江の宝 琵琶湖システム」，協力内容（琵琶湖博物館を活用した琵琶湖システムの探索と館内ルートマップの構築），（取材・2023年11月8日，2024年2月6日）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖システム館内ルートマップ，主担当，琵琶湖博物館ホームページ展示交流補助ツールに掲載。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「田んぼへ」，維持管理。

C展示室「世界農業遺産 琵琶湖システム」，維持管理。

生活実験工房，田畑の維持管理。

展示交流員研修，田植え・稲刈り・しめ縄づくり，企画・運営，（中川 優と共同）。

モーニングレクチャー，講義「滋賀の野業の新しい取り組み」，1回（4日）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2022年度，滋賀県農政水産部耕地課企画・技術管理係，主幹を兼務。

研究活動としては、(1)多自然川づくりに関する検討、および(2)河川環境モニタリングをテーマに研究を進めた。

(1) 近年、大雨及び短時間降雨の発生頻度が増加しており、中小河川での洪水氾濫が頻発しているため、河川整備や浚渫等の事前防災対策が加速的に進められている。一方で、生態系への配慮が不十分となっている現場が散見される。本来、川には瀬や淵があり草の生えた土手の水際があり、物理的にも多様な環境が自然に形成されているが、河川整備や浚渫等により河川地形や河床が単調化してしまった場合、自然の営力のみによって、瀬淵や水際の形成を期待することは難しい。しかし、水制工という河川工法により、洪水と土砂移動を利用して瀬淵の地形を形成することは可能である。土砂の堆積を促すことで瀬淵を形成させ、河床環境の多様化をもたらす生物の多様性・生物量の増加が期待される。そこで、水制工に着目し、河川環境再生による効果について、河川の流れ・河床変動シミュレーション iRIC (International River Interface Cooperative) ソフトウェアによる二次元河床変動水理計算 (Nays2DH) を用いて可視化し考察した。さらには、実河川において浚渫等工事後にバープ工を設置することで瀬淵の形成、河岸浸食抑制の効果がみられるかどうかシミュレーションにより可視化し、好ましいバープ工配置形状について検討を行った。

(2) 琵琶湖のアユの産卵環境・生息環境は、好適な礫径・藻類種繁茂が必要であることが言われている。琵琶湖に流入する河川では、河川横断構造物や様々な要因による流況変化等に伴う土砂移動の阻害により、森一川一湖における土砂のつながりが損なわれ、河床の粗粒化や固化等を生じ、これに伴う魚類等の生息・産卵環境への悪影響が懸念されている。そこで、過年度の検討成果から、土砂移動が阻害され、土砂が動きにくくなった愛知川中流域の砂州において、出水という自然の営力によって砂州の河床下層の堆積した細粒土砂を下流に供給し、砂州を適切な粒度分布とするため、河床の表層と下層を混合する河床耕耘(うん)の試験施工を過年度に行い、その効果の把握のためのモニタリング調査を実施した。その結果、試験施工を行った砂州上流部において出水後の地形変化から土砂流出が確認できたとともに、砂州下流部で小礫の土砂移動が見られた場所ではアユの生息環境改善を確認している。これらは短期における事象の確認であり、長期的な事業効果を把握する必要がある。2023年度において、UAV (Unmanned Aerial Vehicle、ドローン) を用いた SfM-MVS による写真測量を用いて出水前後の地形変化の把握を行った。今後も出水による地形変化や、これに伴うアユ等の生物生息環境の変遷を把握するためのモニタリング調査を継続する予定である。

事業活動では、常設展示維持管理業務委託を監督した。また、屋外展示維持管理業務委託を監督し、樹木剪定、伐木、除草等を行った。事前調整や安全管理等を適切に行い、無事に完了することができた。さらに、C展示室「琵琶湖の川と森を守る人々」コーナーの展示更新を行った。具体的には、今年度の淡海の川づくりフォーラム受賞者のポスター更新を行った。

印刷物

【学術論文】

小倉拓郎・水野敏明・片山大輔・山中大輔・佐藤祐一 (2023) 希少種の生息域に配慮した掘削事業における RTK-UAV を用いた掘削土砂量の推定. *応用生態工学*, 26 (2) : 85-94.

【一般向けの著作】

片山大輔 (2023) フィールドへ びわ博いちおし③ 広がれ! 小さな自然再生、グリーンインフラ 住民協働で魚道づくり. *京都新聞社滋賀版*, 8月11日.

片山大輔 (2023) ～トピックス～生物生息域に配慮しワンドを残した浚渫事業～河川シミュレーションを使用した「見える化」～. *近畿 川の情報誌 さらさ*, 125号春号 : 11-12.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

片山大輔（2023年10月25日）生物生息域に配慮しワンドを残した浚渫事業の合意形成～河川シミュレーションを使用した「見える化」. 令和5年度多自然川づくり近畿地方ブロック会議, 近畿地方整備局, [口頭発表].

片山大輔（2023年12月12～13日）生物生息域に配慮しワンドを残した浚渫事業の合意形成～河川シミュレーションを使用した「見える化」. 令和5年度全国多自然川づくり会議, 国土交通大学校, [口頭発表].

片山大輔（2024年1月19日）中小河川の課題と水制工による河床変動特性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

片山大輔（2024年3月26日）生物生息域に配慮しワンドを残した浚渫事業の合意形成～河川シミュレーションを使用した「見える化」～. 令和5年度滋賀県試験研究機関連絡会議, 工業技術総合センター, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「多自然川づくりに関する検討、グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究」, (2023年度).

琵琶湖環境研究推進機構「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」流域環境研究「グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究」, (研究代表者：琵琶湖環境科学研究センター・水野敏明), 研究分担者 (2023年度).

東京大学空間情報科学研究センターにおける研究用空間データ基盤の利用を伴う共同研究「高頻度・高精細地形情報を用いた河床における地形変化解析方法および地域住民への空間情報発信方法についての研究」(研究代表者：北海道大学地球環境科学研究所・早川裕式), 共同研究員 (2018年度～2023年度).

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者：亀田佳代子), 研究協力者 (2023年度).

【受賞など】

令和5年度多自然川づくり近畿地方ブロック優秀賞, 2023年10月25日, 令和5年度多自然川づくり近畿地方ブロック会議にて選出された優れた事例.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 6件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示維持管理委託, 主担当.

屋外展示維持管理委託, 主担当.

モーニングレクチャー, 講義「滋賀県の河川」, 1回(3日).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023 年度，滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室河川環境係，主査を兼務.

魚類の多くは小さな卵を大量に産み、その後の保育はしないか限定的であるため、個体群における死亡の大部分が、卵から仔稚魚期までの生活史初期に起こる。このような魚種では、生活史初期の死亡の度合いが、その後の個体数の増減を左右すると考えられており、魚類の保全を行う上で、生活史初期の知見は非常に重要となる。そのため、2022年度より琵琶湖固有のニゴロブナおよびホンモロコを題材とし、生活史初期の資源状況を判断するための手法確立を目指している。上記の2種は琵琶湖漁業における重要な漁獲対象種であるとともに、近代化に伴って資源量を大きく減少させている魚種でもある。事業においては、展示係として展示活動に係る予算管理およびディスプレイルームの維持管理に従事した。また、資料活用の担当として水族担当者会議の開催、魚類等疾病管理、水族資料管理に係る法令手続に従事するとともに、DX事業におけるGIS構築に関わる業務のうち契約締結業務に参与した。

【研究】

① ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明

河川や湖沼の沿岸域は淡水魚の主要な産卵育成場であり、同水域の環境変化は淡水魚の初期生残に大きな影響を与えると考えられている。しかしコイ科魚類では、評価手法の不足から、その影響を定量的に評価した事例は少ない。本研究では、コイ科魚類のホンモロコについて、耳石と呼ばれる硬組織に形成される日周性のある輪紋（＝耳石日周輪）を用いた日齢解析によってその影響を評価し、本種の保護管理策に科学的根拠を提供することを目的とする。本研究の成果および他魚種への応用により、どのような河川環境が仔魚の加入に有効であるか、仔魚の加入に有効な産卵時期はいつまでか、水位の管理手法を変更することでその時期を延長することが可能かといった問題に対する解を得ることができる。2023年度は、孵化仔魚における耳石日周輪形成について2022年度に引き続きデータの蓄積を行うとともに、滋賀県水産試験場および近畿大学と連携し、耳石日周輪計数システムによる日齢解析を行った。

② ホールマウント免疫染色を用いたニゴロブナ卵の判別手法の確立

近縁種が同所的に生息する地域では、形態的特徴から種判別を行うことが困難なために、目的とする魚種的生活史初期の知見を得難い場合がある。本研究の題材とするニゴロブナもそのような魚種のひとつである。琵琶湖にはニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ギンブナの3種のフナが生息するが、卵から稚魚期までの成長段階では形態的特徴から3種を見分けることは困難である。3種の判別には遺伝子解析を用いた手法が確立されているが、個体ごとに解析を行う必要があるため、コストと作業時間の面で多量の試料を解析することには向いていない。そのため、多量の試料を解析する必要がある産卵状況の分析等の研究は現状では現実的ではない。近年、低価格で多量の試料を同時に種判別する手法として、ポリクロナール抗体を用いたホールマウント免疫染色を用いた事例がいくつかの海産魚介類について報告されている。本研究ではニゴロブナを対象とし、ホールマウント免疫染色によるフナ類の種判別手法確立を目指す。2022年度に作成したニゴロブナ卵の卵膜を抗原とする抗血清を用いて、ホールマウント免疫染色により、ニゴロブナ卵、ゲンゴロウブナ卵、ギンブナ卵の染色を実施したが、全ての卵が染色されたことから、2023年度は2022年度に引き続き非特異性抗体の影響低減手法を試行した。

【事業】

展示係の業務として2023年度はディスプレイルームの維持管理および展示物の更新に従事した。水族展示の担当としては共同で水族展示の維持管理に従事し、特に水族資料管理に係る法令手続を担当した。また新規魚種の導入に尽力し、滋賀県水産試験場の協力を受けてナガレモンイワナの導入をした。加えて、2023年2月に発生した大型水槽の破損に係る業務に従事した。

印刷物

【専門分野の著作】

藤岡康弘・米田一紀・磯田能年・大植伸之・根本守仁（2024）水田から琵琶湖へ放流したホンモロコ稚魚の性比。
滋賀県水産試験場研報（滋賀県水産試験場），59：23-28.

【一般向けの著作】

米田一紀（2023）日曜日に知る琵琶湖の魚たち カジカ大卵型の河川適応。産経新聞滋賀県版，8月20日。
米田一紀（2023）フィールドへ びわ博いちおし④ 危機に瀕するワタカ。京都新聞滋賀県版，8月25日。
米田一紀（2023）日曜日に知る琵琶湖の魚たち 河川やダム湖に定着するコクチバス。産経新聞滋賀県版，11月12日。

米田一紀 (2024) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち プランクトン食の巨大魚ハクレン. 産経新聞滋賀県版, 2月11日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

米田一紀 (2023年9月15日) ホールマウント免疫染色を用いたフナ卵判別手法の検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

寺嶋伊武樹・米田一紀 (2023年12月5日) 人工飼育下におけるピワマス初期段階の餌料比較. 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会第10回水族館シンポジウム, 東京大学大気海洋研究所, [ポスター発表].

香田万里・寺井章人・片岡佳孝・根本守仁・石崎大介・米田一紀・甲斐嘉晃・亀甲武志 (2024年2月28日) 西の湖で採捕されたホンモロコ稚魚の孵化日組成. 令和6年度日本水産学会大会春季大会, 東京海洋大学品川キャンパス, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

公益財団法人河川財団・河川基金助成事業「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明」, 研究代表者 (2022年度~2023年度).

琵琶湖博物館申請専門研究「ホールマウント免疫染色を用いたニゴロブナ卵・仔魚の判別手法の確立」, (2023年度).

琵琶湖博物館共同研究「日本産ニゴイ類の比較形態学的研究」(研究代表者:川瀬成吾), 共同研究者 (2022年度~2024年度).

公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団・国内研究助成「標本×遺伝×形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守るー琵琶湖淀川水系産モロコ類を例にー」(研究代表者:川瀬成吾), 共同研究者 (2023年度~2024年度).

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者:亀田佳代子), 研究協力者 (2019年度~2023年度).

琵琶湖博物館共同研究「フナズシの歴史的な位置付けについての研究IIー「古フナズシ」の再現実験ー」(研究代表者:橋本道範), 研究協力者 (2022年度~2024年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年8月8日, 近畿大学, 「水産増殖学実習」, 講義.

2023年8月26日, 龍谷大学, 「びわ湖・滋賀学」(水と生き物の暮らし(2)), 講義.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 9回.

インターネットを通じた質問への回答, 3件.

2024年2月4日, 館内イベント「耳石すごいぜ!!」, 主催.

他の博物館・機関等の主催行事

2023年7月12日, 地域連携「琵琶湖水系における外来魚の現状」, 天津社会福祉協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

2023年8月7日, 地域連携「琵琶湖水系のアユ」, 滋賀県立河瀬中学高等学校科学部, 琵琶湖博物館, 講師.

2024年2月10日, 地域連携「琵琶湖生物や水産資源に対する水位低下・渇水の影響について」, 京都外国語大学OB 滋賀支部, 琵琶湖博物館, 講師.

視察等への対応

2023年5月25日, 講義「琵琶湖の成り立ちと水産資源」, JICA, 琵琶湖博物館.

メディアへの対応

2023年7月17日, NHK ラジオ第一放送「マイあさ!」, ニホンウナギについて, 取材対応, (2023年7月5日).

2023年8月3日, BS-TBS「釣り百景」, ゲンゴロウブナについて, 取材対応, (2023年6月28日).

2023年12月13日, 関西テレビ「newsランナー」, 水族展示について, 放映準備対応, (2023年12月8日).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル，びわこのちからチャンネル「五感で体感！デカ盛り天井！」，撮影，1 件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

魚類等疾病管理と水質維持，主担当。

水族資料管理に係る法令・条例等の手続き，主担当，21 件。

水族会議の開催と運営，主担当，10 件。

GIS データの整備とコンテンツ作成，副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

アトリウム展示等管理，副担当，1 件。

展示活動に係る予算管理，主担当。

ディスカバリールーム維持管理，主担当（5 月～9 月）副担当（10 月～3 月）。

モーニングレクチャー，講義「魚類耳石の解説」，1 回（4 日）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

産経新聞「日曜日に知る琵琶湖の魚たち」掲載記事，添削。

琵琶湖とその集水域における微小生物、主に動物に関して、その生態や分布に関する研究を行っている。本年度においては、大阪大学の待兼山の生物相調査に協力し、豊中キャンパス内3か所の池に関して、そこから得られる微小生物相の調査を実施した。

専門研究では「琵琶湖および周辺水域におけるイタチムシ相を探る」というタイトルで研究を行った。

共同研究では「琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築」の副代表者として、琵琶湖集水域における微小生物の電子図鑑の作成の補助、および、琵琶湖博物館ウェブページ上での微小生物に関するコラム「ミクロの世界へ」と京都新聞で連載した「ミクロの世界から」の書籍化の準備を行った。

伊藤忠商事との連携研究では、琵琶湖博物館屋外展示にある生態観察池を利用した希少淡水魚の保護研究に参加しており、該当の池の微小生物相の調査を実施した。

博物館業務ではマイクロアクアリウムの運営を行った。季節に応じた展示生物の変更、および夏季のマミズクラゲ展示のほか、飼育状態のノロの展示を行った。昨年度はマミズクラゲを採集している池での発生がほとんど見られず、当館で発生した個体の展示にとどまった。安定しての展示を実施するため、館内でのクラゲ体の発生、成長を行える手法を整えていきたい。

ギャラリー展では、高知県出身の微小生物アーティストである越智明美氏と共同で「プッカプカ美小生物展」を実施した。本展示では、小さいながらも生き残るために手に入れた、微小生物たちの不思議なカラダの仕組みや、興味深く素敵なカタチをアートと最新の研究とを合わせて紹介した。

交流業務としては query 担当、博物館に来る質問メールの返信、もしくは適切な職員への割り振りを実施した。地域連携担当としては、館内館外での講義講演の依頼の割り振りを行った。フィールドレポーター担当としては、フィールドレポータースタッフと協力し「スクミリンゴガイおよびタニシ類調査」や「フィールドレポーター交流会」の実施、「フィールドレポーター便り」や、「フィールドレポーター掲示板」発行を行い、後半の「近江のナレズシ県民大調査」では担当を橋本に替え、副担当として実施した。10月よりはしかけ担当を引き継ぎ、はしかけニューズレターの発行、更新作業を実施した。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

鈴木隆仁 (2023年10月20日) 琵琶湖周辺の水域におけるイタチムシ類の分布. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

鈴木隆仁 (2022年12月18日) 第13回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館, ハイブリッド開催, [運営補助], (大塚泰介・金尾滋史と共同).

鈴木隆仁・今田瞬介 (2022年12月18日) ラ コリーナ近江八幡の水田における生物調査. 第13回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖および周辺水域におけるイタチムシ相を探る」, (2023年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築」(研究代表者: 大塚泰介), 研究副代表者 (2021年度~2024年度).

大阪大学 SSI プロジェクト「大学と地域の生物多様性保全の実現」(研究代表者: 大阪大学理学部・古屋秀隆、吉岡聡司), 微小生物担当 (2020年度~2023年度).

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「淡水棲マミズクラゲがもつ3つの謎 (性決定、芽体形成、生物伝播) の解明に迫る」(研究代表者: 奈良県立医科大学・小林千余子), マミズクラゲネットワーク確立担当 (2022年度~2025年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年7月13日, 彦根東高校, プランクトン実習.

2023年7月27日, 守山中学校, 研究評価とアドバイス.

2023年11月5日, 豊中高校, プランクトン実習.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，13件。

インターネットを通じた質問への対応、割り振り，866件。

地域連携調整，担当，割り振り 館内 28件，館外 38件。

イベント調整，副担当。

はしかけ担当。

はしかけグループ「田んぼの生きもの調査グループ」，担当。

はしかけグループ「琵琶湖の小さな生きものを観察する会」，副担当。

2023年5月5日，ギャラリー展関連イベント「あなたも描こうミジンコたちの絵」，館内イベント，担当。（講師：越智明美）。

2023年5月6日，ギャラリー展関連イベント「顕微鏡であのプッカプカが見える見える超見える」，館内イベント，担当。（講師：田中 亨）。

2023年5月14日，ギャラリー展関連イベント「琵琶湖のプッカプカ微小生物を捕まえてみよう」，観察会，担当。

2023年5月28日，ギャラリー展関連イベント「プランクトン観察会プッカプカプランクトンってなあに？」午前部，観察会，担当。（講師：一瀬 諭）。

2023年5月28日，ギャラリー展関連イベント「プランクトン観察会プッカプカプランクトンってなあに？」午後部，観察会，担当。（講師：一瀬 諭）。

2023年5月10日，わくわく探検隊プランクトンを見よう，観察会，講師。

2023年9月2日，湖探検，観察会，副担当。

2023年9月24日，プランクトンでビンゴ，観察会，担当。

2023年11月18日19日，びわ博フェス，ポスター担当。

2023年12月11日，オールドヨタ自然共生WG，講演，講師。

フィールドレポーター，担当。

フィールドレポーター調査「スクミリンゴガイ、タニシ類調査」，担当。

「フィールドレポーター便り」発行，1件。

「フィールドレポーター掲示板」発行，1件。

他の博物館・機関等の主催行事

2023年11月12日，実習「琵琶湖のプランクトン」，NPO法人自然と緑 第27期自然大学，琵琶湖博物館，講師，（大塚泰介と共同）。

2024年1月11日，琵琶湖博物館の博物館活動に関する講義，JICA 地域理解プログラム，講師。

メディアへの対応

2023年5月5日，産経新聞，プッカプカ『美』小生物について，取材対応（4月26日）。

2023年5月10日，びわ湖大津経済新聞，水槽破損の琵琶湖博物館、水族展示再開 負傷のビワコオオナマズも元気に（5月9日）。

2023年9月5日，滋賀報知新聞，発見シロマダラ，取材対応，（9月5日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物関連標本整理，担当。

節足動物標本：カイミジンコプレパラート：Robin J. Smith 琵琶湖博物館（43）

ヨコエビ液浸標本：浜分漁協（3）

（ジムカデプレパラート：石井清 独協医科大学（12）論文発表待ちで未登録）

論文用標本貸出，牧野 渡（所属東北大学理学部生物学科），（*Chydorus sphaericus* 15点），1件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2023年度ギャラリー展示「プッカプカ美小生物展」，2023年5月5日～6月11日。

マイクロアクアリウム・マイクロバー，ノロ展示，2023年9月28日～12月8日。

マイクロアクアリウム・マイクロバー, マミズクラゲ, 2023年10月24日～12月8日.
モーニングレクチャー, 講義「プランクトンネット講座」, 1回(4日).

【広報営業活動】

企業連携, 株式会社 SCREEN ホールディングス, 環境活動のための情報提供など.
企業連携, 株式会社 SCREEN ホールディングス, 成安造形大学, 環境学習のためのゲーム制作.
企業連携, たねや, 田んぼ観察会および田んぼ生物調査のための職員への講義.

【研究部関連事業】

危険物等の管理, 主担当.

館内の人事・館外活動に関すること

【館外の活動】

大阪大学大学院理学研究科, 招へい研究員(2023年4月1日～2024年3月31日).

今年度は、琵琶湖生態系に属する希少種の保全研究と、海浜生態系を構成する動植物の進化史の研究を進めた。事業部では、主に情報システムの管理・運用やDX事業の推進に邁進した。

保全研究

① 「水流散布型海浜植物の世代更新に関与する昆虫群集の分散様式の解明」【申請専門研究】

本研究では、本研究では、集団遺伝学的解析と採集調査を基に、湖岸の植生維持に関与する昆虫群の分散様式を解明することを目的とした。残念ながら、集団遺伝学的解析がうまくいかなかったため、プロトコールの練り直しが必要である。

② 「標本×遺伝×形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る-琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に-

【公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団・国内研究助成：共同研究者】

本研究では、最も身近な淡水魚の一つであるコイ科カマツカ亜科魚類「モロコ類 (タモロコ属・スゴモロコ属)」を対象とし、次世代シーケンサーによって得られたゲノム情報をもつ標本を用いた詳細な形態分析によって、市民団体が該当魚種を容易に分類できるような指標を示すことを目的としている。今年度はホンモロコとタモロコ2系統の形態解析を中心に進め、各々形態的特徴を抽出することに成功した。同所的に生息する複数種については、形質置換の様相は見られなく、これまでの予想とは異なっていた。

進化史研究

① 「海流散布植物を基盤とする昆虫群集における生物間相互作用の維持・創出機構の解明」【若手研究：代表】

今年度は最終年度である。ハマエンドウの種子に寄生するクロマメゾウムシについて次世代シーケンサーも用いた集団解析を行った結果、この甲虫は植物と同様、地理的な遺伝構造が見られなかった。したがって、この甲虫は、ハマエンドウの種子を利用して分散していることが明らかとなった。一方、クロマメゾウムシに寄生するハチについて、DNA情報を取得できなかったため、今後もフィールド調査を続けていかなければならない。

② 「植物の遺伝情報を用いた伊吹山の織田信長の幻の薬草園伝説の検証」(研究者代表：玉木 一郎)

本研究は、織田信長が宣教師に命じて伊吹山に持ち込んだとされる植物の来歴について、DNAの分子解析から明らかにしようというものである。今年度は論文が受理されたため、次なる植物の解析を進めている。

【事業部】

情報担当 今年度も情報システムの管理・運用担当として、新規セキュリティクラウド(SC)の運用と情報機器端末の更新に時間を割いた。情報の中枢機器や周辺のネットワーク機器については無事に更新ができたため、今後はネットワークを介した業務がスムーズ進むことになるはずである。また、これまでに廃棄できていなかった端末についてはほぼ廃棄が終了した。

DX担当 今年度から始まった事業では、デジタルミュージアム事業とWeb-GISの進捗を管理し、Web-GISに関してはデータベース作成からプラットフォーム作成までの作業を指揮した。デジタルミュージアムに関しては公開ホームページの作成指揮を中心に、電子図鑑の作成に関わった。新規事業特有の作業の煩雑さはあったものの、来年度の公開に向けてプラットフォームを作成することができた。

交流担当 今年度もはしかけの緑のくすり箱の主担当として活動を補助するだけでなく、おとなのディスカバリーの植物セクションへの展示など、博物館の展示交流にも貢献した。また、はしかけ「海浜植物まもりたい」の主担当として新海浜の保全活動に邁進した。今年度は除草作業の方法を少し変えることで、絶滅危惧種の植生面積拡大を継続的に進めることができた。今後は専門研究の結果を踏まえ、訪花昆虫の頻度を増やす実験を行い、持続可能な保全活動に貢献したい。

植物収蔵庫担当 滋賀県立大学と伊吹山文化資料館、滋賀県植物研究会とともに堀與曾市標本のデジタル化とデータベース化を進めた。デジタル標本化とデータベースの登録が終了し、公開寸前である。

印刷物

【学術論文】

Ichiro Tamaki, Mizuo Mizuno, Tatsuo Ohtsuki, Kohtaroh Shutoh, Ryoichi Tabata, Yoshihiro Tsunamoto, Yoshihisa Suyama, Yusuke Nakajima, Naoki Kubo, Takeru Ito, Naohiko Noma & Emiko Harada (2023) Phylogenetic, population structure, and population demographic analyses reveal that *Vicia sepium* in Japan is native and not introduced. *Scientific Reports*, volume 13, Article number: 20746 (2023).

【専門分野の著作】

- 大槻達郎 (2023) 琵琶湖岸に生育する絶滅危惧種ハマエンドウの種子発芽について. *滋賀県植物研究会会報*, 特別号 第16号: 29-30.
- 大谷一弘・大槻達郎 (2024) 琵琶湖湖辺域外で確認されたハマエンドウについて. *滋賀自然環境研究会誌*, 22号: 35-40.

【一般向けの著作】

- 大槻達郎 (2023) 新天地で生き続ける海浜植物. *季刊 湖国と文化*, 第187号, 58-59.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 玉木一郎・水野瑞夫・大槻達郎・首藤光太郎・田畑諒一・綱本良啓・陶山佳久・中島優介・久保直輝・伊藤丈留・野間直彦・原田英美子 (2023年9月7日) 日本のイブキノエンドウは外来種ではなく自生種である. 日本植物学会第87回大会, 北海道大学札幌キャンパス, [口頭発表].
- 大槻達郎 (2023年9月15日) 希少種の保全活動評価とリスク分散のための域外保全. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大槻達郎・西田謙二 (2024年3月11日) 琵琶湖岸の希少生物保護区周辺へ侵入する外来種の動態. 第23回日本植物分類学会大会 (JSPS23), 東北大学 (仙台市), [ポスター発表].
- 大槻達郎・武田 滋 (2024年3月17日) スナゴミムシダマシ属における性比の季節変動. 第71回日本生態学会大会 (ESJ71), オンライン, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「水流散布型海浜植物の世代更新に関与する昆虫群集の分散様式の解明」, (2023年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究分担者 (2019年度~2023年度).
- 科学研究費助成事業 (若手研究) 「海流散布植物を基盤とする昆虫群集における生物間相互作用の維持・創出機構の解明」(研究者代表: 大槻達郎), 研究代表者 (2021年度~2023年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 C) 「植物の遺伝情報を用いた伊吹山の織田信長の幻の薬草園伝説の検証」(研究者代表: 玉木 一郎), 研究分担者 (2022年度~2024年度).
- 公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団・国内研究助成「標本×遺伝×形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る - 琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に -」(研究者代表: 川瀬成吾), 研究分担者.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 滋賀県植物研究会, 庶務 (2019年12月1日~).
- 日本植物分類学会, NL 幹事 (2023年1月1日~).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2023年8月25日, 滋賀県立大学4回生, 卒業研究の対応 (フィールドワーク).
- 2024年1月13・17日 滋賀県立大学4回生, 卒業研究の対応 (分子遺伝実験、卒業論文に関する助言).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー, 12回.
- クエリ, 回答, 7件.
- はしかけ運営「緑のくすり箱」・「海浜植物守りたい」, 担当.
- はしかけ運営「森人」・「植物観察の会」, 副担当.
- はしかけグループ「海浜植物守りたい」, 希少種の保全方法の助言, 6件.
- はしかけグループ「植物観察の会」, 植物に寄生する昆虫の観察と飼育の助言, 4件.

2023年5月16日、季節の植物でアロマウォーターを作ろう、琵琶湖博物館、運営、(はしかけ緑のくすり箱共同) 副担当。

2023年11月18日、びわ博フェスポスター発表(はしかけ緑のくすり箱)、琵琶湖博物館、担当。

2023年11月19日、びわ博フェスポスター発表(はしかけ海浜植物守りたい)、琵琶湖博物館、担当。

2023年11月21日、季節の植物でアロマウォーターを作ろう、琵琶湖博物館、運営(はしかけ緑のくすり箱共同)、副担当。

2023年10月7・13・15日、フィールドレポーター「びわ博フェスポスター発表(ヒガンバナ調査)」に関する助言。

他の博物館・機関等の主催行事

2023年5月17日、「滋賀の植物学の歴史から保全まで」、守山市地域教育学級、守山市立小津公民館、講師。

2023年7月8日、講義「佐波江浜の植物多様性」、海浜植物「ハマゴウ」の保全、((独)水資源機構・琵琶湖開発総合管理所・佐波江地区自治会)、佐波江公民館(近江八幡市)、講師。

2024年2月17日、「琵琶湖の海浜植物はいつ、どこからきたのか?」、滋賀植物同好会、草津市立市民総合交流センター、講師。

2024年2月24日、「琵琶湖に生育する海浜植物の来歴を探る -DNAの塩基差異列を用いた解析から分かってきたこと-」、石川植物の会、石川県立自然史資料館、講師。

メディアへの対応

2023年12月9日、産経ニュース(ネット)滋賀版、滋賀・伊吹山の希少植物、在来種だった「信長の薬草園」伝説どうなる? <https://www.sankei.com/article/20231208-JBJAL2R6GNMUFK05ZZQ30YXLTY/>

2024年2月25日、朝日新聞滋賀版朝刊、宣教師の持ち込み説を否定、取材対応。

2024年2月25日、朝日新聞DEGITAL(有料記事)、イブキノエンドウ、在来種と判明 牧野博士は「宣教師が持ち込んだ」 https://www.asahi.com/articles/ASS2Q64BGS2LPTJB00D.html?iref=sp_gold_latest_n

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

ウェブサイトの管理運営、2023年度。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本整備、収蔵庫維持管理、担当。

植物収蔵庫清掃、10回。

大掃除(C展示室)、実施。

防虫トラップ調査、2回。

植物収蔵庫特別観覧対応、5件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室、いきものコレクション「植物分野」の維持管理、主担当。

C展示室、川から森への維持管理、主担当。

おとなのディスカバリー展示入れ替え、植物細密画4件、植物写真パネル9件、植物写真(モニター)4、ハンズオン4件、季節の植物2件、植物交流棚2件。

ディスカバリールーム「におってみよう・さわってみよう」、副担当。

おとなのディスカバリー「植物分野」、主担当。

モーニングレクチャー、講義「滋賀県で見つかる甲虫の変化について」、1回(4日)。

【企画調整活動】

情報システムの基盤整備、2023年度、主担当。

【研究部関連事業】

韓国洛東江生物資源館との交流、担当。

韓国国立洛東江生物資源館との両機関協力方案議論，2023年9月19日～21日，国立洛東江生物資源館，
(Gyeongsangbuk-do, Republic of Korea).

韓国国立洛東江生物資源館との両機関協力方案議論，2023年12月6日～8日，琵琶湖博物館。
油日湿原の植物保全活動に関する助言と技術的サポート，2023年4月27日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023年度，図書委員。

【海外渡航】

2023年9月19日～9月21日，洛東江生物資源館（韓国），新規事業推進現況および成果交流，発表者。

【館外の活動】

滋賀県ヨシ群落保全審議会，委員（2021年12月1日～）

東近江市と甲賀市の希少植物の域外保全活動に関する助言，（2023年4月12日）。

東近江市の希少植物の保全活動に関する助言，（2023年4月24日）。

滋賀県に生育する絶滅危惧種（海浜植物）の種子の保存，（2023年6月1日～7月31日）。

佐波江浜（近江八幡市）の保全活動，（2023年7月8日）。

滋賀県ヨシ群落保全審議会，（2023年9月14日）。

淡水魚という視点から、まだ多く眠っている琵琶湖の魅力を発掘し、その魅力を発信することを目指して、コイ科を中心とした淡水魚類の系統分類に関する研究を行っている。また、持続可能な琵琶湖やその利用の実現のために、魚類多様性の保全に関する研究にも取り組んでいる。琵琶湖は淡水魚進化の場であり、人との関係性も深い東アジアの中でも特筆すべき場所である。それをメインに研究する機関として、琵琶湖博物館が東アジアの淡水魚研究の拠点となるよう事業を展開する。

<研究>

(1) コイ科魚類の系統分類学的研究

今年度は、カマツカ亜科魚類の表在感丘に関するデータ蓄積を実施した。特定に分類群に特有のパターンを発見するなど、大きな成果が得られた。また、モロコ類の形態計測、脊椎骨数などのデータ取得を実施した。

(2) 標本に基づく過去の魚類相調査

魚のにぎわい復活に向けた保全目標や再生に向けた戦略を立てるための基礎情報を、標本調査で積み上げる必要がある。今年度も、昨年度に引き続き、大正時代の川端重五郎標本調査、長田芳和研究室コレクションの魚類標本調査などを実施した。石川千代松コレクションの論文は魚類学雑誌から出版された。川端重五郎標本は、その全貌を明らかにし、現在、論文執筆中である。新たに、三方湖を含む福井県産魚類標本なども進行中である。

<博物館事業>

博物館事業では、魚類標本の整備、企画・広報営業課として博物館実習、広報活動、水族担当、企業連携などの業務、魚類の保護増殖に関することなどを実施した。魚類標本整備の主担当者として、魚類標作製、標本受入、学部研究者の標本調査対応などを行った。企画・広報営業課では、SNS、YouTubeによる発信、取材・ロケ対応などに取り組んだ。博物館実習では、9名の学生たちの指導を行った。水族については、ゼニタナゴの人工繁殖や現地の保全団体・博物館との連携による分譲を実現した。水族企画展示室の飼育員の押し展示、塗り絵展示などを開催した。また、3期におよぶ水族イラスト展を実施した。企業連携では、伊藤忠商事株式会社との希少魚の繁殖プロジェクト(上記、ゼニタナゴ)と生態観察池を使ったため池の環境改善実証実験、株式会社 叶 匠壽庵とのイチモンジタナゴ保全活動などを実施した。

印刷物

【学術論文】

川瀬成吾・山本義彦・鶴田哲也・田中耕司 (2023) 大阪府淀川におけるツチフキ (コイ科カマツカ亜科) の再発見. *Ichthy*, 33 : 14-20.

川瀬成吾・中江雅典・篠原現人 (2023) 石川千代松が収集した魚類標本から見る明治中期の琵琶湖の魚類相. *魚類学雑誌*, 70 : 147-159.

石崎大介・川瀬成吾 (2024) 琵琶湖北湖の水深 50m で採捕されたアカザ. *Ichthy*, 42 : 31-33.

【専門分野の著作】

泉野珠穂・川瀬成吾 (2024) ハシブトガラスに捕食された産卵期のホンモロコ. *淡海生物*, 5 : 4-5.

【一般向けの著作】

川瀬成吾 (2023) 標本の重要性. *JEAS NEWS*, 10-11.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

川瀬成吾 (2023) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち 静かなる侵略者タイリクバラタナゴ. *産経新聞滋賀版*, 6月18日.

川瀬成吾 (2023) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち 野洲川中流にすむズナガニゴイ. *産経新聞滋賀版*, 12月10日.

川瀬成吾 (2024) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち. 約100年忘れ去れたヌマムツ. *産経新聞滋賀版*, 3月10日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 佐藤萌柚・谷口倫太郎・川瀬成吾・中島 淳・熊谷正裕・齋藤拓輝・武山智博（2023年9月2日）タナゴ亜科魚類における求愛・産卵行動の種間比較. 2023年度日本魚類学会年会, 長崎大学, [口頭発表].
- 伊藤 玄・倉本真央・近藤昭宏・中村昌文・石崎大介・田口貴史・川瀬成吾・朝見麻希・後藤祐子・山中裕樹（2023年9月3日）環境DNA分析に基づいた琵琶湖南湖における淡水魚類相の現状. 2023年度日本魚類学会年会, 長崎大学, [口頭発表].
- 川瀬成吾（2023年9月3日）分布・魚類相/保全セッション. 2023年度日本魚類学会年会, [座長].
- 川瀬成吾（2023年9月4日）シーボルトの淡水魚収集. 2023年度日本魚類学会シンポジウム, 長崎大学, [口頭発表].
- 川瀬成吾（2023年9月4日）シーボルト魚類標本と江戸参府紀行. 2023年度日本魚類学会シンポジウム, [コンビナー・司会進行].
- Kawase, S. (2023年9月20日) To understand freshwater fish diversity in East Asia: new perspective of the cephalic lateral line systems in Gobioninae, Cyprinidae. 琵琶湖博物館・洛東江生物資源館合同セミナー, 洛東江生物資源館, [口頭発表].
- 川瀬成吾（2023年10月20日）日本産ニゴイ類の形態的特徴. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 川瀬成吾（2023年11月18・19日）第77回魚類自然史研究会. [企画運営・司会進行].
- 北村淳一・守屋和幸・川瀬成吾・山野ひとみ（2023年11月18日）*Rhodeus smithii* (Regan, 1908) は日本のどの水系の種カゼトゲタナゴに形態が近いのか?. 第77回魚類自然史研究会, 三重県総合博物館, [口頭発表].
- 田畑諒一・川瀬成吾・妹尾裕介（2023年11月18日）滋賀県のツチフキは外来種なのか?. 第77回魚類自然史研究会, 三重県総合博物館, [口頭発表].
- 北尾圭梧・三内悠吾・小粥淳史・大貫溪介・山本義彦・鶴田哲也・田中耕司・岡田龍也・川瀬成吾（2023年11月18日）淀川流域において相次ぐツチフキの再発見. 第77回魚類自然史研究会, 三重県総合博物館, [口頭発表].
- 佐藤萌柚・川瀬成吾・杉野 潤・谷口倫太郎・齋藤拓輝・武山智博（2023年11月18日）ミヤコタナゴは二枚貝を忘れていない. 第77回魚類自然史研究会, 三重県総合博物館, [口頭発表].
- 澤田謙也・谷口倫太郎・川瀬成吾・武山智博（2023年11月18日）岡山県旭川水系で採集されたアユカケについて. 第77回魚類自然史研究会, 三重県総合博物館, [口頭発表].
- 細谷和海・藤田朝彦・川瀬成吾（2023年11月19日）来日200年の節目から考えるシーボルトの魚類標本をめぐる研究の課題と展望. 第77回魚類自然史研究会, 三重県総合博物館, [口頭発表].
- 川瀬成吾（2023年12月17日）琵琶湖地域の水田生物研究会. ミニシンポジウム『『みどりの食料システム戦略』は田んぼの生きものに何をもちたすか], [司会進行].
- 望月健太郎・和田英敏・松本達也・川瀬成吾（2024年3月9日）八木貞助により収集された東京大学総合研究博物館所蔵のスワモロコの標本, 第78回魚類自然史研究会, 近畿大学農学部, [口頭発表].
- 川瀬成吾（2024年3月9・10日）第78回魚類自然史研究会. [企画運営・司会進行].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「コイ科カマツカ亜科魚類の比較解剖学的研究」, (2021年度~).
- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 分担者 (2019年度~2023年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「日本産ニゴイ類の比較形態学的研究」(研究代表者: 川瀬成吾), 研究代表者 (2022年度~2024年度).
- 科学研究費助成事業(基盤C)「博物館における分類学の再考と再構—生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦—」(研究代表者: 川瀬成吾), 研究代表者 (2023年度~2025年度).
- 2023年度クワタ水・環境科学研究助成「標本×遺伝×形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る—琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に—」(研究代表者: 川瀬成吾), 研究代表者 (2022年度~2023年度).
- 中辻創知社研究費助成「希少淡水魚ヨドゼゼラの系統保存手法確立に向けた脂肪酸分析による餌資源の解明」(研究代表者: 菅原巧太郎), 共同研究・協力者 (2023年度).
- 中辻創知社研究費助成「生息域外保全で継代飼育されている魚類の側線系は退化しているのか?」(研究代表者: 中江雅典), 共同研究・協力者 (2023年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

関西自然保護機構，運営・編集委員。
地域自然史と保全，査読，2件。
淡海生物，査読，1件。

【受賞など】

淡海生物賞（淡海生物研究会），2024年3月20日，論文賞。（泉野珠穂・川瀬成吾，ハシブトガラスに捕食された産卵期のホンモロコ，淡海生物）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年8月8日，近畿大学農学部水産学科亀甲ゼミ生「ようこそ！琵琶湖博物館へ 探ろう湖と人の関係史」，実習。
2023年8月23日，博物館実習生5名，博物館実習，魚類標本整理。
2023年8月24日，博物館実習生9名，博物館実習，広報の実習（SNS発信について）。
2023年10月11日，近畿大学環境管理学科2回生「学芸員への道」，特別演習。
2024年3月7日，滋賀県立大学大学院生，ヨシノボリについて，研究指導。
2024年3月8日，岡山理科大学地球環境学部，魚類の計測・計数方法，研究指導。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12件。
クエリの質問対応，8件。
はしかけ「うおの会」，フナの研究，5件。

他の博物館・機関等の主催行事

2023年5月27日，高津高校SSH河川調査，令和5年度高津高校SSH「台湾サイエンスツアー」第1回事前学習会，大阪府高槻市芥川，講師。

視察等への対応

2023年5月24・25日，館内見学，コートジボワール JICA 研修，琵琶湖博物館。

メディアへの対応

2023年5月1日，YouTube「マーシーの獲ったり狩ったり：琵琶湖博物館学芸員が投網したら巨大絶滅危惧種の魚をゲット…！！【第3回春のタナゴ大感謝キャンペーン、琵琶湖ガサガサ探検記119】」，マーシーと一緒にガサガサ・魚解説，（4月24日）。
2023年5月21日，産経新聞「130年前 ぼてじゃこ豊富に」，石川千代松論文の解説。
2023年6月5日，毎日放送「チャンネルキャットフィッシュ」，チャンネルキャットフィッシュの映像撮影協力，（5月31日）。
2023年6月21日，毎日新聞「石川千代松・過去の魚類相論文出版」，石川千代松論文について解説，（6月7日）。
2023年6月17日，毎日放送「ニュース：水族展示室通路開通」，水族展示室について，（6月17日）。
2023年6月20日，朝日放送「ニュース：ツチフキ再発見」，ツチフキ再発見論文の解説，（6月20日）。
2023年6月21日，読売新聞「ツチフキ再発見」，ツチフキ再発見の論文解説，（6月20日）。
2023年6月22日，大津経済新聞「水族展示室開通」，水族展示室について，（6月21日）。
2023年6月23日，NHK「ニュース：ツチフキ再発見」，ツチフキ再発見論文の解説，（6月22日）。
2023年8月12，19，26，9月1日，毎日放送「関西ジャニ博：平安神宮の生態調査」，生態調査の協力・イチモンジタナゴの解説・放流，（6月5日・6月14日・7月8日）。
2023年7月12日，NHK「おうみ発630：石川千代松論文」，石川千代松論文の解説，（6月13・14日）。
2023年8月9日，大津経済新聞「水族イラスト展」水族イラスト展第一期について解説，（8月9日）。
2023年8月13日，日本テレビ「超無敵クラス」，琵琶湖の基礎情報、湖魚の写真提供など，（6月27日～8月12日（メール取材））。
2023年8月17日，朝日新聞「ツチフキ淀川で再発見」，ツチフキ再発見論文の解説，（7月21日）。
2023年8月24日，京都新聞「水族イラスト展地域情報欄での紹介」，水族イラスト展の解説，（8月上旬）。

2023年9月15日, eo光ちゃんねる「ゴエと忠志のDEEP 関西：琵琶湖博物館」, 琵琶湖博物館の紹介・出演, (8月21日).

2023年9月19日, 読売新聞「水族イラスト展第二期募集開始」, 水族イラスト展第二期募集について解説, (9月18日).

2023年10月27日, NHK 大津「第二回びわっぴーぬりえ大賞」, びわっぴー塗り絵の選考委員, (10月18日).

2024年1月3日, YouTube「マーシーの獲ったり狩ったり：生物系 YouTuber マーシー氏、30年見つからなかった幻の魚を投網で捕獲し論文に載ってしまうwwwwwwww【#春のタナゴ大感謝キャンペーン】」, 撮影協力・出演, (11月24日).

2024年2月4日, びわ湖放送「BBN トンボ 100 大作戦」, トンボ展示の解説・取材調整, (2月4日).

2024年2月9日, ZTV「BBM トンボ大作戦」, トンボ展示の説明・取材調整, (2月4日).

2024年2月12日, びわ湖放送「寿長生の郷 イチモンジタナゴ再放流」, イチモンジタナゴ保全についてコメント, (2月12日).

2024年2月15日, 毎日放送「ニュース：タンゴスジシマドジョウお引っ越し」, 取材調整, (2月15日).

2024年2月21日, 朝日放送「これ余談なんですけど…：ここがすごい関西の水族館」, 取材調整, (1月15日).

2024年2月26日, ZTV「第三期水族イラスト展」, 取材調整, (2月24日).

2024年3月16・24日, BS よしもと「レギュラーのあるある探検隊：滋賀のおすすめスポット琵琶湖博物館」, コメント, (1月29日).

2024年3月末, YouTube「りょうまい夫婦」, 取材対応, (3月18日).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, 動画作成, 8 件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料保管, 担当.

水族保護増殖, 担当.

魚類液浸標本, 担当.

魚類液浸標本, 特別観覧対応, 4 件.

魚類液浸標本, 寄贈受入対応, 1 件.

魚類生体, 利用申請対応, 2 件.

魚類生体, 貸出対応, 1 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育員の推しから見る琵琶湖とその周辺の魚たち (2023年5月9日～9月3日), 飼育員それぞれの推しの魚を展示し、来館者に愛を伝える, 主担当.

思い思いのカラーで彩ろう！ぬりえ・イラスト展示室 (2023年9月9日～2024年4月7日予定), 本物の魚を見て来館者に塗り絵やスケッチをしてもらう。水族展示室と一緒に盛り上げてもらう, 主担当.

水族イラスト展 (第一期～第三期: 2023年8月1日～2024年4月7日予定), それぞれの期ごとのテーマのイラストを応募してもらい、そのイラストを展示し、水族展示室と一緒に盛り上げる, 担当.

モーニングレクチャー, 講義「クラウドファンディングと保護増殖センター」, 1回 (4日).

【企画調整活動】

新任職員研修, 取りまとめ・琵琶湖博物館 (2023年4月18・20日).

博物館実習, 主担当 (2023年8月21日～25日).

【広報営業活動】

SNS 発信, 記事のアップ.

資料提供, 記事のアップ.

【研究部関連事業】

特別研究員受入, 担当学芸員, 1 件.

薬品管理, 担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2023年9月19～21日，大韓民国 慶尚北道 尚州市，洛東江生物資源館との協定。

2023年11月3～14日，イギリス・ロンドン，ロンドン自然史博物館での標本調査，科研費。

【館外の活動】

京都市環境審議会生物多様性保全検討部会，委員（2021年～）。

滋賀県マザーレイクゴールズ学術フォーラム，委員（2022年～）

奈良県外来生物対策アドバイザー，委員（2023年～）。

研究活動では、(1)少花粉スギミニチュア採種園のDNA品種識別について、および(2)ドローンを活用した森林モニタリングをテーマに研究を進めた。

(1)少花粉スギミニチュア採種園のDNA品種識別

昨年度に引き続き、研究を進めた。今後の植栽品種として強く期待されている少花粉スギについて、滋賀県の林木育種場で育成・管理をしている少花粉スギミニチュア採種園の母樹の品種をDNA解析により確定することで、今後の少花粉スギの種子生産・管理をするためのデータベースを作成することを目的に進めた。これまでに、品種識別手法の確立、DNAの抽出、マイクロサテライト解析を進め、今年度は、解析結果をもとに品種の判別を行った。

(2)ドローンを活用した森林モニタリング

現在、滋賀県の民有林では、人工林面積のうち約7割が利用期を迎えている。今後、これらを適切に伐採し、木材資源を循環しつつ環境に配慮した森林づくりを行っていく必要があるが、森林の育成には長い年月がかかり、その間に伐採や造林、林木の成長等に伴う様々な変化が起こる。そのため、健全な森林へ誘導できているかについてモニタリングが必要と考えるが、県内の人工林を複数回モニタリングしていくには膨大な時間と労力がかかる。今後、森林の状況を適切に把握するためには、航空測量と併せて、機動性に優れ、かつ高精細なデータを得られるドローンを活用したモニタリングが有効であると考えられる。

そこで、過去に針広混交林化を進めたところの現状把握と、伐採後の森林の更新状況把握を対象とした、ドローンを活用した森林モニタリング手法を確立に向けて検討を行うこととした。昨年度は、琵琶湖岸のクロマツ林を対象に月に1回程度ドローン空撮を行い、撮影したデータからオルソ画像およびVARI画像(植生色を強調した画像)を作成し、VARI画像による植生変化の目視判読が容易にできそうであることが確認できた。今年度は、人工林間伐地を対象として、季節ごとにドローン空撮を行い、間伐後の人工林における樹冠判読の検討を進めた。ドローン空撮と合わせて9月に実施した毎木調査から樹冠投影図の作成を行った。オルソ画像と樹冠投影図を重ね合わせたところ、位置や樹冠面積がおおよそ一致し、高木層や亜高木層についてはドローンを活用して現状を把握できることが示された。

また、令和5年度～令和7年度の共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系モニタリング-植生・河川・土地利用の時空間変動解析-」において研究代表者を務めた。今年度は、湖岸やヨシ群落等の各調査対象地において、共同研究のメンバーとともに調査を行った。

交流事業では、はしかけ里山の会と共同で、里山体験教室の企画・運営を行った。野洲市大篠原の里山を拠点とし、年に4回一般の方と博物館の外へ出て実際に里山の体験を行う企画であったが、夏と冬は天候不良により中止となったため、春と秋の2回開催となった。また、はしかけ緑のくすり箱と共同で、植物の水蒸気蒸溜による芳香成分抽出を行った。今年度は年に2回、春と秋に一般の方と季節の植物でアロマウォーターを作る体験を行う企画を実施した。担当しているはしかけ里山の会では、独自活動を実施しており、この活動の支援を行った。交流イベントの他に、情報誌「びわはく」の編集を担当し、びわはく第8号の制作に携わった。

印刷物

【一般向けの著作】

美濃部諭子 (2023) フィールドへ びわ博いちおし²⁸ 季節ごとの里山との関わり. 京都新聞滋賀版, 5月26日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

美濃部諭子・山中大輔・林 竜馬 (2023年11月17日) ドローンを活用した森林モニタリングに向けた間伐後人工林における樹冠判読の検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「ドローンを活用した森林モニタリングに向けた間伐後人工林における樹冠判読の検討」,
(2023 年度).

琵琶湖博物館共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系モニタリングー植生・河川・土地利用の時空間変動解析ー」(研究代表者:美濃部諭子), 研究代表者 (2023 年度~2025 年度).

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者:亀田佳代子), 研究協力者 (2019 年度~2023 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 6 件.

フロアトーク, 3 件.

はしかけ運営「里山の会」, 主担当.

2023 年 4 月 23 日, 里山の春を楽しむ, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 企画運営 (はしかけ里山の会共同), 主担当.

2023 年 7 月 9 日, 里山の夏を楽しむ, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 企画運営 (はしかけ里山の会共同), 主担当, 中止.

2023 年 10 月 15 日, 里山の秋を楽しむ, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 企画運営 (はしかけ里山の会共同), 主担当.

2024 年 1 月 21 日, 里山の冬を楽しむ, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 企画運営 (はしかけ里山の会共同), 主担当, 中止.

2023 年 5 月 16 日, 季節の植物でアロマウォーターを作ろう, 琵琶湖博物館, 企画運営 (はしかけ緑のくすり箱共同), 主担当.

2023 年 11 月 21 日, 季節の植物でアロマウォーターを作ろう, 琵琶湖博物館, 企画運営 (はしかけ緑のくすり箱共同), 主担当.

他の博物館・機関等の主催行事

2023 年 10 月 28 日, 講義「琵琶湖と森のつながり」, Toyota SocialFes (トヨタ自動車株式会社), 琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C 展示室, 「琵琶湖の川と森を守る人々」コーナー展示入れ替え, やまのこ受入施設の紹介, 2022 年 11 月~.

モーニングレクチャー, 講義「人工林の過去、現在、これからについて」, 1 回 (4 日).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023 年度, 滋賀県琵琶湖環境部びわこ材流通推進課普及指導係・主任技師を兼務.

淡水二枚貝イシガイ科は、希少魚であるタナゴ類の産卵場、ろ過摂食による水中懸濁物の除去および付着藻類の生息場など淡水生態系において様々な役割を果たしている。しかしながら、近年、イシガイ科は世界的に減少傾向にあり、日本国内では13属26種のうち13種が環境省のレッドリストに掲載されており、保全が急務な状況である。一方で、イシガイ科の長期的な水槽飼育や再生産手法は確立されておらず、イシガイ科の保全の課題となっている。そこで、イシガイ科の水槽飼育手法の確立に向けて脂肪酸分析を用いたイシガイ科の餌資源の解明に取り組んでいる。そのほか、脂肪酸分析を用いた餌資源の解明手法を魚類にも適用し、飼育が困難な魚種の最適餌料の選定に関する研究も魚類担当の学芸員と協力して進めている。また、事業では、展示係としてアトリウム展示等の計画と実施の進行管理（主担当）およびディスカバリールームに関すること（副担当）に従事した。さらに、水族展示の担当として、水族展示における展示の維持管理に関すること（主担当）に従事した。

<研究部に関すること>

研究部として琵琶湖環境研究推進機構の調査員に任命され、本部会議および幹事会議・調査員会議に参加して「琵琶湖流域におけるプラスチックごみの実態把握と科学的知見に基づく総合的な情報発信に関する研究」の計画策定における意見出しや「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」に係る第3期研究成果報告書および総括レポートの公表に向けた文章校正などを行った。また、伊藤忠商事株式会社と滋賀県との「社旗貢献連携協定」に基づいて伊藤忠商事株式会社と協働で「希少淡水魚 協働保全プロジェクト」を実施しており、その一環として琵琶湖博物館の屋外展示にある生態観察池の水質および底質の月に一回のモニタリングや環境改善を目的とした池干しの実施に取り組んだ。

淡水二枚貝イシガイ科の餌資源解明に向けた研究では、大阪府八尾市にあるイシガイ科が豊富なため池においてイシガイとミナミタガイの筋組織中の脂肪酸組成を分析し、緑藻・藍藻由来脂肪酸、珪藻由来脂肪酸、渦鞭毛藻由来脂肪酸、細菌由来脂肪酸、ならびに高等植物由来脂肪酸をモニタリングすることで、季節的にどの種類の餌料を同化しているのか調査した。さらに、屋外のコンクリート水槽を用いてイシガイとミナミタガイを飼育して、水槽飼育において野外と比較して不足する脂肪酸を調べた。今年度のモニタリングでは、屋外のコンクリート水槽における飼育においてため池の個体と比較して必須脂肪酸であるDHA（ドコサヘキサエン酸）が約5倍低くなることが明らかになった。今後、この現象が水槽飼育でよく起きる現象であるか複数の水槽実験で再現性を確認する予定である。

飼育が困難な魚種の最適餌料の選定に関する研究では、琵琶湖博物館において飼育系が確立されていないヨドゼゼラを対象として研究を行った。大阪府を流れる淀川の城北ワンドにおいてヨドゼゼラを定期的に採取して、季節的にヨドゼゼラが同化している餌資源について脂肪酸分析を用いて評価した。さらに、室内飼育個体が野生個体と比較してどの脂肪酸が不足するかを明らかにするため、琵琶湖博物館で飼育されているヨドゼゼラについても定期的に採取し、脂肪酸組成を分析した。現在は、採取したヨドゼゼラの脂肪酸分析を進めている状況である。

<事業部に関すること>

展示係の業務として2023年度はアトリウム展示を実施する外部の団体との調整業務および繁忙期やスタッフ不在時のディスカバリールームの支援業務を実施した。企画展示では、田んぼやその周辺にいる生き物として比較的流水を好む二枚貝と止水を好む二枚貝の形態を比較した展示を実施した。水族展示の担当としては、2023年2月に発生したピロコオオナマズ水槽の破損を受け、水槽再生を目指して企画された水族イラスト展（第一期～第三期）や塗り絵展の運営業務を実施した。さらに、水族トピック展示として、「今が旬！氷魚の展示」を企画・実施した（主担当）。また、クラウドファンディングの返礼に向けて、水族棟に置かれている不要備品の廃棄業務を計画的に進めた。

印刷物

【専門分野の著作】

菅原巧太朗 (2023) アオコキラー、イシガイ科二枚貝をどうやって増やすか. *生物工学会誌*, 101(4): 202.
https://doi.org/10.34565/seibutsukogaku.101.4_202

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

菅原巧太朗・藤林 恵・遠田幸生・荒木美穂・岡野邦宏・宮田直幸 (2019) 富栄養化湖沼の浅い沿岸域における藍藻類の日周鉛直移動と栄養塩動態の関係. *日本水処理生物学会誌*, 55(2): 49-57.
<https://doi.org/10.2521/jswtb.55.49>

- Sugawara, K., Fujibayashi, M., Okano, K., Enda, Y., Ichinoseki, S., Taniguchi, Y. and Miyata, N. (2021) Assimilation of cyanobacteria by the freshwater bivalve *Nodularia douglasiae*: Insights from long-term laboratory and field feeding experiments. *Journal of Water and Environment Technology*, 19(2): 74-84. <https://doi.org/10.2965/jwet.20-148>
- Sugawara, K., Sasaki, Y., Okano, K., Watanabe, M. and Miyata, N. (2022) Application of eDNA for monitoring freshwater bivalve *Nodularia nipponensis* and its glochidium larvae. *Environmental DNA*, 4(4): 908-919. <https://doi.org/10.1002/edn3.304>

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- Sugawara, K., Sugawara, S., Okano, K., Watanabe, M. and Miyata, N. (2023年5月18日) Detection of eDNA from unionid bivalve *Nodularia nipponensis* using multi-copy nuclear DNA marker. The eDNA Society International Meeting 2023, ピアザ淡海 (滋賀県大津市), [ポスター発表].
- 菅原巧太朗 (2023年6月16日) 淡水二枚貝タテボシガイを用いた生態工学的な水質浄化手法の構築. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大塚泰介・鈴木隆仁・川瀬成吾・今田舜介・菅原巧太朗 (2023年12月17日) 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館, [座長].
- 菅原巧太朗 (2023年3月3日) 淡水二枚貝タテボシガイの藍藻資化能の評価. 日本陸水学会近畿支部会第35回研究発表会, 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス (大阪府堺市), [招待講演].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「二枚貝イシガイ科の成貝の定着に関する研究」, (2023年度).
- 公益財団法人 中辻創智社 研究費助成「希少淡水魚ヨドゼラの系統保存手法確立に向けた脂肪酸分析による餌資源の解明」(研究代表者: 菅原巧太朗), 研究代表者 (2023年7月~2024年3月).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2023年, 秋田県立大学生物資源科学部学生, 秋田県八郎湖における二枚貝類の調査.
- 2023年, 秋田県立大学生物資源科学部学生, 底質の粒径分布の分析.
- 2023年, 秋田県立大学生物資源科学部学生, 底質の有機態炭素量の分析.
- 2023年, 近畿大学大学院農学研究科修士課程学生, 大阪八尾市大阪経済法科大学内ふれあい池における二枚貝類の調査.
- 2023年, 近畿大学大学院農学研究科修士課程学生, 近畿大学農学部キャンパス内のコンクリート水槽における飼育二枚貝類の調査.
- 2023年, 近畿大学大学院農学研究科修士課程学生, 水質分析の指導.
- 2023年, 近畿大学大学院農学研究科修士課程学生, 底質分析の指導.
- 2023年, 近畿大学大学院農学研究科修士課程学, 底質の粒径分布の分析.
- 2023年, 近畿大学大学院農学研究科修士課程学生, 底質の有機態炭素量の分析.
- 2023年, 近畿大学大学院農学研究科修士課程学生, 二枚貝・水中懸濁物質・底質の脂肪酸分析.
- 2023年, 近畿大学大学院農学研究科修士課程学生, 脂肪酸組成のデータ解析の指導.
- 2023年, 西宮市立西宮高等学校地球科学部生徒4名, 引率教員1名, セタシジミの飼育方法についての指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 10件.
- クエリ, 回答, 2件.
- フィールドレポーター, 「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」, 報告書巻頭言担当.
- 2023年8月1日, 第46回自然調査ゼミナール(貝類班), 滋賀県中学校研究会理科部会環境教育委員会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2023年11月19日, びわ博フェス2023「学芸員のスペシャルトーク 淡水にすむ二枚貝について知ろう!」, 琵琶湖博物館館内イベント, 琵琶湖博物館, 講演者.

他の博物館・機関等の主催行事

- 2023年10月29日、まるっと体感八郎湖2023～八郎湖をきれいにする二枚貝について知ろう～、三湖伝説連絡協議会、秋田県八郎湖流域馬踏川水系支流吉田川、講師。
- 2024年2月3日、すまいる・あくしょんワークショップ～びわ湖オリジナルアクセサリー作り体験～「琵琶湖の二枚貝や真珠をつくる二枚貝について知ろう!」、企画/三方よし!子どもの笑顔プロジェクト実行委員会、協力/一般社団法人ビワコパールサプライズ、琵琶湖博物館、講師。
- 2024年2月25日、長浜MLGs CAFE「淡水二枚貝イシガイ科の生態と水環境中での役割」、NPO法人近江淡水生物研究所、長浜まちづくりセンターさざなみタウン、講師。

メディアへの対応

- 2023年12月6日、びわ湖放送「BBCニュース」、氷魚の展示について、(12月5日取材対応)。
- 2023年12月12日、びわ湖大津経済新聞、琵琶湖博物館で展示されている氷魚、(12月7日取材対応)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 貝類標本の維持管理、主担当。
- 水族標本の保管、副担当。

他の博物館・機関等の活動

- 2023年10月10日、日本財団「海の学びミュージアムサポート」による沖島での貝類標本採取と標本の作製(きしわだ自然資料館、結 creation)、沖島、調査協力。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- アトリウム展示等管理、主担当。
- ディスカバリールーム維持管理、副担当。
- 水族展示室維持管理、主担当。
- 第31回企画展示 お米展、Chapter1 田んぼは生き物の宝庫 二枚貝に関する展示、7月15日～11月19日、担当。
- みんなでつくろう水族展示!水族イラスト展、第一期:琵琶湖の魚、8月1日～10月29日、副担当。
- 思い思いのカラーで彩ろう!塗り絵・イラスト展示室、9月9日～未定、副担当。
- みんなでつくろう水族展示!水族イラスト展、第二期:みんなが見たいびわ博水槽、10月31日～1月21日、副担当。
- 水族トピック展示、今が旬!氷魚の展示、12月2日～12月24日、主担当。
- 水族展示、ヒウオからアユへ 成長観察展示、1月4日～3月9日、主担当。
- みんなでつくろう水族展示!水族イラスト展、第三期:守りたい水辺の生き物、1月27日～4月7日、副担当。
- モーニングレクチャー、講義「二枚貝の食事について」、1回(4日)。
- 交流員と話そう、「琵琶湖の二枚貝のフィルター能力」、内容助言。

【研究部関連事業】

- 伊藤忠商事(株)連携研究、ため池実証実験(亀田佳代子・芳賀裕樹・大塚泰介・鈴木隆仁・川瀬成吾・中川信次・根来 健と共同)。
- 琵琶湖地域の水田生物研究会、主催(大塚泰介・鈴木隆仁・川瀬成吾・今田舜介と共同)。
- 水族棟および研究棟に配備された不要備品類の廃棄、42件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

- 2023年4月1日～、琵琶湖環境研究推進機構、調査員。

【館外の活動】

- 2021年4月1日～、NPO法人草木谷を守る会、理事。
- 2022年4月1日～、秋田県立大学生物資源科学部、客員研究員。

主なテーマである水田利用魚類の生態と保全に関する研究については、今年度も20年前に行った調査のモニタリングを行ない、水田を利用しようとする魚類の現状についてデータを収集すると共に、講演や一般向けの出版物などでもその成果を紹介した。このほか、滋賀県内の中山間地域水田地帯に出現するホトケドジョウなどの魚類の分布調査、県内の水田地帯内におけるヒラマキガイ科貝類を中心とした淡水貝類の分布調査などを行うと共に、調査の対象種を広げ、水生昆虫や両生類、爬虫類などについても分布情報を収集した。その結果、これまでに記録の無かった地域における水生昆虫の発見や県内で記録の乏しい生物の情報を得ることができた。これらの結果は一部を学会や研究会で発表しており、さらに論文化に向けて準備を行っている。さらに、この情報を活用して滋賀県内におけるヌマガエルの2010年以降の分布拡大の実態について報文が出版された。これらに加えて、2020年度より開始した科学研究費助成事業(基盤C)「希少淡水魚アユモドキの水田水域への産卵遡上に適する魚道構造の研究」についても当館で追加の実験を行なうと共に、共同研究者が国内外の学会において発表を行っている。

このほか、希少淡水魚の保全に関する共同研究として当館の保護増殖センターや水族施設を活用して、様々な魚類の自然繁殖、生息域外保全に向けた取り組みを開始したほか、ハリヨ、カワバタモロコをはじめとした企業や地域と連携した生息域外保全の取り組みを継続している。特に屋外で希少淡水魚の生息域外保全を行っているビオトープでは、アメリカザリガニの急増が課題となっており、他の研究者や活動者と影響を低減させるための情報交換を行っている。

また、今年度より博物館学研究領域長となり、研究領域でのゼミを開催するなど、研究領域内での意見交換を活発化させることを試みた。さらに、科学研究費助成事業(基盤C)「自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価値の創出に関する研究」が採択され、今年度は国内の自然史系博物館でのレファレンスの仕組みや博物館への質問など利用者や地域住民による情報提供から生まれた知見の集積について聞き取り調査など基礎情報の収集を中心とした。本研究は昨年度で終了した共同研究「地域の自然史情報集約の価値づけと集約の場としての博物館の機能」が発展したものであり、この共同研究の成果をまとめる作業を行なったほか、今年度も学芸員への質問から生まれた琵琶湖の外来魚の生態について質問者と共に報文を執筆するなど、事例研究を増やす努力を行っている。

交流係の中では、地域の博物館・施設や団体などと共催した観察会を多く開催すると共に、研究と関連した観察会の継続による地域の生物モニタリングを実践した。これらの中にはすでに10年が経過した観察会もあり、モニタリングの効果が見えているものもある。すでに幾度か学会発表を行っているが、論文化に向けた準備を行うと共に館内事業と研究が両立できる仕組みづくりについても検討していきたい。このほか、2023年2月10日に水族展示室のビワコオオナマズ水槽が破損する事故が起こった関係で、原因究明に関する第三者委員会の設置、運営や報道対応など様々な対応を行った。

なお、10月下旬より、慢性的な体調不良に陥ったため、これ以降の職務を遂行することができず、11月下旬より病気による長期特別休暇を取得することとなった。これにより交流係において主担当であったびわ博フェスなど、残りの職務については他の職員に任せてしまうかたちとなり、多くの人々に迷惑をかけてしまったことをお詫びしたい。

印刷物

【専門分野の著作】

黒川琉伊・金尾滋史(2024)琵琶湖北湖(近江舞子北浜)におけるコクチバスの産卵床形成行動の記録. *淡海生物*, 5: 18-21.

森 慎吾・中川 亮・小川 臨・金尾滋史(2023)滋賀県におけるヌマガエルの鳴き声による分布調査. *爬虫両棲類学会報*, 2023(2): 180-182.

金尾滋史 (2023) 滋賀県高島市内の水田で採集されたクビボソコガシラミズムシ. 滋賀むしの会会報 *Came 虫*, 213 : 15.

【一般向けの著作】

金尾滋史 (2023) 琵琶湖センス・オブ・ワンダー⑨ 田んぼがゆりかご、湖の命つなぐ. *湖国と文化*, 183 : 12-13.

金尾滋史 (2023) 琵琶湖の魚たち 「偉大なる」スジシマドジョウ オオガタスジシマドジョウ. *産経新聞*, 5月12日.

金尾滋史 (2023) 田んぼは生き物の宝庫 両生・爬虫類. In: 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館 (編) *滋賀県立琵琶湖博物館 第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然— (図録)*, 28-37.

金尾滋史 (2023) 人との関わりの深さは無限大 ナマズ. *生き物文化雑誌「ぎよぶる」*, 11: 138-139.

金尾滋史 (2023) 琵琶湖の魚たち 身近なドジョウ 料理もさまざま. *産経新聞*, 9月17日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

金尾滋史 (2023年6月3日) 希少淡水魚を飼育する水族館や博物館の責務と展望, 課題. 2023年度日本魚類学会市民講座「観賞魚としての日本産淡水魚の流通・飼育の現状と課題」, オンライン, [口頭発表].

金尾滋史・中島 淳・細谷和海 (2023年6月3日) 2023年度日本魚類学会市民講座「観賞魚としての日本産淡水魚の流通・飼育の現状と課題」, オンライン, [企画運営・コンビーナー].

小林 圭・濱口充幹・植松桜矢・高橋直己・金尾滋史・中田和義 (2023年8月30日) 横断構造物による希少淡水魚アユモドキの遡上阻害解決のための可搬魚道システムの構築. 第72回農業農村工学会大会講演会, 愛媛大学城北キャンパス (愛媛県松山市), [口頭発表].

植松桜矢・濱口充幹・小林 圭, 高橋直己・金尾滋史・中田和義 (2023年8月31日) V形断面可搬魚道におけるアユモドキの遡上に適した隔壁形状の検討. 第72回農業農村工学会大会講演会, 愛媛大学城北キャンパス (愛媛県松山市), [口頭発表].

金尾滋史・米田一紀・田畑諒一・川瀬成吾・菅原巧太郎・松田征也 (2023年9月26日~27日) 第89回近畿ブロック水族館技術者研修会, 琵琶湖博物館, オンライン, [企画運営].

Uematsu, S., Hamaguchi, M., Kobayashi, K., Kanao, S., Nakata, K. and Takahashi, N. (October 23, 2023) An examination of the positioning of partitions in the V-shaped portable fishway for the upstream migration of endangered loaches with a large body length, PAWEES2023 International Conference, Haeundae Hanhwa Resort, (Busan, Korea), [Oral presentation].

Kobayashi, K., Hamaguchi, M., Uematsu, S., Takahashi, N., Kanao, S. and Nakata, K. (October 23, 2023) Use of the V-shaped portable fishway for upstream migration of the endangered kissing loach (*Parabotia curtus*) in river control structures, PAWEES2023 International Conference, Haeundae Hanhwa Resort (Busan, Korea), [Oral presentation].

金尾滋史 (2023年10月28日) スジシマドジョウ類の生息域外保全. 公益社団法人 日本動物園水族館協会 (JAZA) 種保存会議シンポジウム 動物園水族館でつなぐ命—自然と共生する世界を目指して—, 天王寺動物園 (大阪市), [口頭発表・パネラー].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県内の中山間地域における水田利用魚類の分布と生態」, (2023年度).

琵琶湖博物館共同研究「日本産希少淡水魚類の自然産卵による繁殖技術確立と生息域外保全のあり方に関する研究」(研究代表者: 金尾滋史), 研究代表者 (2023~2026年度).

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価値の創出に関する研究」(研究代表者: 金尾滋史), 研究代表者 (2023~2025年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会，自然保護委員会希少淡水魚問題検討部会，委員。
日本貝類学会，研究連絡誌「ちりぼたん」，編集委員。
農業農村工学会，農村生態工学研究部会，代表幹事。
日本動物園水族館教育研究会，運営委員。
日本動物園水族館教育研究会，日本動物園水族館教育研究会誌，編集長。
魚類自然史研究会，幹事。
淡海生物研究会，淡海生物，編集委員。
淡海生物研究会，淡海生物，校閲，1件。
日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会ハリヨ種別調整者。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年8月26日，龍谷大学「琵琶湖・滋賀学」，オンライン講義。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，7件。

はしかけ運営「温故写新」，担当。活動4回。

電話・質問コーナー窓口・メールによる質問への対応，126件。

質問コーナー・メールによる生物の同定依頼，16件。

2023年4月14日，令和5年度近畿ブロック園館長会議（日本動物園水族館協会），海遊館（大阪市），出席。

2023年6月17日，須原ゆりかご水田オンライン観察会（共催：せせらぎの郷 須原），野洲市須原魚のゆりかご水田，担当。

2023年7月22日，水辺の生き物観察会（共催：湖北野鳥センター），湖北野鳥センター，担当。

2023年7月29日，川の生き物観察会（共催：多賀町立博物館），多賀町立博物館，担当。

2023年9月30日，初心者のための生き物写真撮影講座（共催：はしかけグループ温故写新），琵琶湖博物館，担当。

2023年10月27日～28日，第23回種保存会議（日本動物園水族館協会），都シティ大阪天王寺（大阪市），出席。

2023年11月4日，下物ビオトープの水だいたい抜く（共催：琵琶湖保全再生課），下物ビオトープ（草津市），担当。

他の博物館・機関等の主催行事

2023年6月17日，須原魚のゆりかご水田観察会（せせらぎの郷須原），須原蓮池の里公園（野洲市），講師。

2023年7月2日，上平木町生き物観察会（東近江市上平木町自治会），上平木町（東近江市），講師。

2023年7月8日，伊香立の田んぼの生き物。香の里資料館連続講座（香の里資料館），香の里資料館（大津市），講師。

2023年7月17日，かつべ水フェスタ 水辺の生き物観察会（勝部自治会），守山市生涯学習・教育支援センター（守山市），講師。

2023年8月1日，犬上川の生きもの観察会（快適環境づくりをすすめる会），犬上川（彦根市），講師。

2023年8月5日，下物ビオトープ観察会（琵琶湖保全再生課），下物ビオトープ（草津市），講師。

2023年9月21日，琵琶湖の魚と人との関わり。膳所歴史サークル勉強会（膳所歴史サークル），膳所市民センター（大津市），講師。

メディアへの対応

2023年6月4日、読売新聞「里湖命めぐる 魚も人も集まる水田」、取材対応・コメント、(2022年5月27日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

貝類標本維持管理, 担当.
両生類標本維持管理, 担当.
爬虫類標本維持管理, 担当.
水族資料収集, 担当.
水族資料維持管理, 担当.
魚類資料収集, 200件.
淡水貝類資料収集, 100件.
陸産貝類資料収集, 100件.
昆虫資料収集, 200件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.
水族展示, 川魚屋「魚滋」, ふなずしのいろいろな食べ方, 担当.
水族トピック展示, ズナガニゴイ, 担当.
第31回企画展示「おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」, 両生類・爬虫類, 展示担当.

【広報営業活動】

鳥人間コンテスト2023SP イベント ytv アナウンサー×学芸員夏休み特別授業「魚も飛ぶことがある!?!~琵琶湖の周りの水辺環境から~」, 琵琶湖博物館, 出演.
企業の生物多様性保全活動などに関する相談対応, 3件.

【研究部関連事業】

免税アルコールに関すること, 主担当

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会, 委員 (2006年8月~).
環境省自然環境局, 希少野生動植物種保存推進員 (2010年7月~).
滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県希少野生動植物調査監視指導員 (2010年4月~).
NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 標本救済ネット, ケースワーカー (2012年2月~).
農林水産省近畿農政局, 二次的自然環境における生物多様性保全検討調査, 有識者 (2019年4月~).
滋賀県土木交通部流域政策局, 中小河川多自然川づくり河川維持管理に関する懇話会, 委員 (2021年12月~).
守山市環境政策課, 守山市環境審議会, 委員 (2022年11月~).

1. 研究に関わる活動

1) 琵琶湖の水生植物に関する研究

2023年度は、コロナ制限がなくなり水槽破損の影響も軽減した夏のシーズンを迎え、事業関係の業務が多忙であったため、頻りに調査等に出ることはできなかったが、継続して南湖でのムサシモの分布調査を実施した。このムサシモの分布調査結果については、調査に先立ちそれまでのデータをまとめて8月に水草研究会の全国集会でポスター発表を行った。さらに2023年の調査結果を追加して10月に琵琶湖博物館の研究セミナーでも報告を行った。

研究成果の発信としては、2022年9月に実施した環境省の「モニタリングサイト1000陸水域調査」の「水生植物調査」の結果の一部として、琵琶湖北湖でのコウガイセキショウモの初記録の論文が出版された。また、琵琶湖博物館の芳賀裕樹さんによる琵琶湖南湖の沈水植物の定量調査で、ムサシモを含むトリゲモ類およびコウガイセキショウモの同定を担当し、2023年にその成果が出版された。

2) 西の湖のヨシの品質に関わる研究

2016年にリニューアルした琵琶湖博物館のC展示室「ヨシ原に入ってみよう」ゾーンの展示製作から、ヨシの品質と生育地の関係に興味を持ち、2023年度は専門研究の一部として何度か現地に足を運び聞き取りなどを行った。雑誌『湖国と文化』の2023年冬号で、これまでの調査で得られた知見を元に普及のための文章を執筆した。

3) 博物館学分野での研究

博物館学の分野では、2021年度に開催されたギャラリー展示「琵琶湖の虹が映える理由 - 湖の“なぜ”がわかる物理学 -」について、当時主担当であった現特別研究員の戸田孝さんによるパネル表示についての考察が出版された。

2. 事業に関わる活動

1) 展示運営に関すること

事業部では、展示係長として展示全般を統括する業務を担当した。2023年度はコロナ対策が終了し、ほとんどの展示が元の状態に戻り、一部水槽が閉鎖中でも多くの来館者に賑わった。中長期での外部評価なども経て、次の展示の更新の方法などを検討した。

2) 植物標本整備に関すること

琵琶湖博物館の植物標本は、多くの寄贈を受けて未整理の標本が多量にあり、将来的な資料活用を視野に整備を進める必要があり、順次手続きと資料整理（同定、登録作業等）を進めている。2021年度に始めた橋本忠太郎標本のコケ標本の整理およびデータベースも入力終了、ラベル貼付の作業も進行中で、次年度に公開する予定である。

3) 橋本忠太郎のさく葉標本のデジタル化（写真撮影）

西日本自然史系ネットワークが文化庁の助成金で進めている Innovate MUSEUM 事業の一環として、琵琶湖博物館での歴史的な標本の撮影を行っている。当館では、橋本忠太郎のさく葉標本のデジタル化を進めており、2023年度には1,462点の標本写真を撮影した。継続して写真撮影を続けながら、標本の公開に向けての作業も今後進めていく予定である。

4) 人吉城歴史館（人吉市）前原勘次郎標本レスキュー

2020年7月の熊本で浸水被害にあった植物標本について、レスキューのため受け入れ、クリーニングおよび乾燥作業中である。植物標本整備の貴重な経験になることのほか、資料論のトピックとして重要であるため、どこかの時点で継続するレスキュー作業とその意義について紹介したい。

5) 『滋賀県植物誌』改訂に向けての準備

1968年に発行された『滋賀県植物誌』は、その後改訂されることがないまま現在にいたる。琵琶湖博物館の植物部門としては、この改訂版を作ることは大きな目標である。コレクションの充実を図り、標本に紐付けされた植物誌をつくること。そのプロセスは博物館学研究のテーマになる。準備として、県内の大型コレクションの受入手続きをそれぞれ進めながら、まずは収蔵資料として利用可能な状態にすることを目指している。

印刷物

【学術論文】

芳賀裕樹・芦谷美奈子・酒井陽一郎・石川可奈子（2023）琵琶湖南湖の2022年8月末の沈水植物の現存量分布、ならびに著しい沈水植物相の変化について、*陸水学雑誌*（日本陸水学会）、84：175-185.

山ノ内崇志・加藤 将・芦谷美奈子・金子誠也 (2023) 琵琶湖北湖におけるコウガイセキシヨウモ *Vallisneria* × *pseudorosulata* (トチカガミ科) の定着. *水草研究会誌* (水草研究会), 115 : 11-15.
戸田 孝・芦谷美奈子・大塚泰介 (2023) アイキャッチとしての数式 ―琵琶湖博物館での実践例―. *博物館学雑誌* (全日本博物館学会), 48(2) : 41-45.

【一般向けの著作】

芦谷美奈子 (2023) フィールドへ びわ博いちおし³² 琵琶湖の水草を直接観察しませんか?. *京都新聞滋賀版*, 7月28日.
芦谷美奈子 (2023) 琵琶湖センス・オブ・ワンダー 湖と人が織りなす歴史と今 12人とヨシ原 変化し続ける水辺. *湖国と文化*, 186 : 58-59.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

芦谷美奈子・芳賀裕樹 (2023年8月19日) 琵琶湖南湖におけるムサシモの定着と分布変遷. 第45回全国集会 (水草研究会). 北海道大学総合博物館 (北海道札幌市), [ポスター発表].
芦谷美奈子 (2023年10月20日) 希少種ムサシモの南湖への定着と琵琶湖の水生植物相. 琵琶湖博物館研究セミナー. 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺の水生植物の分布と生態」, (2023年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年6月24日, 桃山学院大学見学実習, 講義・収蔵庫案内.
2023年度博物館実習, 講義「博物館の展示 意義・制作・評価」・琵琶湖博物館 (8月23日).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 12件.
インターネットを通じた質問への対応, 7件.
はしかけグループ「植物観察の会」, 担当.
はしかけグループ「タンポポ調査はしかけ」, 担当.
2023年7月30日, ヨシ灯りをつくらう, 琵琶湖博物館館内イベント, 琵琶湖博物館, 副担当者, (西の湖ヨシ灯り展実行委員会・中村久美子と共同).
2023年9月2日, 湖探検! 琵琶湖に入って生き物をさがそう, 琵琶湖博物館フィールド観察会, 長浜市湖北町海老江・延勝寺湖岸, 主担当者, (カワセミ自然の会・湖北野鳥センター・鈴木隆仁・中井克樹と共同).

他の博物館・機関等の主催行事

2023年7月13日, 講演「琵琶湖に生育する水草の多様性: 種類、生態、分布」, レイカディア大学びわ湖環境学科卒業40期生勉強会, 琵琶湖博物館, 講師.

視察等への対応

2023年7月26日, 外来種展示についての意見交換および植物模型の計測, 豊橋市立自然史博物館, 琵琶湖博物館.
2023年11月14日, 展示リニューアルの説明および施設の案内, 愛媛県総合科学博物館, 琵琶湖博物館.

メディアへの対応

2023年9月18日, びわこ放送, ヒガンバナの開花時期の遅れについて, (9月17日取材対応).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本コレクション管理, 主担当者.
植物収蔵庫, 副担当者.
植物標本, 標本受入担当, 1 件.
植物標本, 特別観覧対応, 2 件.
植物標本, 人吉城歴史館 (人吉市) 前原勘次郎標本レスキュー, 受入担当.

他の博物館・機関等の活動

ヤマザキ動物看護大学, 琵琶湖湖岸で死亡した水鳥の胃内容物の同定, 4 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示事務の総括に関する事, 主担当.
展示空間・危機管理, 主担当.
展示空間・ユニバーサルデザイン, 副担当.
展示の維持管理・常設展示の運営管理, 主担当.
展示の維持管理・展示に関わる情報発信, 主担当.
中長期計画・中長期計画の推進, 主担当.
その他・予算に関する事, 副担当.
ギャラリー展示「プッカプカ美小生物展」(2023年5月5日～6月11日), 副担当.
モーニングレクチャー, 講義「琵琶湖環流はパネルだけでどう伝わったか」, 1回(4日).

他博物館・機関の活動

日野町立図書館, 「日野町出身の植物学者 橋本忠太郎展」(2023年9月8日～9月29日), 標本写真提供.

【企画調整活動】

新任職員研修, 講義「博物館の展示」講師, 琵琶湖博物館(2023年4月20日).
JICA「2023博物館とコミュニティ開発」コース(国立民族学博物館), 受入担当・講師・オーガナイザー, 琵琶湖博物館(2023年10月11日～14日).

【研究部関連事業】

博物館学研究領域の研究推進に関する事, 副担当.
展示による研究成果発信に関する事, 主担当.
研究施設および研究備品の利用に関する事, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関する事

【館外の活動】

滋賀県 木浜地区保全整備地域協議会, 委員(2000年4月～).
滋賀県植物研究会, 幹事(2010年4月～).
滋賀県 琵琶湖湖南地域ヨシ群落自然再生協議会, アドバイザー(2015年6月～).
独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所 琵琶湖沿岸域環境調査, アドバイザー(2016年1月～).
滋賀県 琵琶湖環境部 水草対策チーム会議, メンバー(2019年10月～).
大津市科学館運営協議会, 委員(2020年4月～).
国立民族学博物館 国際研修博物館学コース「博物館とコミュニティ開発」運営委員会, 専門委員(2021年4月～).
滋賀県 びわ湖材流通推進課 木育拠点施設整備にかかるワークショップ, オブザーバー(2023年10月～2024年2月).
タンポポ調査・西日本実行委員会, 「タンポポ調査・西日本2025」滋賀県実行委員会, 代表(2023年11月～).

科学研究費助成事業若手研究「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」(平成31年～令和5年)において、幼児を対象とした野外活動(通称ちこあそ)を毎月第3水曜日に実施し、子どもの発話から博物館体験における学びの効果を検証している。令和4年度は、博物館での体験を自宅で振り返りさらに学びを深めるためのツールとして、活動内容の絵本を製作した。絵本はちこあその参加者に配布し、活用後のアンケート調査を実施中である。加えて、からすま半島における哺乳類調査では自動撮影カメラにより、昨年度営巣を確認したホンドキツネの撮影に成功した。また、希少種カヤネズミの保全的管理のため、半島中央の草地の草刈り時期の調整などを草津市と協力して実施している。

博物館事業では、年報と業績目録の出版を行った。また日本動物園水族館協会、全科協、日博協等の外部との連絡担当業務を行った。来館者アンケートは今年度も8月と3月に2回実施され、8月分を担当した。はしかけ活動では、ちこあそで毎月観察会を実施した。リピーターが増えすぐ定員になるほど人気となってきた。またほねほねクラブの副担当を9月まで務めた。資料活用では、陸域生体(カヤネズミ)の飼育業務を担当し、繁殖計画を組みながら管理した。また今年度新たに始まったDX事業では、哺乳類電子図鑑の製作および、哺乳類資料の3Dデータ化、備品調達を担当した。電子図鑑は、滋賀県の哺乳類リストを整理した。また3Dデータ化では、収蔵標本を撮影、3D編集し、公開に向けてコンテンツの作成を行った。9月21日より産休育休に入ったため、年度後半の業務は引継ぎを行った。

印刷物

【専門分野の書作】

中村久美子(2023)未就学児のふりかえりによる学びを補助する絵本作り. *全科協 News* (全国科学博物館協議会), 53(4):4.

【一般向けの著作】

中村久美子(2023)フィールドへびわ博いちおし²⁹ 幼少から博物館体験楽しもう 自然と触れ合う一歩に. *京都新聞滋賀版*, 6月9日.

中村久美子(2023)田んぼは生き物の宝庫—哺乳類—. In: 妹尾裕介・滋賀県立琵琶湖博物館(編) *滋賀県立琵琶湖博物館 第31回企画展示 おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—* (図録), 10-17.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

中村久美子・池田 勝・水谷早彩香・上枝千明・大野朋子(2023年7月2日)未就学児を対象とした自然体験活動における参加者の変化, 全日本博物館学会研究大会(全日本博物館学会), 國學院大學(東京都渋谷区), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業(若手研究)「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する指標」(研究代表者:中村久美子), 研究代表者(2019年度～2023年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 6件.

はしかけグループ「ちっちゃな子どもの自然あそび」, 担当.

2023年4月19日, ちっちゃな子どもの自然あそび, 琵琶湖博物館, 運営.
2023年5月17日, ちっちゃな子どもの自然あそび, 琵琶湖博物館, 運営.
2023年6月21日, ちっちゃな子どもの自然あそび, 琵琶湖博物館, 運営.
2023年7月19日, ちっちゃな子どもの自然あそび, 琵琶湖博物館, 運営.
2023年7月30日, ヨシ灯りをつくろう, 琵琶湖博物館, 運営.
2023年8月1日, 自然調査ゼミナール哺乳類班, 琵琶湖博物館, 講師.
2023年9月20日, ちっちゃな子どもの自然あそび, 琵琶湖博物館, 運営.
はしかけ「ほねほねクラブ」, 運営補助, 3件.

他の博物館・機関等の主催行事

2023年5月21日, 「カヤネズミプロジェクト植物調査 春」(TANAKAMI こども環境クラブ), 田上公園(大津市), 講師.
2023年8月5日, 「カヤネズミプロジェクト植物調査 夏」(TANAKAMI こども環境クラブ), 田上公園(大津市), 講師.
2023年9月8日, 「琵琶湖に生息する哺乳類」(滋賀県立視覚障害者センター), 草津市立市民総合交流センターキラリエ草津(草津市), 講師.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式YouTubeチャンネル, びわこのちからチャンネル「あなたの近くにも住んでいる!? 日本一小さなネズミを追い!」, 撮影, 1件

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

哺乳類(乾燥標本、骨格標本、その他)標本の管理(収集、受け入れ、貸出等).
陸域生体(カヤネズミ)の飼育管理(飼育、繁殖、譲渡等).
哺乳類標本データベースの管理.
哺乳類本剥製の委託製作, ツキノワグマ, バイカルアザラシ, モモンガ.
DX事業 哺乳類電子図鑑、3D哺乳類担当(9月まで).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室 カヤネズミ, 展示更新, 随時.
モーニングレクチャー, 講義「カヤネズミ」, 1回(4日).

【企画調整活動】

全国科学博物館協議会、日本博物館協会、日本動物園水族館協会、西日本自然史系博物館ネットワーク, 連絡担当.
滋賀県博物館協議会, 担当.
来館者アンケート2023年度第1回、実施(2023年8月25日~27日).
滋賀県立琵琶湖博物館 年報の編集・制作, 1件.
滋賀県立琵琶湖博物館 業績目録の編集・制作, 1件.
全国科学博物館協議会第1回総会, 出席, オンライン,(2023年7月6日, 国立科学博物館).
全国科学系博物館協議会令和5年度第2回総会・研究発表大会, 連絡調整(9月まで).
全国科学系博物館協議会、日本博物館協会、日本動物園水族館協会、西日本自然史系博物館ネットワークへの連絡、情報発信.
全国科学系博物館協議会、日本博物館協会、日本動物園水族館協会、西日本自然史系博物館ネットワーク等からの情報の連絡調整.

【研究部関連事業】

研究倫理研修, 担当(9月まで).

2024年2月に育児休業より復帰した。約1年半のブランクを埋めつつ業務を進め、来年度に向けた研究環境整備を中心に行った。水生動物であるバイカルアザラシの換毛期の皮膚疾患をはじめ、獣医師の視点から哺乳類であるカヤネズミの歯の成長線に関する研究や、両生・爬虫類の治療、鳥類の換羽障害等のデータ収集を行った。

博物館事業としては、交流係で館外からの問い合わせ窓口メール(query)を担当した他、水族展示を担当する学芸員の一人として、展示室の維持や飼育員との調整業務のほか、展示生物確保のための外部調整を行い、水鳥展示では新たに2羽の水鳥を展示できる状態となった。また、破損水槽におけるクラウドファンディングでの水族棟ツアー寄付者との連絡調整業務およびツアー運営を行い、4組の返礼が終了した。

今年度は、私自身が保育園待機児童をもつ身となり、仕事を持つ親にとっての就業中の保育先の重要性和、希望園と異なる保育先の場合のワークライフバランスのとり方、育児休業延長における周囲への負担等、今後の県職員生活においても経験として活かしていくべき様々なことを考え、保育先への感謝の念や就業できることのありがたみを実感する1年であった。

印刷物

【学術論文】

Komine, T., Matsuoka, Y., Inohana, M., Kurata, O. and Wada, S. (2023) The Draft Genome Sequence of a *Mycobacterium chelonae* subsp. *bovis* Strain Isolated from a Baikal seal (*Pusa sibirica*) in Captivity. *Microbiology Resour Announc*, 12(3) : e0113522. doi: 10.1128/mra.01135-22.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

queryに関すること、主担当.

地域連携の運営、講師の依頼と調整、副担当.

フィールドレポート制度の運営および活性化に関すること、副担当.

インターネットを通じた質問への対応、6件.

はしかけグループ「ちっちゃな子どもの自然遊び」、生活実験工房での幼児を対象とした自然あそび活動の運営担当.

2024年2月14日、3月20日、ちっちゃな子どもの自然遊び、琵琶湖博物館生活実験工房、運営、2件（共催：琵琶湖博物館はしかけ ちこあそ）.

視察等への対応

2024年3月26日、タナゴ類の繁殖に関する視察、熊本市動植物園、琵琶湖博物館保護増殖センター.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

哺乳類資料の貸し出し（ニホンカモシカ）、1件.

哺乳類資料の撮影（カヤネズミ）、1件.

水族飼育業務、魚類等の病気や水質維持に関すること、副担当.

水族飼育業務、哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類に関すること、主担当.

水族他館との連携、(公社)日本動物園水族館協会および他園館との連携・事務に関すること、主担当.

水族広報・CF、水族展示再構築に向けての広報・CF、副担当.

生物の健康管理、バイカルアザラシの健康診断、2件.

C展管理、カヤネズミの個体管理・入れ替え作業、3件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「バイカルアザラシについて」，1回（4日）。

【研究部関連事業】

国内の研究機関との連携に関すること，京都大学野生動物研究センター，担当。

2023年度第5回動物園水族館大学シンポジウム「動物園水族館が野生への窓」となるために，共催。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023年4月1日～2024年1月31日，育児休業取得。

これまで、子どもたちにとって主体的な学びができる博物館利用を目指し、どのような学習支援ができるかを模索してきた。昨年度からは博物館を利用した学校教員へのアンケート調査やこれから琵琶湖博物館を利用する教員に向けての研修の実施を中心に進めてきた。さらに、びわ湖フローティングスクールと連携し、「うみのこ」乗船予定の教員に対して指導力向上を目的とした研修を実施した。フローティングスクールと連携することは、県内の小学5年生が年間を通じて学習している琵琶湖学習に関わっていけるということであり、本研究を進めていくにあたって大変意義のあることである。今年度も昨年に引き続き、琵琶湖博物館を利用する県内小学5年生担当の教員に声をかけ、うみのこに乗船する学校教員と連携を取りながらカリキュラム・マネジメントを行った。また、うみのこ乗船に同行し、船内活動の中で琵琶湖に関する講義や活動助言などの学習支援を行った。学校との連携を通して、教員のニーズに合わせてリモート学習や乗船中の学習支援や学習内容の提案など、子どもたちが主体的に学ぶことができる学習を目指して連携を深めることができた。連携の打ち合わせやアンケートからは、琵琶湖についての知識不足や琵琶湖学習の進め方で悩んでいる学校教員の困り感を改めて知ることができた。しかし、博物館事業の中で関われる学校団体は限られており、具体的にどのような学習支援が効果的なのかについては、滋賀県全体の琵琶湖学習の実態や学校現場のニーズなど、より多くの情報を知る必要がある。そこで、今年度は滋賀県内220校の小学校を対象に琵琶湖学習の実態を把握するためのアンケート調査を行った。その内168校からの回答があり、滋賀県全体の琵琶湖学習における教員の苦労やニーズなどの情報を収集することができた。今後は、今回得られたアンケート結果を整理分析し、学校教員自身が主体的に学習計画を立てることができるようなデータベースの構築を目指していきたいと考えている。

印刷物

【一般向けの著作】

安達克紀 (2023) フィールドへ びわ博いちおし^⑦ 実物に出会うきっかけを. 京都新聞滋賀版, 5月12日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

安達克紀 (2024年3月15日) 子ども主体の視点から見た博物館の利用 part3. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「子ども主体の視点から見た博物館の利用 part3」, (2023年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年度博物館実習, 交流事業学校連携について (2023年8月25日).

2023年12月9日, 滋賀の教師塾塾生, 交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「びわたん」, 担当.

2023年5月, 6月, 7月, 12月, 2024年1月, 2月, 3月, 「春の草花でしおりをつくろう!」「プランクトンを見よう!」「骨にふてみよう!」「綿に触れてみよう!」「水鳥を観察しよう!」「ミニ水族展示をつくろう!」「火を起こしてみよう!」7講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 3件, (はしかけグループ「びわたん」「ほねほねクラブ」「近江はたおり探検隊」と共催・渡邊俊洋と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2023年4月～2024年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校大学, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, (渡邊俊洋と共同).

2023年8月2日, びわ湖学習講義 プランクトン観察実習, フローティングスクール参加教員, 琵琶湖博物館, 講師, (渡邊俊洋と共同).

2023年10月10日～12日, 琵琶湖博物館を活用した学習の在り方(実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修(特別支援学校), 琵琶湖博物館, 講師, 2件, (渡邊俊洋と共同).

2023年9月27日, 琵琶湖学習講義, 甲賀市立水口小学校, オンライン, 講師.

2023年10月5日, 琵琶湖学習講義, 甲賀市立水口小学校, オンライン, 講師.

2023年11月7日～16日, 琵琶湖博物館を活用した学習の在り方(実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修(小学校), 琵琶湖博物館, 講師, 4件, (渡邊俊洋と共同).

2023年10月28日, 琵琶湖の概要講義, 大津市立瀬田南小学校, うみのこ, 講師.

2023年10月31日, 琵琶湖の概要講義, 大津市立瀬田南小学校, うみのこ, 講師.

視察等への対応

2024年2月21日, 学校連携事業について, 国立科学博物館, 琵琶湖博物館.

2024年3月1日, 学校連携事業について, 茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート, 担当, 11件, (渡邊俊洋と共同).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2023年4月～2024年1月, 学校等標本貸出事業, 担当, 14件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義「体験学習プログラムについて」, 1回(4日).

滋賀県立琵琶湖博物館は滋賀県内外問わず、多くの学校が来館している。今回、コロナ渦の影響が少ないと考えられる5年間（平成27年度・平成28年度・平成29年度・令和4年度・令和5年度）における滋賀県内の小学校・中学校の琵琶湖博物館の利用状況の経年変化、地域で見た小学校・中学校の琵琶湖博物館の利用状況の経年変化を調べた。その結果、県内小学校は観覧だけの来館校数は増えており、体験をふくめた博物館の来館校数は減っていく傾向が見られたが、その後増加していることがわかった。県内中学校では観覧だけの来館校数、体験をふくめた博物館の来館校数が減っていることがわかった。地域別で見ると令和4年度、令和5年度は県内8から9の市町で市町にある県内小学校の8割以上が琵琶湖博物館に来館していることが分かった。しかし、近隣市の県内小学校は5割から6割と低い割合であり、来館校が減っている地域も見られた。県内中学校は琵琶湖博物館を利用していない市町があること、市町の学校の半分未満の学校が琵琶湖博物館に来館していることがわかった。このことから琵琶湖博物館に学校行事として来館を体験していない滋賀県民がいることが示唆される。

どのような理由で琵琶湖博物館を利用しているのか、観覧・ワークシートは、どの展示室を利用しているか（学年、県内地域）、博物館の観覧を学校現場でどのように利用しているか等を調べるためにアンケートを行った。アンケートは2023年9月から2024年1月までに来館された学校団体を対象に、FAXにて依頼文を送り行った。

小学校1年生は国語の内容や魚を見せるため、小学校2年生は公共施設の利用を学ぶため、琵琶湖に棲む生物や滋賀県のことを調べるため、小学校3年生は昔くらしの学習のため、小学校4年生は水の学習のため、小学校5年生は環境学習やフローティングスクールに関する学習のため、小学校6年生は修学旅行で滋賀県での学習要素として活用されているために来館されていることが分かった。中学校は環境学習、歴史・自然・環境と多方面から学習する総合学習のために来館されていることが分かった。県内小学校でどこの展示室をワークシートに活用したかについて地域別でまとめてみると地域による展示室の利用の割合が違っており、地域ごとの展示室の需要のデータが見えてくる可能性が示唆された。県内小学校・中学校ともに博物館を観覧した内容を理科の授業で使った割合は県外小学校・中学校よりも低い値を示し、観覧内容をどのように授業に結び付けるかが難しい学校現場の事情が見られた。

琵琶湖博物館に諸事情により、来館したいが来館できない県内中学校対象に中学校での講義を行い、その後アンケートを行った。教員のアンケートの結果では琵琶湖博物館に来ない理由が「小学校のときに行った」など多種多様であった。生徒のアンケートの結果では65%以上が琵琶湖博物館の展示を見たいと回答した。また、「琵琶湖学習を深くしたい」「新しい知識をつけたので、再度博物館で学びなおしたい」などの声が多く、県内中学生が琵琶湖学習を望んでいるのが実感でき、小学校で行った琵琶湖学習をさらに深められると考えられた。今後、県内中学生の琵琶湖学習を深めるために、琵琶湖博物館と県内中学校が連携を深めていくことや琵琶湖の魅力を伝える教員を増やすことなどが必要である。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

渡邊俊洋（2024年3月15日）滋賀県内小中学校の琵琶湖博物館の利用状況と利用状況から見える課題、琵琶湖博物館研究セミナー、琵琶湖博物館、[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県内小中学校の琵琶湖博物館の利用状況と利用状況から見える課題」、(2023年度)。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年度博物館実習、交流事業学校連携について、(2023年8月25日)。

2023年12月9日、滋賀の教師塾塾生、交流事業研修受け入れ。

2024年2月24日、フラスコ会講演(滋賀大学教育学部)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「びわたん」, 担当.

2023年5月, 6月, 7月, 12月, 2024年1月, 2月, 3月, 「春の草花でしおりをつくろう!」「プランクトンを見よう!」「骨にふてみよう!」「綿に触れてみよう!」「水鳥を観察しよう!」「ミニ水族展示をつくろう!」「火を起こしてみよう!」7講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 3件, (はしかけグループ「びわたん」「ほねほねクラブ」「近江はたおり探検隊」と共催・安達克紀と共同).
自然調査ゼミナール, 担当.

2023年8月1日, 「昆虫班」「植物班」「哺乳類班」「プランクトン班」「魚類」「貝類」に分かれて, 学芸員・県内中学校教諭・県内中学生と琵琶湖博物館周辺の自然を調査して結果をまとめて発表(学芸員・今田舜介, 大槻達郎, 中村久美子, 鈴木隆仁, 菅原巧太郎と県内中学校教諭との共同).

他の博物館・機関等主催行事

2023年4月～2024年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校大学, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, (安達克紀と共同).

2023年8月2日, びわ湖学習講義 プランクトン観察実習, フローティングスクール参加教員, 琵琶湖博物館, 講師, (安達克紀と共同).

2023年10月10日～12日, 琵琶湖博物館を活用した学習の在り方(実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修(特別支援学校), 琵琶湖博物館, 講師, 2件, (安達克紀と共同).

2023年11月7日～16日, 琵琶湖博物館を活用した学習の在り方(実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修(小学校), 琵琶湖博物館, 講師, 4件, (安達克紀と共同).

視察等への対応

2024年2月21日, 学校連携事業について, 国立科学博物館, 琵琶湖博物館.

2024年3月1日, 学校連携事業について, 茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート, 担当, 11件, (安達克紀と共同).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2023年4月～2024年1月, 学校等標本貸出事業, 担当, 14件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義「葉っぱのしおりをつくろう」, 1回(4件).

ゾウムシを中心とした植食性昆虫の多様性と進化、ゾウムシの寄主利用の解明、滋賀県の昆虫相の解明とその成り立ちの3つのテーマに興味を持って研究を進めている。今年度は専門研究「コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科の分類学的研究」を中心に研究を進めた。

専門研究に関して、ヒゲナガゾウムシ科の未記載種の探索と既知種を含めた詳細な分布実態を明らかにするべく、兵庫県立人と自然の博物館、徳島県立博物館、多賀町立博物館、みなくち子どもの森自然館などで標本調査を実施し、また、岩手県立博物館、相模原市立博物館から標本を借用して研究を進めた。その結果、過去の疑義的な分布記録が誤同定に基づくものであることなどが判明し、詳細な分布域が明らかになった。国内では、昆虫研究者にとって有名な「月刊むし」および「昆虫と自然」の両商業誌から寄稿依頼があり、ヒゲナガゾウムシに関する報文を執筆した。また、日本甲虫学会大阪例会から講演依頼があり、これまでのヒゲナガゾウムシの研究と琵琶湖博物館の昆虫コレクションについて講演した。海外では、国際的なゾウムシ研究者のネットワーク Weevil Workers Meeting において、2024年春期の Featured Researchers の一人に選出され、来年度に京都で開催される国際昆虫学会議を前に、当博物館にゾウムシ研究者がいることをアピールする機会を得た。また、ヒゲナガゾウムシの寄主利用に関する原著論文が1本出版された。

それ以外に、滋賀県内の各地で予備的な野外調査を実施した。今年度は日野川流域において日本未記録のゾウムシを発見することができ、専門家との共同研究に向けて準備を進めている。また、分布上重要な種の知見について、一部成果を *Came 虫* に発表した。

事業部の業務として、動物収蔵庫担当者として、収蔵庫棚1層目の資料の配置の見直しを行ったり、収蔵庫を占有していた不要な消耗品や壊れた備品の処分を行ったり、資料の寄贈時に同時に受け入れた標本棚を活用したりすることで、空き容量を増やすことに多くの時間を割いた。資料の受入れと活用に関して、琵琶湖博物館資料取扱い要綱に基づく各種様式における、日本語の様式は時代とともに更新されていたのに対し、英語フォームの更新が長らく止まっていることに気づき、ロビン・J・スミス学芸員の協力のもと、英語フォームを改訂した。生物多様性びわ湖ネットワークが主催のトピック展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え！」を担当した。

研究部の業務として、滋賀県試験研究機関連絡会議の幹事を担当した。

印刷物

【学術論文】

Imada, S. and Tsuji, N. (2023) New host records of two species of the tribe Platyrhinini Imhoff (Coleoptera, Anthribidae). *Elytra, New Series*, 13(1): 157-161.

【専門分野の著作】

今田舜介 (2023) 沖縄県産ヒゲナガゾウムシ科の研究の現状と今後の展望. *昆虫と自然*, 59 (8) : 21-25.

今田舜介 (2023) 淡路島周辺島嶼で採集したゾウムシ類. *Korasana* (久留米昆虫研究会), (101) : 42.

今田舜介 (2023) アカコブコブゾウムシの天敵の一例. *Korasana* (久留米昆虫研究会), (101) : 42.

今田舜介 (2023) 今月のむしツブヒゲナガゾウムシ. *月刊むし*, (632) : 1.

今田舜介・吉武 啓 (2023) ギンネムヒゲナガゾウムシの新寄主記録. *月刊むし*, (632) : 37-43.

今田舜介・野崎 翼 (2023) 高知県でホシモンマダラヒゲナガゾウムシを採集. *月刊むし*, (632) : 51-52.

今田舜介・中川 優・辻 尚道 (2023) 滋賀県および三重県産ヨリメチビヒゲナガゾウムシの記録. *Came 虫*, (214) : 13.

今田舜介 (2023) 滋賀県日野町でハラグロオオテントウを採集. *Came 虫*, (214) : 13.

久末 遊・今田舜介 (2023) 黒島におけるマダラセダカヤセバチの記録. *すがれおい* (膜翅目研究会), (4) : 22-23.

上原友太郎・今田舜介 (2023) イシガキオオメカスミカメの黒島 (竹富町) からの記録. *琉球の昆虫* (沖縄昆虫同好会), (47) : 22.

今田舜介 (2024) 短報アカネメナガヒゲナガゾウムシ. *Came 虫*, (215) : 6.

今田舜介・久保田 洋 (2024) 滋賀県初記録のワルトンクチブトサルゾウムシの記録. *Came 虫*, (215) : 17.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 今田舜介（2023年6月14日）ヒゲナガゾウムシ科（コウチュウ目：ゾウムシ上科）の多様性研究。琵琶湖博物館 研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 鈴木隆仁・今田舜介（2023年12月17日）ラ コリーナ近江八幡の水田における生物調査。第14回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 今田舜介（2023年12月17日）口頭発表1。第14回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館，[座長].
- 今田舜介（2024年3月23日）ヒゲナガゾウムシ科の研究の現状。日本甲虫学会第40回大阪例会，大阪市立自然史博物館，[招待講演].
- 今田舜介（2024年3月23日）琵琶湖博物館の昆虫コレクションの概要。日本甲虫学会第40回大阪例会，大阪市立自然史博物館，[招待講演].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科の分類学的研究」，（2023年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Elytra, New Series, 論文査読, 1件.
- Fauna Ryukyuna, 論文査読, 1件.
- Weevil Workers Meeting, Featured Researchers, 2024 Spring.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年度博物館実習，動物収蔵庫の資料整理，（2023年8月22日）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，10件.
- 電話・インターネットを通じた質問への対応，58件.
- はしかけ運営「虫架け」，担当.
- 2023年7月9日，里山の夏を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，講師。 <荒天のため中止>
- 2023年8月1日，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師.
- 2023年11月19日，びわ博フェス 学芸員のスペシャルトーク，琵琶湖博物館，講演.

他の博物館・機関等の主催行事

2023年7月2日，田んぼの生きもの調査，ラ コリーナ（近江八幡市），講師（鈴木隆仁と共同）.

視察等への対応

2023年2月23日，動物収蔵庫の視察，熊本博物館，琵琶湖博物館.

メディアへの対応

- 2023年10月6日，関西情報ネットten「ナニ！？バーサラー探偵団（ハッチョウトンボ）」，取材協力.
- 2024年1月7日，京都新聞ジュニアタイムズ「こども記者が行く！ 昆虫ずらり魅力を満喫 琵琶湖博物館を取
材」，取材対応.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 昆虫乾燥標本データベース，維持管理.
- WEB 図鑑「里山のゴミムシ図鑑」，維持管理.
- 学芸員個人ページ，更新.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

動物収蔵庫維持管理，主担当.

昆虫乾燥標本の収集・整理.

二酸化炭素燻蒸，副担当.

エキヒュームS燻蒸，副担当.

資料の受入れ，主担当.

資料の活用，主担当.

資料データベースの管理，主担当.

昆虫乾燥標本寄贈受入れ，2件.

昆虫乾燥標本特別観覧，8件.

昆虫乾燥標本借用，2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室，生きものコレクション，主担当（2023年10月～）.

C展示室，昆虫乾燥標本，展示更新，随時.

研究最前線，展示更新，随時.

第31回企画展示「おこめ展 ―おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然―」，2023年7月15日～11月19日，展示協力.

トピック展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え！」，2024年1月30日～2月25日，展示担当.

モーニングレクチャー，講義「滋賀県の昆虫ランキング」，1回（4日）.

展示交流員と話そう，身近なゾウムシに関する内容指導，1件.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館研究セミナー，運営副担当，11件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023年4月～，滋賀県試験研究機関連絡会議，幹事.

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，委員（2023年4月～）.

滋賀県昆虫目録，事務局（2024年3月～）.

NPO法人西日本自然史博物館ネットワーク，「標本救済ネット」ケースワーカー（2024年2月～）.

九州大学総合研究博物館，協力研究員（2023年4月～）.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 映像資料, 大橋洋コレクション (大橋洋氏撮影:平成時代) の画像整理業務 (全画像総数 32,712 枚 (35mmネガフィルム 170 本 5,406 枚, フォト CD 287 枚 27,306 枚).
アップロード・画像登録用データファイル (17 本) の修正・更新, 全画像総数 32,712 枚分.
画像印刷冊子の製本製作, 8 冊分 (平成 18-23 年撮影の 6 年間分 11,028 枚、1,227 頁).
- 映像資料, 松田征也氏寄贈の鳥類/昆虫/植物 の画像整理業務 (PCD12 枚、画像総数 7,200 点), 全画像データを共通サーバー内に格納, 計 12 枚 (鳥類 4 枚, 昆虫類 2 枚, 植物 6 枚).
- 映像資料, 澤田弘行氏撮影のトンボ/花植物/風景/鳥昆虫のスライド画像資料整理業務 (資料総数 9,126 枚), トンボ・花植物編のスライド資料の画像データ入力業務, 資料総数 6,731 枚.
- 映像資料, 琵琶湖博物館HPで公開中の鳥類・魚類画像に関する精密画像を整理提供, 計 322 点 (鳥類 233 点, 魚類 89 点), 画像データを共通サーバー内に格納.
- 映像資料, 特別観覧対応.
- 映像資料, 館内館外利用・学芸員利用提供, 43 件, 1,242 点.
- 映像資料, 動画収集・新規動画登録, 3 件, 9 点.
- 映像資料, 映像収蔵庫の収蔵資料の整理・記録確認・維持管理.
- 映像資料整理室・映像収蔵庫・写場の電気安全・消防設備点検・空調設備点検, 各 3 回
- 避難誘導灯の球切れ交換と安全確認, 1 回.
- 映像収蔵庫・写場, 定期清掃, 12 回.
- 映像収蔵庫前廊下, 定期清掃, 6 回.
- IPM・生物環境調査, 昆虫トラップ設置・回収, 3 回.
- 避難訓練及び地震初期対応訓練, 2 回.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備, 整理・燻蒸.

資料データベース (松原内湖遺跡・土器) の作成, 調査・準備・登録, 1494 件.

歴史資料整備, 整理・写真撮影・燻蒸.

歴史資料管理台帳, 整備, 入力, 1249 件.

資料データベース (絵図・絵画・典籍・文書) の作成, 調査・準備.

定期収蔵庫清掃 (考古収蔵庫・特別収蔵庫・一時保管庫), 11 回.

定期清掃 (収蔵庫廊下), 3 回.

定期清掃・点検 (B 展示室), 21 回.

特別清掃 (トラックヤード・植物標本製作室), 3 回.

大掃除 (B 展示室・おとなのディスカバリールーム・歴史資料整理室), 1 回.

防虫防霉調査, トラップ設置回収, 2 回.

生物発生履歴の整備, 入力, 19 件.

乳剤散布, 1 回.

pH 測定 (7 ヶ所), 2 回.

収蔵庫の温湿度記録計用紙交換 (4 ヶ所), 7 回.

B 展示室のおんどとりデータ吸い上げ (3 ヶ所), 5 回.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

企画展示「おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」第 31 回 (2023 年 7 月 15 日～11 月 19 日), 撤収補助.

収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示 重要文化財・琵琶湖博物館所蔵東寺文書展 戦国時代の災害調査—流田内検帳—」第 19 回 (2023 年 10 月 17 日～11 月 26 日), 展示補助.

収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示 琵琶湖博物館の龍骨図」第 21 回 (2024 年 1 月 27 日～2024 年 3 月 9 日), 展示補助.

収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示 村のかたち: 滋賀郡中浜村」第 22 回 (2024 年 3 月 12 日～2024 年 5 月 19 日), 展示補助.

研究活動に関する業績

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年度博物館実習，資料活用係「準備・実習補助」（8月22日）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

2024年2月27日，「琵琶湖地域における自然資源利用に関する講義」，さくらサイエンスプログラム，講演会の設
営補助。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整備，整理・クリーニング・燻蒸。

民俗データベース（北比良の石屋用具・山口家和竿コレクション・清定楼資料・謄写版資料・目加田唐箕等），作
成・準備。

民俗データベースの登録内容の修正。

画像データベースの登録内容の修正。

収蔵庫担当者会議テーブル起こし，3件。

GIS事業打ち合わせテーブル起こし，3件。

有形民俗文化財調査・資料受け取り（大津4回・守山2回・沖島1回・甲賀1回・愛荘町1回）。

無形民俗文化財調査（お田植祭り・亥の子祭り・地引き網）。

定期収蔵庫清掃（民俗収蔵庫1・民俗収蔵庫2），12回。

定期収蔵庫清掃（環境収蔵庫），6回。

定期清掃・点検（B展示室），44回。

定期清掃（収蔵庫廊下），10回。

大掃除（B展示室・大人のディスカバリー・歴史資料整理室），1回。

特別清掃（トラックヤード・植物標本制作室），1回。

産業廃棄物処理作業，3回。

図書室蔵書点検作業，2回。

生物環境調査，トラップ設置回収（民俗収蔵庫1・民俗収蔵庫2・環境収蔵庫），3回，（特別収蔵庫・一時保管
庫），2回。

生物環境調査，トラップ回収（考古収蔵庫），2回。

収蔵庫おんどとりデータ吸い上げ（2カ所）。

防災センターDVDデータ吸い上げ（週1回）。

収蔵庫おんどりの設定（15カ所）。

収蔵庫担当者会議，報告，3回。

博物館パンフレット、ポスター等一斉発送作業，2回。

低温収蔵庫・冷凍収蔵庫の試料の移動，3回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

トピック展示（B展示室収蔵品紹介コーナー）第17回学芸員のこだわり展示「初公開！県指定文化財「北比良の
石屋用具」」（2023年5月23日～7月30日），展示補助。

トピック展示（B展示室収蔵品紹介コーナー）第20回学芸員のこだわり展示「発見！滋賀県独自の民具資料一目
加田唐箕一」（2023年11月28日～2024年1月21日），展示補助。

第31回企画展示「おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」(2023年7月15日～11月19日), 展示補助.

印刷物

【専門分野の著作】

中島経夫・北林栄一 (2023) 魚類化石. In: 郷土日田の自然調査会 (編), *日田市天瀬町馬原地域の地質と化石調査報告書*, 郷土日田の自然調査会, 日田, pp. 38-46.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023 年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.

2023 年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023 年度，琵琶湖博物館名誉学芸員.

2023 年度，琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

滋賀県，滋賀県環境審議会，環境企画部会，委員（2022 年 6 月～2024 年 5 月）.

滋賀県，滋賀県環境審議会，自然環境部会，部会長（2022 年 6 月～2024 年 5 月）.

（独）水資源機構，近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会，委員（2023 年 9 月～2024 年 8 月）.

（独）水資源機構（関西・吉野川支社）河川水辺の国勢調査（ダム湖編），アドバイザー（2023 年 4 月～2024 年 5 月）.

国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所，瀬田川整備検討委員会，委員，（2022 年 3 月～2024 年 2 月）.

環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進員（2021 年 7 月～2024 年 6 月）.

京都府建設交通部河川課，京都府畑川ダム環境保全フォローアップ委員会，委員（2023 年 11 月～2024 年 3 月）.

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2023）膳所茶臼山古墳・兜稻荷古墳と五色塚古墳の諸関係ー古墳時代前期後半の畿内境界墳ー. *淡海文化財論叢*（淡海文化財論叢刊行会），15：28-33.

用田政晴（2024）旧明石郡の前期前方後円墳の史的位置. *2023年度神戸学院大学地域研究センター活動・研究報告書*（神戸学院大学地域研究センター），28-35.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2023年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構，代表.

日本民具学会，評議員.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

神戸学院大学人文学部，教授.

神戸学院大学博物館学芸員課程，主任.

神戸学院大学人間文化学研究科人間行動論講座，代表.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の活動

2023年7月11日，講演「歴史教科書のウソとホントー仁徳天皇陵と五色塚古墳の違いなどー」，入学・高大接続センター模擬授業，兵庫県立三木高等学校（兵庫県三木市），講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023年度，琵琶湖博物館名誉学芸員.

2023年度，琵琶湖博物館特別研究員.

印刷物

【学術論文】

- Dreyer, N., Palero, F., Grygier, M. J., Chan, B. K. K. and Olesen, J. (2023) Single-specimen systematics resolves the phylogeny and diversity conundrum of enigmatic crustacean y-larvae. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 184, Elsevier: 107780, <https://doi.org/10.1016/j.ympev.2023.107780>.
- Dreyer, N., Olesen, J., Grygier, M. J., Eibye-Jacobsen, D., Høeg, J. T., Kerbl, A., Fujita, Y., Kolbasov, G. A., Savchenko, A. S., Worsaae, K., Palero, F. and Chan, B. K. K. (2023) The biology and lifecycle of enigmatic crustacean y-larvae: a review. *Oceanography and Marine Biology: An Annual Review*, 61, Taylor & Francis: 81-126, <https://doi.org/10.1201/9781003363873-4>.
- Olesen, J., Grygier, M. J. and Herranz, M. (2024) Autofluorescence imaging of exuviae as a tool for studying slide preparations of micro-arthropods, exemplified by a museum collection of the enigmatic crustacean “y-larvae” (Pancrustacea: Facetotecta). *Zoomorphology*, Springer, 143 (2) : 255-268 <https://doi.org/10.1007/s00435-024-00641-y>.
- Dreyer, N., Olesen, J., Grygier, M. J., Eibye-Jacobsen, D., Savchenko, A. S., Fujita, Y., Kolbasov, G. A., Machida, R. J., Chan, B. K. K. and Palero, F. (2024) Novel molecular resources for single-specimen barcoding of enigmatic crustacean y-larvae. *Invertebrate Systematics*, 38, CSIRO Publishing: IS23018, <https://doi.org/10.1071/IS23018>.
- Olesen, J. and Grygier, M. J. (2024) Taxonomic diversity of marine planktonic ‘y-larvae’ (Crustacea: Facetotecta) from a coral reef hotspot locality (Japan, Okinawa), with a key to y-nauplii. *European Journal of Taxonomy*, 929, EJT Consortium: 1-90, <https://doi.org/10.5852/ejt.2024.929.2479>.

【専門分野の著作】

- Rheindt, F. E., Bouchard, P., Pyle, R. L., Welter-Schultes, F., Aescht, E., Ahyong, S. T., Ballerio, A., Bourgoïn, T., Ceriaco, L. M. P., Dmitriev, D., Evenhuis, N., Grygier, M. J., Harvey, M. S., Kottelat, M., Kluge, N., Krell, F.-T., Kojima, J., Kullander, S. O., Lucinda, P., Lyal, C. H. C., Scioscia, C. L., Whitmore, D., Yanega, D., Zhang, Z.-Q., Zhou, H.-Z. and Pape, T. (2023) Tightening the requirements for species diagnoses would help integrate DNA-based descriptions in taxonomic practice. *PLOS Biology*, 21 (8), Public Library of Science: e3002251, <https://doi.org/10.1371/journal.pbio.3002251>.

【一般向けの著作】

- 王玲文 (2023) 専訪比較解剖学学者: 山田格老師 Interview with Tadasu K. Yamada. *奥秘海洋 The Omics in the Ocean*, 120, 国立海洋生物博物館 National Museum of Marine Biology & Aquarium: 36-41. [Grygier, M. J., 英文審訂 (英文校正)].

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

- (デンマーク) Carlsberg Foundation, 『Global diversity of “y-larvae” — a 100+ year old enigma in marine biology』 (研究代表者 Jørgen Olesen), 共同研究者 (2023年1月~2025年12月) .

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, *Journal of Crustacean Biology*, Associate Editor, 査読, 6件.
Springer, *Systematic Parasitology*, Editorial Board Member, 査読, 1件.
Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, *Zoosystematica Rossica*, Editorial Board.
国立科学博物館, *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, 編集委員.
動物命名法国際審議会, *Bulletin of Zoological Nomenclature*, Assistant Editor.
EJT Consortium, *European Journal of Taxonomy*, 査読, 1件.
MDPI, *Diversity*, 査読, 1件.
MDPI, *Animals*, 査読, 1件.
MDPI, *Water*, 査読, 1件.
Slovak Academy of Sciences, *Biologia*, 査読, 1件.
Instituto de Biología, Universidad Nacional Autónoma de México, *Revista Mexicana de Biodiversidad*, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

他の博物館・機関等の活動

(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館, 囊胸類等の甲殻類液浸標 25 点以上 (全部で 1000 個体以上), 標本提供.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」, パネル更新, 1件.

館内人事、館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023 年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.

2023 年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

(独立行政法人) 日本学術振興会, 第 40 回国際生物学賞, 審査委員会, 委員 (2024 年 1 月～).

2023 年 5 月 1 日更新, (台湾) 国立海洋生物博物館, 特聘講座 (Distinguished Researcher).

2023 年 6 月 21 日更新, (米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館 研究・資料部 (甲殻類研究科) 協力研究員.

(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館, 協力研究員.

動物命名法国際審議会, 委員.

印刷物

【学術論文】

Xiaolu Jiao, Lei Wu, Dezhi Zhang, Huan Wang, Feng Dong, Le Yang, Shangyu Wang, Hitoha E Amano, Weiwei Zhang, Chenxi Jia, Frank E Rheindt, Fumin Lei and Gang Song (2024) Landscape heterogeneity explains the genetic differentiation of a forest bird across the Sino-Himalayan Mountains. *Molecular Biology and Evolution*, 41 (3) : msae027. <https://doi.org/10.1093/molbev/msae027>.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

2023年11月17日, 特定外来生物ソウシチョウの遺伝情報に基づく管理ユニット, 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

2024年2月25日, 特定外来生物ソウシチョウの生態研究とサンジャク対策, 外来種サンジャク緊急対策シンポジウム, 四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンター (ミュージアム) (高知県四万十町), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基礎C) 「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」 (研究代表者: 榊永一宏), 研究協力者 (2022年度~2024年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 琵琶湖博物館, 鳥類の同定 5件.

他の博物館・機関等主催行事

2023年5月27日, ゲンジボタルの一生を知ろう&観察会, 小さな自然再生ネットワーク, コミュニティセンター 大宝 (栗東市), 講師補佐.

2023年6月3日, ホタルの生態について, 環境講座「ホタル観察学習会」, 栗東市教育委員会生涯学習課, コミュニティセンター金勝 (栗東市), 講師補佐.

2023年6月9日, ホタルの生態について, 環境講座「ホタル観察学習会」, 栗東市教育委員会生涯学習課, コミュニティセンター葉山 (栗東市), 講師補佐.

2024年2月23-24日, サンジャク・テレメトリー講習会 (フィールドワーク), 公益社団法人生態系トラスト協会, 四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンター (ミュージアム) (高知県四万十町), 講師.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

おとなのディスカバリー 交流コーナー, 冬の琵琶湖に集まるカモたち1・展示作成, 2020年11月24日~2023年5月28日.

おとなのディスカバリー スケッチコーナー, 冬の琵琶湖に集まるカモたち2・展示作成, 2020年12月2日~2023年5月28日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2023年6月17日～23日，韓国，野外調査（科研費）.

2023年7月11日～27日，アメリカ，野外調査（科研費）.

【館外の活動】

滋賀県 生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員（2021年4月～）.

生態学会 外来種対策作業部会，部会員（2023年3月～）.

項目に該当するものなし

印刷物

【一般向けの著作】

池田 勝（2023～2024）ちこあそ（ちっちゃなこどもの自然あそび）。はしかけニューズレター，琵琶湖博物館，170：11，171：12-13，172：13，173：10-11，174：13-14，175：11，176：11-12。

池田 勝（2023）地元も流域も学びの場に。Mother Lake Goals Evaluation Report シン・びわ湖なう 2023（マザーレイクゴールズ学術フォーラム），29-30。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

池田 勝（2023年3月15日）幼児期の自然体験活動や自然保育について－滋賀の指導者養成と認定制度－。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2023年4月19日～2024年3月20日，ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」，はしかけ活動，琵琶湖博物館，企画・広報・運営，11件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2023年4月5日～2024年3月29日，実習「自然体験型教育」，スキニシー学校，子どもと大人のフリースクール，運営，129件。

2023年4月9日～2024年3月17日，にちようの森，せた♪森のようちえん，小学生の自然体験活動，運営，24件。

2023年4月29日～4月30日，実習「Treeing」，希望ヶ丘自然体験フェスティバル，木登りクラブグリーンデイ，希望ヶ丘公園（蒲生郡竜王町），講師。

2023年5月20日，実習「ホタルの観察」，ルシオールキッズクラブ（碧いびわ湖），あまが池吉川川（守山市），講師。

2023年5月26日，実習「おおかみ川探検隊」，総合学習（草津市立南笠東小学校3年生），狼川（草津市），講師。

2023年5月28日，実習「志津いきもの自然学校」，志津里山自然学校，志津まちづくり協議会・草津市，馬場町奥村但馬守館跡周辺の山林（草津市），講師。

2023年6月6日，講義「びわこってどんな湖」，総合学習（草津市立草津第二小学校5年生），草津市立草津第二小学校，講師。

2023年6月7日, 実習「おおかみ川探検」, 総合学習(草津市立南笠東小学校特別支援クラス), 狼川(草津市), 講師.

2023年6月14日~2024年3月31日, 委員, マザーレイクゴールズ学術フォーラム委員会(滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課)

2023年6月17日, 実習「狼川探検」, 南笠東地域協働合校, 狼川(草津市), 講師.

2023年6月17日, 実習「吉川川の生き物探し」, ルシオールキッズクラブ(碧いびわ湖), あまが池吉川川(守山市), 講師.

2023年6月20日, 実習「葉山川生き物探し」, 総合学習(草津市立渋川小学校4年生), 葉山川(草津市), 講師.

2023年6月23日, 実習「十禅寺川の生き物探し」, ESDつながり学習(草津市立玉川中学校2年生), 十禅師川(草津市), 講師.

2023年6月29日, 実習「ネイチャーゲーム」, 生活科(草津市立志津南小学校1年生), 若草中央児童公園(草津市), 講師.

2023年7月4日, 講義「琵琶湖概論」, 総合学習(大津市立真野北小学校5年生), 大津市立真野北小学校(大津市), 講師.

2023年7月7日, 講義「琵琶湖」, 奈良市立一条高校附属中学校2年生, megumi号(琵琶湖上), 講師.

2023年7月12日, 実習「川の生物観察」, ESDつながり学習(草津市立玉川中学校2年生), 草津市立玉川中学校(草津市), 講師.

2023年7月20日, 実習「ネイチャークラフト」, やってみようみとっこ(湖南市立水戸小学校), 湖南市立水戸小学校, 講師.

2023年7月23日~7月30日, 実習「西表島エコツアー」, NPO法人かごしま子どもと自然研究所, 西表島(沖縄県), 運営.

2023年8月3日, 実習「ビオトープづくり」, 西市会館, 西市会館(草津市), 講師.

2023年8月19日, 実習「吉川川の生き物探し」, ルシオールキッズクラブ(碧いびわ湖), あまが池吉川川(守山市), 講師.

2023年8月21日, 講義「琵琶湖」, 大阪大谷高校2年生, megumi号(琵琶湖上), 講師.

2023年8月22日, 講義「琵琶湖」, 龍谷大学附属平安中学校1年生, megumi号(琵琶湖上), 講師.

2023年8月23日~24日, 実習「サマーキャンプ in びわこ地球市民の森」, みらいもりやま21ビオトープ協議会, 県営都市公園びわこ地球市民の森(守山市), 講師.

2023年9月27日, 講義「琵琶湖」, 東洋英和女学院小学校6年生, megumi号(琵琶湖上), 講師.

2023年10月4日, 実習「湖魚の試食」, ESDつながり学習(草津市立玉川中学校2年生), 草津市立玉川中学校(草津市), 講師.

2023年10月6日, 実習「外来魚の解剖」, ESDつながり学習(草津市立玉川中学校2年生), 草津市立玉川中学校(草津市), 講師.

2023年10月11日, 実習「牛乳パックリサイクル」, 総合学習(近江八幡市立安土小学校4年生), 近江八幡市立安土小学校(近江八幡市), 講師.

2023年10月12日, 講義「琵琶湖」, 初芝立命館中学校2年生, megumi号(琵琶湖上), 講師.

2023年10月20日, 講義「琵琶湖概論」, 総合学習(大津市立下阪本小学校5年生), 大津市立下阪本小学校(大津市), 講師.

2023年11月7日, 実習「ネイチャーゲーム」, 生活科(草津市立志津南小学校1年生), 若草中央児童公園(草津市), 講師.

2023年11月21日, 講義「琵琶湖と水の大切さ」, 早稲田実業初等部6年生, megumi号(琵琶湖上), 講師.

2023年11月23日, 企画運営「びわこのお魚たのしみ隊」, 遊びと学びの体験フェア(滋賀県琵琶湖環境部環境政策課), 矢橋帰帆島公園(草津市)

2023年11月30日, 実習「ネイチャーゲーム」, 生活科(大津市立富士見小学校2年生), 大津市立富士見小学校(大津市), 講師.

印刷物

【専門分野の著作】

- 今井一郎 (2023) まえがき: 赤潮の発生と漁業被害. *月刊海洋*, 55 (10): 491-496.
- 今井一郎 (2023) 有害有毒赤潮の発生機構と環境に優しい防除対策. *月刊海洋*, 55 (10): 497-507.
- 山本圭吾・岡本英明・今井一郎 (2023) 種間競合による有毒プランクトン抑制の試み - 大阪湾の海底耕耘-. *月刊海洋*, 55 (10): 526-531.
- 稲葉信晴・今井一郎 (2023) 新たな藻場機能を活用した有害有毒藻類ブルームの発生しにくい環境創出の可能性. *月刊海洋*, 55 (10): 532-538.

【一般向けの著作】

- 今井一郎 (2023) 書評『水産研究・教育機構叢書「東日本大震災後の放射性物質と魚」』国立研究開発法人 水産研究・教育研究機構 (編著). *日本プランクトン学会報*, 70 (2): 75-76.
- 今井一郎 (2024) 第20回国際有害有毒藻類学会広島大会 (ICHA 20 Hiroshima 2023) の開催経緯と内容. *日本プランクトン学会報*, 71 (1): 19-24.
- 今井一郎 (2024) 第20回国際有害有毒藻類学会広島大会 (ICHA 20 Hiroshima 2023) 一色でした. *PLO通信*, 74: 25-28.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 今井一郎・今井佑実・野田 誠・宮村和良 (2023年9月3日) 大分県佐伯湾の海底泥中における有害赤潮ラフィド藻 *Heterosigma akashiwo* シスト及び珪藻類休眠期細胞の分布. 北海道大学函館キャンパス (北海道函館市), [口頭発表].
- 今井一郎 (2023年9月23日) 有害有毒赤潮研究に取り組んできて思うこと. 日本海洋学会シンポジウム「日本海洋学会海洋環境問題研究会の活動: 過去・現在・未来 - 設立50周年を迎えて-」, 京都大学吉田キャンパス南4号館 (京都市左京区), [口頭発表].
- 20th International Conference on Harmful Algae (ICHA 20 Hiroshima 2023) “HAB Science and Human Well-being”, November 5 - 10, 2023, Grand Prince Hotel Hiroshima, Hiroshima, [大会委員長].
- Chen, S., Sakai, R., Imai, I. and Fujita, M. (November, 6, 2023) Taxonomy, function, and molecular mechanisms of the algicidal bacterium, *Pseudomonas* sp. Go58, derived from water-plant biofilm. ICHA 20 Hiroshima 2023, Grand Prince Hotel Hiroshima, Hiroshima, [ポスター発表].
- Shimada, H., Sato, M., Shinada, A., Arima, D., Yasunaga, T., Kanamori, M., Kuroda, H., Sakamoto, S. and Imai, I. (November 7, 2023) Expansion of HAB species in Hokkaido, northern Japan, after 2010s. ICHA 20 Hiroshima 2023, Grand Prince Hotel Hiroshima, Hiroshima, [ポスター発表].
- Imai, I. (November 9, 2023) A review on environmentally friendly strategies against harmful algal blooms. ICHA 20 Hiroshima 2023, Grand Prince Hotel Hiroshima, Hiroshima, [口頭発表].
- Shibata, Y., Kitano, K., Shiga, T., Itakura, S., Nagamatsu, K., Yamaguchi, M. and Imai, I. (November 9, 2023) Possibility of suppressing harmful algal blooms (HABs) using artificial reefs (water stirring blocks) installed on the coastal seabed. ICHA 20 Hiroshima 2023, Grand Prince Hotel Hiroshima, Hiroshima, [口頭発表].
- Ishii, K.-I., Imai, I., Matsuoka, K., Inaba, N., Tanimura, M., Wyllie-Echeverria, S. and Trainer, V.L. (November 9, 2023) Spatial distribution of benthic cysts of *Heterosigma akashiwo* (Raphidophyceae) in sediments of Puget Sound, Washington, USA. ICHA 20 Hiroshima 2023, Grand Prince Hotel Hiroshima, Hiroshima, [口頭発表].

Onishi, Y., Tsuji, A., Yamaguchi, A. and Imai, I. (November 7, 2023) Quorum sensing mediated activities of growth-inhibiting bacteria against the toxic dinoflagellate *Alexandrium catenella* (Group I). ICHA 20 Hiroshima 2023, Grand Prince Hotel Hiroshima, Hiroshima, [ポスター発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

国際有害有毒藻類学会, 国際評議員.

日本水産学会, 水産環境保全委員会, 委員.

第20回国際有害有毒藻類学会広島大会, 大会委員長 (広島, 2023年11月).

EASTHAB, 運営委員 (日本).

Harmful Algae, 査読, 1件.

Frontiers in Marine Science, 査読, 1件.

Plos One, 査読, 1件.

【受賞など】

安元生涯功労賞 (国際有害有毒藻類学会), 2023年12月28日.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

2023年度ジュニアドクター育成塾 (特定認定NPO法人琵琶湖トラスト), 6月25日 (ガイドランス・研究倫理; 大津市勤労福祉会館)・8月13日 (船上実習; 琵琶湖北湖南湖)・12月3日 (座学; 大津フローティングスクール)・12月17日 (座学; 大津フローティングスクール)・3月24日 (研究発表会; 立命館大学ローム記念館), 講師, 5件.

2023年度親子環境教育 (特定認定NPO法人琵琶湖トラスト), 7月26日 (プランクトン観察教室; MEGUMI 船上)・8月2日 (ガサガサ教室; オーバル湖岸)・8月23日 (プランクトン観察教室; MEGUMI 船上), 理事, 3件.

2023年6月26日, 環境に優しい有害有毒赤潮対策について, 令和5年度宮城県漁業士会中部支部研修会, 講師.

2023年11月3日, 高校生海洋環境保全研究発表指導会, 国際エメックスセンター, 兵庫県民会館パルテホール, 講師.

2024年1月27日, 高校生海洋環境保全研究発表会, 国際エメックスセンター, スペースアルファ三宮, 講師.

2024年1月29日, 琵琶湖の漁場生産力の向上を目指して, 勉強会 (滋賀県水産試験場), 講師.

メディアへの対応

2023年12月28日, 日刊水産経済新聞「国際有害有毒藻類学会 今井北大名誉教授に『安元生涯功労賞』」.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

瀬戸内海広域漁業調整委員会, 会長 (2022年4月～).

農林水産技術会議委託プロジェクト研究「魚介類養殖における気候変動に左右されない強力な赤潮対応技術の開発」, 有識者委員 (2022年1月～).

日本政府観光局 JNTO, MICE アンバサダー (2018年4月～).

水産庁漁場環境改善推進事業のうち赤潮被害防止対策技術の開発, 有識者委員 (2018年4月～).

全国海区漁業調整委員会連合会, 理事 (2021年4月～).

北海道赤潮の発生メカニズムの解明等による発生予察手法の開発及び新たな赤潮原因プランクトンの水産生物に対する毒性の影響等の調査事業検討会, 有識者委員 (2022年1月～).

大阪海区漁業調整委員会, 会長 (2021年4月～).

大阪府海面利用協議会, 会長 (2019年4月～).

大阪府豊かな海づくり推進プラン懇話会, 座長 (2019年4月～).

日本水道協会微生物・生物部会, プランクトン計数板検討会, 委員 (2022年4月～).

公益財団法人大阪府漁業振興基金, 評議員 (2021年4月～).

国際エメックスセンター, 主席客員研究員・評議員.

公益財団法人環日本海環境協力センター，環日本海海洋環境検討委員会，委員（2000年4月～）.
中国温州大学，客員教授（2019年3月～）.
中国雲南大学，客員教授（2019年6月～）.
認定特定NPO法人びわ湖トラスト，理事（2019年4月～）・事務局長代行（2023年11月～）.
一般社団法人全日本漁港建設協会環境維持保全工法研究会，顧問（2018年4月～）.
株式会社プラントバイオ，顧問（2017年4月～）.

印刷物

【学術論文】

IWAKI, M. (2023) The Response of Lake Water Levels to Precipitation-Case Study of Lake Biwa, Doctoral dissertation, Kyoto University, Graduate School of Engineering, 1-96.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明 (研究代表者 : 亀田佳代子), 共同研究者 (2023 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Inland Waters (International Society of Limnology), Associate Editor (Program).

印刷物

【専門分野の著作】

SHODA, S., TRIPATHI, D., UENAKA, H., MURAKAMI, N. and NISHIHARA, K. (2023) Archaeobotany: Microscopic and molecular techniques. In: Efthymia Nikita, Thilo Rehren (eds.), *Encyclopedia of Archaeology, 2nd Edition*. Academic Press, 708-716.

【一般向けの著作】

上中央子(2024) 門田遺跡第6次調査における花粉分析. 門田遺跡第6次発掘調査報告書, 47: 46-50.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

上中央子 (2023年12月2・3日) 植物遺体からみた古代都城における植物相の特徴. 第38回日本植生史学会大会, 鹿児島大学 (鹿児島市), [ポスター].

上中央子 (2024年2月16日) 植物遺体からみた古代都城における植物相の特徴. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【インターネットページでの公表】

Shoda, S., Tripathi, D., Uenaka, H., Murakami, N. and Nishihara, K. (2023.10) Archaeobotany: Microscopic and molecular techniques. Hardback ISBN: 9780323907996 eBook ISBN: 9780323918565, *Encyclopedia of Archaeology, 2nd Edition*. ScienceDirect.

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤C) 「植物遺体群からみた古代都城における草本植物相に関する基礎的研究」 (研究代表者: 滋賀県立琵琶湖博物館・上中央子), 研究代表者 (2022年度~2024年度).

琵琶湖博物館共同研究 「歴史景観生態学からみた森と人の関係」 (研究代表者: 妹尾裕介), 共同研究者 (2023年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年7月24日, 8月21日, 守山市在住小学生対象, 植物採集とさく葉標本の作製 (弥生の草花標本づくり), 守山市下之郷史跡公園.

特別研究員 (研究テーマ : 琵琶湖における漁獲量の長期変動と環境条件との関連性に関する研究/
琵琶湖の水質の長期変化と環境条件との関連性に関する研究/
琵琶湖の漁漁網付着物増加の原因に関する研究)

印刷物

【学術論文】

池谷 透・石田卓也・易 容・伴 修平・大久保卓也・奥田 昇 (2024) 琵琶湖周辺内湖の再生と保全 (第1報) 平湖・柳平湖の水質改善と滞留時間調整の検討. *自然環境復元研究*, 14(1) : 17-29.

【一般向けの著作】

大久保卓也 (2024) 滋賀県立大学による調査. In: 滋賀県, 高時川における長期濁水の原因調査及び対策に関する報告書, 41pp, 22-28.

大久保卓也・皆川明子 (2024) 2022年8月集中豪雨後の高時川長期濁水の実態把握. 2023年度教育研究高度化促進費 (提案課題研究) 成果報告書, 滋賀県立大学学術情報機関リポジトリ

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

大久保卓也・皆川明子 (2023年10月28日) 滋賀県高時川の濁水の現状. 第23回環境技術学会年次大会, 立命館大学びわこ・草津キャンパス, [口頭発表]

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究分担者 (2019年度~2027年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本水環境学会関西支部, 理事.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

2023年8月9日, 高時川濁水問題に関する報告会, 滋賀県, 調査経過説明.

2023年11月27日, 高時川濁水問題に関する報告会, 滋賀県, 調査経過説明.

2024年2月9日, 高時川濁水問題に関する報告会, 滋賀県, 調査経過説明.

印刷物

【学術論文】

柏尾珠紀 (2023) 滋賀県における鮎鮎の継承と普及に関する考察—漁師の販売に注目して—. *村落社会研究ジャーナル* (村落社会研究学会), 58 : 1-12.

【専門分野の著作】

柏尾珠紀 (2023) 農業委員会における女性登用と女性の活躍—女性農業者の活躍と課題—支援者としての農業委員会の役割に期待—. *農政時報ブックレット*, 東京都, 51-65.

柏尾珠紀 (2023) 景観から地域をみる—越境する視点から農村調査をしてみよう—. In: 岩佐光広 (編), *越境する視点から地域をみる—高知をフィールドに*, 高知大学, 高知県, 207-223.

柏尾珠紀 (2023) 第71回村落社会研究全国大会印象記. *日本村落研究学会研究通信*, 269 : 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

柏尾珠紀 (2023年2月10日) 里川のあるまちづくり. 第20回川づくりフォーラム話題提供講演 (守山市・認定NPO法人びわこ豊穰の郷主催), 守山市玉津会館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業「女性農業者の技術の再評価と女性農業リーダー育成システムに関する社会学的研究」(研究代表者: 柏尾珠紀), 調査研究・研究統括 (2020年度~2023年度).

科学研究費助成事業「森林鉄道のインフォーマルな生活利用の民衆史: 高知・青森・秋田の女性の語りをもとに」(研究代表者: 高知大学・岩佐光弘), 研究分担者 (2021年度~2024年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2023年10月~2024年1月, 近江のナレズシ県民大調査調査票作成および調査票調査, フィールドレポーター活動, 琵琶湖博物館.

他の博物館・機関等の主催行事

2024年2月10日, 講演「里川のあるまちづくり」, 第21回川づくりフォーラム, 守山市委託事業・認定NPO法人びわこ豊穰の郷主催, もりやまエコパーク環境センター (滋賀県守山市), 講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

京都府農村振興課日本型直接支払制度, 支援委員 (2015年4月~).

滋賀県緑化推進会, 委員 (2015年10月~).

滋賀県流域治水推進審議会，委員（2023年10月～）.

滋賀県農村振興交付金制度審議会，委員（2023年10月～）.

認定NPO法人びわこ豊穰の郷，理事（2016年6月～）.

近畿農政局女性農業委員座談会，オブザーバー（2023年10月～）.

印刷物

【学術論文】

柏谷健二・落合伸也（2023）地形改変と湖沼堆積物情報. *地形*, 44, 181-1193.

Shichi, K., Ted Goebel, T., Izuho, M. and Kashiwaya, K. (2023) Climate amelioration, abrupt vegetation recovery, and the dispersal of *Homo sapiens* in Baikal Siberia: Science Advances, 9 : eadi0189. DOI:10.1126/sciad.adi0189.

Kashiwaya, K., Machida, N., Ochiai, S. and Shichi, K. (2023) Sediment discharge fluctuation in the Selenga inferred from Lake Baikal sediments: Trans. *JGU*, 44 : 43-59.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

柏谷健二（2022）侵食力の推定と陸水地形学. *地形*, 42 : 57-68.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

Kashiwaya, K. and Lin, J.C. (2023) Artificial impacts printed in lacustrine sediments: 17th EEIW, October, Kunming, China.

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（基盤B）「近過去の豪雨・地震・火山活動に伴う土砂流出イベント履歴の推定」（研究代表者：落合伸也），研究分担者（2022年度～2024年度）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2023年10月8日～12日，中国・昆明，17th EEIW(East Eurasia International Workshop)への参加。

印刷物

【一般向けの著作】

桑原雅之 (2023) 琵琶湖の魚の不思議と謎8 琵琶湖のナマズ. Walton (ウォルトン舎), (12): 10-15.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

桑原雅之 (2023年9月3日) ビワマスはいったい何を食べたいのか? 2023年度日本魚類学会年会, 長崎大学, [口頭発表].

桑原雅之 (2023年12月15日) ビワオオウズムシの生物学的特性の解明に向けて. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

公益財団法人日本生命財団 2023年度若手研究・奨励研究助成「琵琶湖の底層貧酸素化が底生生物3種に与える影響を可視化する」(研究代表者: 龍谷大学・山中裕樹), 共同研究者 (2023年10月~2024年9月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

10th International Charr Symposium in Japan, 幹事.

10th International Charr Symposium in Japan, エクスカーション運営.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年度, 大阪ECO動物海洋専門学校 (ドルフィントレーナー専攻, 1年), アニマルベーシック.

2023年度, 大阪ECO動物海洋専門学校 (ドルフィントレーナー専攻, 水族館・アクアリスト, 海洋動物保護, 野生動物保護専攻, 1年), 水族館研究.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト, 2023年度ジュニアドクター育成塾船上講座および座学, 講師, 10件.

2022年9月14日, 講演「淡水魚の採集と同定」, 淡水魚 (シニア自然大学), 大戸川 (滋賀県大津市), 講師.

2023年3月24日, ジュニアドクター育成塾研究成果発表会, 審査委員.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト, 理事.

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト, はっけん号補修委員会委員.

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト, ブルーパール賞選定委員会委員.

印刷物

【学術論文】

Tanabe, S., Komatsubara, T. and Hori, K. (2023) Grain-size variability and formation process of lowstand river sediments in the Japanese Islands: A review and outlook. *Earth-Science Reviews*, 243, Elsevier : 104504.

小松原 琢 (2023) 隆起に伴う丘陵の地形発達と地震地すべりを起こしやすい斜面の特徴, 新潟県の新第三紀泥岩分布地域の事例-. *日本地すべり学会誌*, 日本地すべり学会, 60 : 49-61.

小松原 琢・富浦裕司・郡谷順英 (2023) ボーリング孔壁のボアホールカメラ撮影画像を用いた沖積層の構造調査. *活断層・古地震研究報告*, 産業技術総合研究所地質調査総合センター, 22号, : 17-31.

【専門分野の著作】

小松原琢 (2023) 定説に反する? 養老-桑名-四日市断層帯と濃尾傾動地塊の運動. *土と岩*, 中部地質調査業協会, 71号 : 57-62.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

小松原琢 (2023年6月14日) 雑種地形屋がみた地球の息づかい-内的作用・外的作用による地形形成-. つくば斜面地形研究会第8回研究会, つくば斜面地形研究会, オンライン, [口頭発表].

小松原琢 (2023年7月26日) 活断層の長期評価に関する調査成果. 令和5年奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測地域勉強会, 文科省・京都大学防災研究所, 奈良春日野国際フォーラム薨(奈良市), [口頭発表].

小松原琢・(2023年8月31日) 日本の山地の隆起過程と地震地すべり発生場の地史的・地形的条件. 中国地質調査業協会岡山県支部令和5年度技術講演会, 中国地質調査業協会岡山県支部, 岡山国際交流センター(岡山市), [口頭発表].

小松原琢・(2023年9月17日) 歴史記録と地質からみた京都の地震. 日本地質学会第130回学術大会市民講演会, 日本地質学会, 京都大学百周年時計台記念館(京都市), [口頭発表].

小松原琢・(2023年9月18日) 京都の自然史-歴史の舞台装置を造った地球の営み-. 地質情報展2023きょうとGSJミニ講演会. 産業技術総合研究所地質調査総合センター・日本地質学会, 京都大学理学研究科5号館(京都市), [口頭発表].

小松原琢・(2023年9月18日) 養老-桑名断層系と濃尾傾動地塊の特異なふるまい. 日本地質学会第130回学術大会, 日本地質学会, 京都大学理学研究科5号館(京都市), [口頭発表].

小松原琢・(2023年9月20日) 京都盆地-奈良盆地断層帯周辺の第四系と地史. 日本地質学会第130回学術大会巡検, 日本地質学会, 京都市~天理市, [巡検引率].

小松原琢・(2023年11月2日) 奈良盆地東縁・帯解断層近傍の浅層ボーリングと断層帯の平均変位速度. 2023年度日本地震学会秋季大会, 日本地震学会, パシフィコ横浜ホール(横浜市), [口頭発表].

小松原琢・服部健太郎・(2023年11月2日) S10「活断層・歴史地震」セッション. 2023年度日本地震学会秋季大会, 日本地震学会, パシフィコ横浜ホール(横浜市) [座長].

小松原琢・(2023年12月20日)花崗岩山地における隆起速度の違いに起因する崩壊準備過程の違いについて(予報). つくば斜面地形研究会第11回研究会, つくば斜面地形研究会, オンライン(つくば市), [口頭発表].

小松原琢・(2024年2月18日)近畿三角地帯の堆積盆地の北移動について. 琵琶湖博物館第37回地学研究発表会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

小松原琢・(2024年3月20日予定)沿岸活断層の上下変位速度の求め方について. 2024年日本地理学会春季学術大会, 日本地理学会, 東京都立大学南大沢キャンパス(東京都八王子市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

「沿岸域の地質・活断層往査研究(伊勢湾・三河湾)」(研究代表者:板木拓也), とりまとめ責任(2019~2023年度).

「陸域地質図プロジェクト(1/5万地質図外山)」(研究代表者:内野隆之), 第四系分担(2019~2023年度).

【学会等の役職・運営, 論文の査読など】

東京地学協会, 総務委員会委員.

歴史地震研究会, 編集委員会委員.

東北地理学会, 評議会評議員.

日本地すべり学会, 地震地すべり研究委員会委員.

【大学・学校の講義・実習, 学生・生徒の指導など】

2023年11月~2024年3月, 流通経済大学経済学部, 全学共通科目「地球科学Ⅱ」, 非常勤講師.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

辻川智代（2023年5月19日）農閑期副業における籠生産の技術—小原籠を中心に—，琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，〔口頭発表〕。

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

文化庁文化遺産総合活用推進事業，学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，参加。
高島市文化遺産活用実行委員会，朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト，参加。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営，近江はたおり探検隊，担当。

印刷物

【専門分野の著作】

寺本憲之（2023）滋賀県立琵琶湖博物館第30回企画展示「チョウ展—湖北地方の養蚕—」を振り返る。野蚕—新素材シルクと野蚕機能の研究開発—, 91:3-6.

寺本憲之（2023）滋賀県における天蚕のポット栽培クヌギ樹園での簡易飼育と採卵方法。野蚕—新素材シルクと野蚕機能の研究開発—, 92:3-5.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

寺本憲之（2023年5月14日）滋賀県のカイコの絹糸を活用した真綿布団・邦楽器糸の生産，日本鱗翅学会第166回近畿支部例会。I-site なんば（大阪公立大学），[口頭発表]。

寺本憲之（2023年10月4日）自然（鈴鹿山脈の動物（昆虫類・哺乳類））—昆虫類（鈴鹿山脈で発見された原始的鱗翅類と鱗翅目昆虫の進化・鈴鹿山脈の昆虫・鈴鹿山脈の哺乳類（ニホンザル・ニホンジカなど）など）—，鈴鹿10座エコツアーリズムガイド養成講座，東近江市エコツアーリズム推進協議会・東近江市森と水政策課，木地師やまのこの家（東近江市蛭谷），[口頭発表]。

寺本憲之（2023年10月22日）オドリハマキモドキ（ハマキモドキガ科）とヒロバスゴモリキバガ（ホソキバガ科）の類似した幼虫シェルターの比較，日本鱗翅学会第69回大会。日本鱗翅学会，東りいたみホール（伊丹市），[口頭発表]。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野蚕学会，委員，2003年～現在。

日本鱗翅学会，近畿支部幹事，2004年～現在（本部評議員期間を除く）。

日本鱗翅学会第69回（伊丹）大会実行委員会委員，2022年12月～2023年10月。

令和6年度（農林水産省）生物系特定産業技術研究支援センター オープンイノベーション研究・実用化推進事業，評議委員，審査1件

令和5年度滋賀県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画検討会，委員，第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル（第5次（案）））検討1件・個体群管理実施マニュアル（案）検討1件・個体数調整実施計画書審査1件。

東近江市森の文化資源（自然分野）連絡調整（東近江市森の文化博物館構想推進）会議，調査員（鈴鹿山脈の昆虫類），2022年～現在。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年9月5・21日，滋賀県立農業大学校，農業と環境，4コマ。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2023年5月～2024年3月、養蚕（桑栽培、邦楽器糸・真綿原料生産）、大音 養蚕の里づくり協議会・いをぎ まゆっこ倶楽部、大音集落・岩脇集落（長浜市・米原市）、指導。

2023年4月～2023年10月、天蚕飼育（クヌギ栽培、繭生産）、守山市、指導。

【研究部関連事業】

2023年7月26日・8月4日・8月26日・9月14日、学芸員勉強会（民族学と湖北の蚕糸業・里山保全と鳥獣害対策・滋賀県農業の現状と今後の課題）、琵琶湖博物館、指導。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県立大学 環境科学部、客員研究員。

日本昆虫学会、会員。

日本応用動物昆虫学会、会員。

日本鱗翅学会、会員（近畿支部幹事）。

日本蛾類学会、会員。

日本野蚕学会、会員（委員）。

日本蚕糸学会、会員。

誘蛾会、会員。

環境省、鳥獣保護管理プランナー。

農林水産省、農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー。

農林水産省、生物系特定産業技術研究支援センター オープンイノベーション研究・実用化推進事業、評議委員。

滋賀県、第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）検討会、委員。

滋賀県、総合生きもの調査専門委員会、専門委員（昆虫：チョウ目ガ類）。

東近江市、企画部 森の文化博物館整備課、森の文化資源調査員。

東近江市、エコツーリズム推進協議会、エコツーリズムアドバイザー。

印刷物

【専門分野の著作】

戸田 孝・芦谷美奈子・大塚泰介（2023）アイキャッチとしての数式－琵琶湖博物館での実践例－. *博物館学雑誌*（全日本博物館学会），48（2）：41-45.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

戸田 孝（2023年4月21日）科学館と自然史館の境界領域. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

戸田 孝（2023年7月1日）「科学館」と「自然史館」の共存事例から見えること. 全日本博物館学会第49回研究大会（全日本博物館学会），國學院大學（東京都渋谷区），[口頭発表].

戸田 孝（2023年9月20日）自然史博物館で科学館的説明が機能する条件. 日本科学教育学会第47回年会（日本科学教育学会），愛媛大学城北キャンパス（愛媛県松山市），[口頭発表].

戸田 孝（2024年2月22日）理工系館と自然史館の境界領域に関する事例調査. 全国科学博物館協議会第31回研究発表大会（全国科学博物館協議会），滋賀県立琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（基盤C）「地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発」（研究代表者：戸田 孝，研究代表者（2021年度～2023年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水物理学会，運営委員，期間の定めなし.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年4月10日～7月31日，滋賀県立大学「環境物理学 II」（電磁気学），講義.

2023年4月13日～7月27日，滋賀県立大学「環境物理学実験」，実験指導

2023年4月18日～2024年1月16日，びわこ成蹊スポーツ大学「琵琶湖の環境と科学」，講義.

2023年10月5日～10月26日，滋賀県立大学「博物館資料保存論」，講義（序論部分）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2023年8月19日，質問コーナーから引き継いだ質問への対応（琵琶湖の深呼吸に関する夏休み課題）.

メディアへの対応

2023年6月20日，読売新聞「蜃気楼琵琶湖の夢」，情報提供

印刷物

【一般向けの著作】

- 中井克樹 (2023) 「リリース (再放流)」をめぐる違和感. にぎやかな水辺 (全国ブラックバス防除市民ネットワーク), (9):11.
- 中井克樹 (2023) 環境問題講演会 (2022年5月22日) 「トキもウナギも絶滅危惧種 湖国の生き物は大丈夫?」. しがの保険医 (滋賀県保険医協会), 2023年5月25日 (号外), 1-6.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 中井克樹 (2023年6月10日) 共20-06 侵略的外来種対策を推進するための対策検証と現状把握に関する研究. 令和5年度 (2023年度) 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中井克樹 (2023年7月1日) 改正された外来生物法: 行政と研究者と愛好家の相互理解が大切. 滋賀自然環境研究会第33回研究発表会, 彦根勤労福祉会館 (彦根市), [口頭発表].
- 藤田朝彦・細谷和海・中井克樹・向井貴彦・谷口義則・森 誠一 (2023年9月3日) 岐阜県徳山ダム貯水池で生息が国内初確認されたロングイヤー・サンフィッシュ. 2023年度日本魚類学会年会, 長崎大学文京キャンパス (長崎市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2023年9月21日) 「河川水辺の国勢調査」の結果が示す侵略的外来種対策の課題: 特定外来生物コクチバスを例に. 応用生態工学会第26回京都大会, 京都大学宇治キャンパス木質ホール (京都府宇治市), [口頭発表].
- 坂本正吾・稲川崇史・沖津二郎・中井克樹・大杉奉功・中正裕史・佐々木良浩 (2023年9月21日) 三春ダムにおける外来魚の継続的な防除でみられたエビ類の確認状況の変化. 同上, [口頭発表].
- 中井克樹・河口洋一 (2023年9月21日) 研究発表会・口頭発表「モニタリング」セッション座長. 同上.
- 中井克樹 (2023年12月17日) 営農活動に便乗し田んぼで暴れる外来植物, ついに琵琶湖まわりでも. 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [オンライン発表].
- 笹田直樹・白神義章・久保 星・山下博康・中井克樹・松村 清 (2024年2月10~11日) ダム湖におけるオオクチバス低密度管理の事例. 第19回外来魚情報交換会 (認定NPO 法人生態工房・琵琶湖を戻す会・江戸川大学), 江戸川大学 (千葉県流山市), [ポスター発表].
- 中井克樹 (2024年2月11日) 外来生物法の改正と残された課題. 同上, [口頭発表].
- 坂本正吾・稲川崇史・沖津二郎・中井克樹・大杉奉功・中正裕史・佐々木良浩 (2024年2月11日) 三春ダムにおける浮遊物回収装置を活用したオオクチバス当歳魚の捕獲. 同上, [口頭発表].
- 中井克樹 (2024年3月9日) 湖沼・河川で大繁茂し, 水田では営農活動に便乗して大暴れする, 新たなタイプの厄介な外来植物~水田の「南米化」を防ぐために~. 田んぼの生き物調査2023年度最終報告会・講演会 (西日本アグロエコロジー協会), 神戸市中央区文化センター (神戸市), [招待講演].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費助成事業 (基盤C) 「侵略的外来水生植物の生態解明及び防除手法の評価を含めた早期対応社会技術の確立」 (研究代表者: 中井克樹), 研究代表者 (2021年度~2023年度).
- 環境省生物多様性保全回復施設整備交付金による滋賀県生物多様性保全回復整備事業, 実施担当者 (2017年度~2022年度 (2023年度に繰越)).

環境省生物多様性保全推進交付金および滋賀県侵略的外来水生植物戦略的防除事業費による琵琶湖外来水生植物対策協議会事業、ならびに環境省生物多様性保全回復施設整備交付金による滋賀県事業、事務局担当者（2014年度～2023年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会自然保護専門委員会 外来種問題検討作業部会、委員、2001年3月～。
日本生態学会自然保護専門委員会、近畿地区選出委員、2013年1月～。
日本生態学会、生態学琵琶湖賞選考委員・運営委員、2016年11月～（第19回～）。
日本生態学会近畿地区会、委員（滋賀県選出）、2024年1月～。
日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員会、委員、1998年～；委員長、2021年2月～。
日本魚類学会自然保護委員会、委員、2001年2月～。
日本魚類学会自然保護委員会外来魚部会、部会長、2014年1月～。
日本貝類学会、評議員、2011年1月～。
応用生態工学会普及・連係委員会、委員、2009年10月～。
滋賀自然環境研究会、事務局および会誌編集委員、2016年7月～。
阪神貝類同好会、理事、2000年1月～。
生物多様性ネットワーク新潟、顧問、2004年10月～。
全国ブラックバス防除市民ネットワーク、理事、2005年11月～；副会長 2023年3月～。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年5月18日、滋賀県レイカディア大学びわこ環境学科43期生、課題学習「琵琶湖における外来魚問題～在来種から見る、良い外来種、普通の外来種、悪い外来種」への対応・助言、滋賀県庁県民サロン（大津市）。
2023年8月、大妻高等学校（東京都、2年生）、夏休み学習「琵琶湖における外来種対策」への質問対応・助言、電子メールによるやり取り [琵琶湖博物館経由の依頼]。
2023年8月7日、滋賀県立東大津高校新聞部による特定外来種の駆除に関する取材 [琵琶湖博物館経由の依頼]。
2023年8月22日、立命館守山高等学校（2年生）、「共創探求 IF」に関するフィールドワーク「琵琶湖の外来種の現状 - 外来種を減らすには -」、職場訪問によるインタビュー対応。
2023年9月14日、三大学連携オンライン講座「琵琶湖の環境保全ー琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来」（関西大学・法政大学・明治大学）における講義「琵琶湖の環境保全：特に侵略的外来種への対策」、関西大学千里山キャンパスおよびオンライン、講師。
2023年10月5日、びわ湖学習・授業「今津の湖岸で学ぶ生きもののかかわりかた」および環境学習Ⅰ～Ⅲ（ナガエツルノゲイトウの駆除、ハマヒルガオの保全、湖岸清掃）。今津の自然を学び守る事業（高島市今津地域住民自治協議会・高島市・環境を守るいまづの会ほか）、高島市立今津中学校、今津東小学校、今津北小学校、および今津周遊基地（高島市）、授業および野外活動講師。
2023年10月13日、関西大学ボランティア活動支援グループ活動予定地の下見、南津田町ヨシ植栽地（近江八幡市）での現場確認および関係者との打合せ、案内者。
2023年11月19日、関西大学・法政大学ボランティア活動支援グループ「琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来～滋賀県琵琶湖での外来植物駆除活動～」、南津田町ヨシ植栽地（近江八幡市）における開会あいさつ、駆除作業指導および活動の講評、講師。
2023年11月24日、滋賀県立大学環境科学部（3年生）、卒業研究（都道府県における外来種対策）に関する相談、自然環境保全課にて対面。
2023年12月16日、大和大学社会学部社会学科（3年生）、授業課題として「琵琶湖の外来魚問題」に関する動画作品の作成、琵琶湖畔でのインタビュー、展示空間の案内、「にほのうみ」の紹介。
2023年12月、東京都上野高等学校（生徒）、コンテスト「高校生リング」への投稿内容に関する相談、電子メールによるやり取り [琵琶湖博物館経由の依頼]。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2023年9月2日，運営分担者，琵琶湖博物館観察会「湖探検 琵琶湖に入って生き物を探そう」，琵琶湖湖岸（長浜市），講師。

他の博物館・機関等の主催行事

2023年4月27日，現地講義「侵略的外来水生植物およびその防除について」，令和5年度滋賀県及び市町土木技術職員現場研修「侵略的外来水生植物駆除事業」（(公財) 滋賀県建設技術センター），湖岸緑地志那1（草津市），講師（自然環境保全課職員として）。

2023年5月16日，開会時あいさつ，駆除活動の支援・指導，閉会時の講評。第1回瀬田川流域クリーン作戦，瀬田川（大津市），担当者（自然環境保全課職員として）。

2023年5月20日，解説「琵琶湖の外來種問題の現状」，JAFデー「びわ湖の外來魚を釣り上げよう！」（(一社) 日本自動車連盟滋賀支部），湖岸緑地志那2（草津市），講師。

2023年6月16日，特定外来生物・オオバナミズキンバイへの特徴と対応に関する解説と助言。オオバナミズキンバイ侵入圃場における現地説明会（大津・南部農業農村振興事務所農産普及課），草津市内休耕田，講師（自然環境保全課職員として）。

2023年6月20日，第6回鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動の下見（京都府自然環境保全課・鴨川を美しくする会・(一社) 鴨川流域ネットワーク），鴨川（京都市下京区），講師（自然環境保全課職員として）。

2023年6月23日，「オオバナミズキンバイ除去大作戦2023」の実施候補地の下見（国際ボランティア学生協会），針江ヨシ植栽地・安曇川河口（高島市）・湖北町ヨシ帯（長浜市）ほか，協力者（自然環境保全課職員として）。

2023年6月24日，石積み護岸におけるオオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウの駆除作業の支援・指導。赤野井湾再生プロジェクト清掃活動，赤野井港湾周辺湖岸（守山市），協力者（自然環境保全課職員として）。

2023年6月25日，事前下見への同行，開会時あいさつ，駆除活動の支援・指導，閉会時の講評。第2回瀬田川流域クリーン作戦，瀬田川（大津市），担当者（自然環境保全課職員として）。

2023年6月26日，講義「鴨川でのオオバナミズキンバイの駆除活動に向けて」。第6回鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動事前説明会（京都府・鴨川を美しくする会・(一社) 鴨川流域ネットワーク），京都府京都土木事務所（京都市上京区），講師（自然環境保全課職員として）。

2023年7月2日，オオバナミズキンバイ駆除現場での解説・指導。第6回鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動（京都府・鴨川を美しくする会・(一社) 鴨川流域ネットワーク），鴨川（京都市下京区），協力者（自然環境保全課職員として）。

2023年7月6日，オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウの駆除手法や問題点の解説，「びわ湖を美しくする運動（大津地区）：オオバナミズキンバイ等の駆除」（滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課），大津湖岸なぎさ公園サンシャインビーチ（大津市），講師（自然環境保全課職員として，同課職員と共同）。

2023年7月22日，講義「松元ダムと外来魚について」および外来魚釣り指導，地域まるごと共有講座「松元ダム外来魚駆除体験」（かごしま環境未来館），松元ダム（鹿児島市），講師。

2023年7月29日，記念講演「琵琶湖の生物多様性と生態系」および展示案内。令和5年度大阪滋賀県人会「次世代育成研究会」，琵琶湖博物館。

2023年8月10日，オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウ除去活動の指導・支援，「オオバナミズキンバイ除去大作戦2023」準備のための事前活動（国際ボランティア学生協会），湖北町のヨシ帯（長浜市），指導者（自然環境保全課職員として）。

2023年8月19日，池干しで捕獲された魚類等の同定・選別，「救え！シナイモツゴ 又八沼水抜きプロジェクト」（青森市教育委員会事務局文化遺産課），又八沼（青森県青森市），協力者。

2023年8月30日, オオバナミズキンバイ除去活動の実施場所・実施方法の現地確認, 「オオバナミズキンバイ除去大作戦2023」準備のための事前活動(国際ボランティア学生協会), 針江ヨシ植栽地(高島市), 指導者(自然環境保全課職員として).

2023年9月3日, 講義「身近な水辺の外来生物問題: 対策の経緯と課題」, 2023外来生物防除講座(神戸市), 神戸市外来生物展示センター(神戸市長田区), 講師.

2023年9月8日~10日, オオバナミズキンバイ除去活動の支援・指導, 「オオバナミズキンバイ除去大作戦2023」実施のための現場確認(国際ボランティア学生協会), 針江ヨシ植栽地(高島市), 協力者(自然環境保全課職員として).

2023年9月15日, 講義「水辺の外来種問題」, ニツ池公園ほか狭山丘陵保全活動ボランティア「講習会第3回」(東大和市), 東大和市役所会議室(東京都東大和市), 講師.

2023年10月14日, 環境学習講話「琵琶湖における外来種対策」および湖岸における外来水生植物の観察と駆除, MS&ADグリーンアースプロジェクト(GEP): 琵琶湖の外来魚駆除活動(釣り)~琵琶湖の生態系について考えてみませんか?(あいおいニッセイ同和損保株式会社), 講師(自然環境保全課職員として).

2023年10月17日, 水生生物の同定・調査結果の講評. 湖南企業いきもの応援団第47回調査会, 狼川および郷インテックス株式会社(草津市), 講師[川瀬正吾・菅原巧太朗学芸員と共同]

2023年10月21日, 湖南企業いきもの応援団による狼川の水生生物の水槽展示・解説. 南笠東学区合同フェスタ2022(南笠東学区), 南笠東まちづくりセンター(草津市), 解説員.

2023年10月22日, 開会時あいさつ, 駆除活動の支援・指導, 閉会時の講評. 第3回瀬田川流域クリーン作戦, 瀬田川(大津市), 担当者(自然環境保全課職員として).

2023年11月9日, 外来水生植物の除去方法の解説・指導, 2023年度県内イオン同友クリーン活動(イオン長浜店同友店会), 湖岸緑地なぎさ公園サンシャインビーチ(大津市), 講師(自然環境保全課職員として, 同課職員と共同).

2023年11月10日, 基調講演「なぜ外来種問題に取り組むのか, その考え方」, In TOYA 洞爺湖外来種サミット - 水辺の生態系を脅かす外来種の対策を考える - (UWクリーンレイク洞爺湖), 洞爺湖文化センターホール(北海道洞爺湖町), 講師.

2023年11月11日, 琵琶湖の外来水生植物に関する解説と駆除体験の指導, ライオンズクラブ国際協会レオ335-C地区49期統一アクティビティ, 講師(自然環境保全課職員として).

2023年11月12日, 魚類の捕獲および魚種の同定・解説, お魚里帰り大作戦2023. ((独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所), 新浜ビオトープ(草津市), 講師.

2023年11月14日, 講義「外来種問題, 何が困るの?」, 令和5年度たかつき市民環境大学(高槻市), 五領公民館(大阪府高槻市), 講師.

2023年11月25日, 外来水生植物の駆除活動の支援, 開会時挨拶, 閉会時講評, 11月守山オオバナ除去作戦(国際ボランティア学生協会), 芦刈園北隣の南部浄化施設(守山市), 協力者(自然環境保全課職員として).

2024年1月15日, 講義「北大東島における特定外来生物・ボタンウキクサの防除の考え方」. 特定外来生物防除専門家派遣事業(沖縄県北大東村・ボタンウキクサ)(環境省), 北大東村役場(沖縄県北大東村), 講師[ハイブリッド形式].

2024年1月31日, 講義「島根県におけるナガエツルノゲイトウ: 今後の対応のあり方を検証するために」. 特定外来生物防除専門家派遣事業(島根県・ナガエツルノゲイトウ)(環境省), ホシザキ野生生物研究所(島根県出雲市), 講師[ハイブリッド形式].

2024年2月8日, 水生生物の同定・調査結果の講評. 湖南企業いきもの応援団第48回調査会, 狼川および郷インテックス株式会社(草津市), 講師[川瀬正吾学芸員と共同].

2024年2月19日, 講義「島根県における特定外来生物ナガエツルノゲイトウへの対応の考え方: 斐伊川・宍道湖水系における特定外来生物ナガエツルノゲイトウ対策のために」. 特定外来生物防除専門家派遣事業(島根県・ナガエツルノゲイトウ)(環境省), Web意見交換会, 講師.

2024年2月23日, 講演「どうする?ため池の「おまけ」の役割: 外来種管理と希少種保護」, オヶ原池を生きものの宝庫に戻せるか? 第6回生物多様性復活活動報告会(生きもの会議(箕面生物多様性会議)), 箕面文化・交流センター(大阪府箕面市),

2024年3月10日、講義「琵琶湖の環境問題のいま：みんなのできることは？」、よみうりテレビ・24時間テレビ：びわ湖清掃イベント「滋賀県立琵琶湖博物館特別出張授業」、道の駅びわ湖大橋米プラザ（大津市）、講師。

2024年3月26日、講義「おとなでもむずかしい？ どうする？ 外来種」、ユーチューバー・マーシー氏との対談、および水族展示室案内。春休み 環境学習会（ダイハツ工業株式会社環境室・琵琶湖博物館）、琵琶湖博物館、講師。

視察等への対応

2023年9月15日、外来水生植物対策の経緯・現状・課題の説明、琵琶湖保全再生推進協議会幹事会現地視察、豊公園湖岸（長浜市）。

メディアへの対応

2023年6月1日、朝日新聞デジタル 「【そもそも解説】アカミミガメ、アメリカザリガニ逃がすと罰則 なぜ」、2種が条件付特定外来生物に指定された背景や指定の内容、期待される効果に関するインタビュー形式の解説 [5月25日、Zoomによる取材]。

2023年6月8日、読売テレビ ten「河川敷覆う黄色い花／見た目綺麗も実は“厄介者”／繁殖力が強く生態系に悪影響で駆除対象／滋賀」、特定外来生物オオキンケイギクへの行政対応として、道路沿い・河川堤防等での花期に合わせた除草作業等に関するコメント [電話取材]。

2023年6月14日、NHK 総合（大阪） ほっと関西「nanでnan？ なんでカタツムリ減少？徹底調査」、現場インタビューで撮影用カタツムリの発見と減少の原因に関する解説 [6月10日近江神宮・日吉大社で現地取材、博物館経由で依頼]。

2023年6月20日、NHK 総合 おはよう日本「NEWS WEB チェック：カタツムリなぜ見かけない？」、6月14日ニュース報道を基に投稿されたNHKブログの人気記事として紹介。

2023年6月23日、神戸新聞 Web「リスク段違い、外来種コクチバスが急拡大／兵庫でも初確認、川西の淀川水系「未経験の被害起きるかも」、河川における特定外来生物コクチバスの拡大傾向と生態的影響に関するコメント、写真提供 [電子メール取材、博物館経由で依頼]（同一内容で6月27日に紙面報道）。

2023年7月22日、読売新聞（千葉）夕刊「『最強・最悪の侵略的植物』が列島侵略中…25都府県に拡大、稲作に影響も」、特定外来生物ナガエツルノゲイトウの生態的特徴と被害に関するコメント [電子メール取材]。

2023年7月25日、フジテレビ系全国ネット めざまし8「田んぼに“地球上最悪の侵略的植物”農家悲鳴」、特定外来生物ナガエツルノゲイトウの生態的特徴と被害に関するコメント [Zoomによる取材]。

2023年7月27日、NHK 総合（津放送局ローカル）まるっと！みえ「鈴鹿川で専門家らが特定外来生物オオバナミズキンバイの調査」、特定外来生物オオバナミズキンバイの生態的特徴と鈴鹿川の現場状況から懸念される被害に関するコメント [7月27日現地取材]。

2023年7月29日、TBS テレビ 情報7days ニュースキャスター「地球『沸騰化』時代!? 危険暑さでやけど被害も…」、特定外来生物ナガエツルノゲイトウの増殖と気候変動の関係に関するコメント [電子メール取材]。

2023年8月3日、日本テレビ news every「食い止める方法は？ “侵略的” 外来植物が各地で繁殖／駆除に苦心…地域固有の生態系を脅かすおそれ」、特定外来生物オオバナミズキンバイの繁茂状況の写真と駆除作業等の動画を提供 [電話・電子メール取材]。

2023年8月28日、中日新聞「長良川のアユ 魚に食わずな／肉食コクチバス 岐阜県が対策／拡大阻止『まだ間に合う』／琵琶湖、九頭竜湖 地道な駆除続く」、特定外来生物コクチバスの生態や河川生態系への影響、琵琶湖での外来魚対策に関するコメント [電話・電子メール取材]。

2023年10月8日、静岡朝日テレビ とびっきり！日曜しずおか「“地球最悪の侵略植物” 静岡でも確認／清流・柿田川でも驚きの繁殖力」、特定外来生物ナガエツルノゲイトウの繁茂状況の写真を提供 [電子メール取材]。

2023年12月8日、Points North: Great Lakes podcast, 「The Prince Fish」, 日本におけるブルーギルの侵入・拡大・被害の経緯と現状等を解説 [2023年11月21日、Zoomによるインタビュー取材]。

【情報整備活動】

他の博物館・機関等の活動

NHK, 関西ブログ 「2023年6月16日(金)カタツムリ 最近見ないの なんぞなん?」, 出演ニュース番組を基にブログ化. <https://www.nhk.or.jp/osaka-blog/nandenan/667373.html>
京都府ホームページ, 京都府外来種データブック(2020)(総合政策環境部自然環境保全課), 原稿執筆等(2024年2月公表). <https://www.pref.kyoto.jp/gairai/databook2020.html>
Interlochen Public Radio(アメリカ合衆国ミシガン州)ウェブサイト, 「The Prince Fish」, Points Northで公開されたポッドキャストをテキストデータで公開. <https://www.interlochenpublicradio.org/2023-12-08/the-prince-fish>

【展示活動】

他の博物館・機関等の活動

豊橋市自然史博物館, 2025年度外来生物企画展, 琵琶湖における外来水生植物の機械駆除に関わる業者取材への同行, 助言(2023年7月25日).
狼川産魚類の水槽展示の製作. 南笠東学区合同フェスタ(南笠東まちづくりセンター・湖南企業いきもの応援団). 南笠東まちづくりセンター(草津市)(2023年10月21日).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会, 専門委員(1997年～).
滋賀県野生動植物との共生に関する検討会, 外来種問題検討委員及び水生生態系部会員(2003年5月～).
京都府外来種実態調査専門委員会, 陸淡水産貝類担当委員(2016年～).
京都府希少野生生物保全推進員(2018年1月～).
京都府レッドデータ調査選定・評価委員会, 委員(魚貝部会・無脊椎動物部会)(2019年6月～).
東京都外来種対策検討準備会, 委員(2023年2月～).
青森市教育委員会 青森市指定文化財「又八沼に生息するシナイモツゴ」の保護対策検討委員会, 委員(2022年11月～2024年3月).
環境省希少野生動植物種保存推進員(1997年～).
環境省特定外来生物分類群専門家グループ(無脊椎動物), 委員(2004年～).
環境省特定外来生物分類群専門家グループ(魚類), 委員(2014年1月～).
環境省外来生物対策室「外来種被害防止行動計画」の見直しに関する検討会, 委員(2023年8月～).
環境省外来生物対策室「生態系被害防止外来種リスト」の作成に関する検討会, 委員(2023年8月～).
環境省近畿地方環境事務所 令和5年度琵琶湖外来水生植物防除試験評価検討アドバイザー会議, 委員(2022年7月～2023年3月).
環境省中国四国地方環境事務所 外来タナゴ類対策ワーキンググループ, 委員(2023年9月～2024年3月).
農林水産省東海農政局外来貝類被害防止対策検討調査連絡会, 座長(2014年～).
国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所河川保全利用委員会, 委員(2004年8月～).
国土交通省東北地方整備局三春ダム管理所三春ダム外来魚研究会, 座長(2012年1月～).
(公財)リバーフロント研究所「河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ, 貝類担当委員(1999年2月～).
(一財)水源地環境センター「河川水辺の国勢調査(ダム湖版)スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ, 貝類担当委員(1999年10月～).
大津市環境影響評価専門委員会, 委員(2017年～2023年8月).
西宮市貝類館運営委員会, 委員(2021年9月～).

印刷物

【専門分野の著作】

- 大塚泰介・根来 健（2023）琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究. (公財) 令和4年度水質保全研究助成報告書, 琵琶湖・淀川水質保全機構, 10. (published online) http://www.byq.or.jp/josei/r04/accomplishment_report/1-1_report_ohtsuka.pdf
- 大塚泰介・根来 健・佐藤晋也・石川可奈子・辻 彰洋（2023）特集：『視えない』外来種問題 要注意！琵琶湖とその集水域の「ミクロの外来生物」. 地域自然史と保全, 45: 25-38.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 大塚泰介・根来 健・井上晴絵・小倉謙一・草間雄大・辻 彰洋（2023年5月13日）日本からの *Achnanthydium catenatum* の出現報告, 日本珪藻学会第44回大会, 文教大学あだちキャンパス（東京都足立区）, [口頭発表].
- 大塚泰介・根来 健・泉野央樹・佐藤晋也・石川可奈子・辻 彰洋（2023年8月18日）要注意！琵琶湖と集水域の「ミクロの外来生物」, 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Ohtsuka, T., Negoro, T., Izumino, H., Sato, S. and Tuji, A. (2023年8月29日) Diatoms presumed to have recently invaded Lake Biwa Basin in Central Japan, The 26th International Diatom Symposium, Yamagata Terrsa (山形県山形市), [口頭発表].
- 横井貴大・根来 健・藤井滋穂（2023年10月28日）琵琶湖南湖を水源とする蹴上浄水場着水における1953年度からの植物プランクトン長期推移, 第23回環境技術学会年次大会, 立命館大学（滋賀県草津市）, [口頭発表].
- Ohtsuka, T., Negoro, T., Tuji, A., Niiyama, Y., Ishikawa, K. and Ichise, S. (2023年11月6日) Cyanobacterial water blooms in Lake Biwa –revisiting 40 years of history, The 20th International Conference on Harmful Algae, Grand Prince Hotel Hiroshima (広島市南区), [ポスター発表].
- 根来 健（2023年11月17日）水道生物研究集会「シアノバクテリアのカビ臭産生種の分類学と遺伝子解析の現状」ほか, 日本水処理生物学会, 庄内産業振興センター（山形県鶴岡市）, [コーディネーター, 司会].
- 根来 健・大塚泰介・辻 彰洋（2023年11月18日）琵琶湖南湖で多産する円盤型珪藻, 日本水処理生物学会第59回大会, 山形大学鶴岡キャンパス（山形県鶴岡市）, [口頭発表].
- 根来 健（2023年11月19日）日本水処理生物学会第59回大会, 山形大学農学部（山形県鶴岡市）, [座長].
- 小埜栄一郎・大杉知裕・村田 純・豊永宏美・根来 健・大塚泰介（2023年11月27-30日）ホウネンエビの鰓脚に特異的に着生する緑藻の系統解析, 第36回日本微生物生態学会, アクトシティ浜松（静岡県浜松市）, [ポスター発表].
- 小埜栄一郎・大杉知裕・村田 純・豊永宏美・根来 健・大塚泰介（2023年12月17日）ホウネンエビの鰓脚に特異的に着生する緑藻の系統解析, 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 根来 健（2023年12月17日）第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, [座長].
- 根来 健（2024年2月1~2日）日本水処理生物学会第38回水処理生物基礎講座「水道障害の原因となる鉄バクテリアの調査・同定・評価技術」の運営, 創価大学（東京都八王子市）, [幹事長・司会].
- 大塚泰介・根来 健（2024年3月22日）琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究, 令和5年度水質保全研究助成成果報告会, (公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変化」(研究代表者：亀田佳代子)，共同研究者 (2019 年度～)。

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築」(研究代表者：大塚泰介)，共同研究者 (2021 年度～2024 年度)。

琵琶湖博物館共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」(研究代表者：菅原巧太郎)，共同研究者 (2023 年度～2026 年度)。

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構 水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」(研究代表者：大塚泰介)，共同研究者 (2022 年度～2024 年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境技術学会，理事，2015 年～。

日本水処理生物学会，評議員・企画委員会幹事長，2023 年～。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ「たんさいぼうの会」，副会長。

はしかけ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」，会員。

2023 年 5 月 6 日，観察会「顕微鏡であのプッカプカが，見える見える超見える」，琵琶湖博物館実習室 1，[実習補助]。

2023 年 12 月 6 日，プランクトン観察実習，近畿工業化学教育研究会，琵琶湖博物館実習室 1，[実習補助]。

2024 年 2 月 8 日，水族飼育員研修「ろ過施設の維持管理」，琵琶湖博物館水族飼育員研修室，[講師]。

他博物館・機関の主催行事

2023 年 10 月 21 日，自主企画「琵琶湖疏水記念館と疏水分線」，認定特定非営利活動法人，琵琶湖疏水記念館（京都市左京区），講演及び疏水分線見学ガイド。

2023 年 10 月 30 日，生物担当者研修「微細藻類の単離と培養」，阪神水道企業団水質試験所（兵庫県尼崎市），講演及び実技指導。

視察等への対応

2023 年 4 月 18 日，日野町在住の方に，水道システムの概要や日野町の水道に関し解説を行い質問に回答，交流室。

2023 年 12 月 6 日，マイクロアクアリウム展示内容説明，韓国洛東江生物資源館，琵琶湖博物館。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

プランクトン・琵琶湖の水質等について，展示交流員への解説や質疑応答，多数。

マイクロバー訪問者（一般見学者）に対する，琵琶湖のプランクトンに関する解説・質問回答，多数。

プランクトンの顕微鏡写真，作成。マイクロバーへの設置。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

NPO 法人 水道事業活性化懇話会，委員（2015 年～）。

(一社) 全国水道管内カメラ調査協会, 専門委員 (2017 年～).
滋賀県近江八幡市水道事業運営委員会, 委員 (副委員長) (2019 年～).

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

マリンバイオロジー学会, 評議員.
沿岸環境関連学会連絡協議会, 運営委員.
日本水産学会, 水産環境保全委員会, 委員.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年4月17日～5月22日, 公立若狭高等看護学院, 「微生物学」, 非常勤講師.
2023年4月28日～7月28日, 奈良市立看護専門学校, 「解剖生理学 I」, 非常勤講師.
2023年9月6日～2024年1月17日, 阪奈中央リハビリテーション専門学校作業療法学科, 「病理学」, 非常勤講師.
2023年10月16日～2024年2月6日, 青丹学園言語聴覚学科, 「病理学」, 非常勤講師.
2023年10月16日～2024年2月29日, 青丹学園看護学科, 「病理学」, 非常勤講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

福井県衛生環境研究センター 調査研究等評価委員会, 委員長 (2023年9月7日).
福井県小浜市環境審議会, 議長 (2024年3月19日).

特別研究員 (研究テーマ: 琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究)

印刷物

【学術論文】

Kikko, T., Sato, T., Kanaiwa, M., Ishizaki, D., Kuwamura, K., Okamoto, H., Ide, A., Nemoto, M., Takeoka, S., Kai, Y., Nakayama, K. and Fujioka, Y. (2024) Apparent migration and natal homing of a small minnow in a large ancient lake, *Can. J. Fish. Aquat. Sci.* 81 (3) : 311-325. dx.doi.org/10.1139/cjfas-2022-0207.

【専門分野の著作】

藤岡康弘 (2024) ビワマス産卵そ上親魚のジャンプ力. *ゴテジャコ*, 28 : 1-4.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

佐藤祐一・瀧健太郎・藤岡康弘・水野敏明 (2022) 中小河川における「小さな自然再生」 推進に向けたプロセス構成要素の把握と適用. *河川技術論文集*, 28 : 145-150.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

藤岡康弘 (2023年11月13日) ホンモロコの初期発育. 第76回魚類自然史研究会, 三重県立博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究分担者 (2019年度~).

【大学・学校の講義・実習・学生・生徒の指導など】

2023年4月1日, 琵琶湖博物館うおの会第1回お魚研究者養成講座, 知内川の魚観察会. 高島市マキノ, 主催.
2023年6月24日, 琵琶湖博物館うおの会第2回お魚研究者養成講座, 琵琶湖博物館実習室. 主催.
2023年8月26日, 琵琶湖博物館うおの会第3回お魚研究者養成講座, 琵琶湖博物館実習室. 主催.
2023年11月5日, 琵琶湖博物館うおの会第4回お魚研究者養成講座, 愛知川のビワマス産卵観察会, 東近江市永源寺, 主催.
2024年3月24日, 琵琶湖博物館うおの会第5回お魚研究者養成講座, 琵琶湖博物館実習室. 主催.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2023年5月19日, 「琵琶湖の魚と漁業について」近江八幡市島小学校3年生, 近江八幡市長命寺 (近江八幡漁業協同組合会議室), 講演.
2023年6月5日, 「琵琶湖淀川水系の形成と多様な生き物」. 人と自然の講座, シニア大阪自然大学校, (大阪市NS21ビル9階会議室), 講演.
2023年6月18日, 琵琶湖博物館うおの会のお魚調査, 琵琶湖博物館周辺水路, 調査参加.
2023年9月4日, (仮称) 森の文化博物館協議会, 東近江市, 委員.
2023年9月5日, 「東近江の魚・漁・食とエコツーリズム」. 第4期東近江の森里川湖エコツーリズムガイド養成講座, 東近江の森里川湖エコツーリズムガイド協会 (川辺の森), 講演.

2023年9月8日、「内水面生態系の保全について（川は地域の宝：内水面生態系をどのように守るのか）」．平成5年度水産多面的機能発揮対策等講演会（内水面部会）．豊かな海づくり協会（大阪市）．講演．

2023年10月3日，令和5年度東近江市環境審議会，東近江市役所会議室，委員．

2023年10月15日，琵琶湖博物館うおの会のお魚調査，伊吹周辺，調査参加．

2023年10月19日，愛知川ビワマス簡易魚道設置，愛知川漁業協同組合，愛知川支流（東近江市），参加．

2023年10月21日，愛知川ビワマス簡易魚道設置，愛知川漁業協同組合，愛知川支流（東近江市），参加．

2023年11月16日，「ビワマスの産卵観察」，大阪自然大学校35名，愛知川支流（東近江市），講演と案内．

2023年12月17日，琵琶湖博物館うおの会のお魚調査，野洲川下流，調査参加．

2023年12月19日，兵庫県矢田川漁業協同組合，全内多面的機能発揮対策調査，兵庫県香美町，調査．

2024年1月21日，琵琶湖博物館うおの会，来年度の計画検討会，琵琶湖博物館実習室，参加．

2024年1月28日，「ワクワクドキドキのホンモロコ」．近江淡水魚研究所主催，長浜市図書館会議室，講演．

2024年2月3日，「ビワマス保全の輪を広げよう！」（ビワマスフォーラム），家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト，野洲市，コメンテーター．

2024年2月17日，愛知川ビワマス簡易魚道撤去，愛知川漁業協同組合，愛知川支流（東近江市），参加．

2024年2月18日，琵琶湖博物館うおの会，お魚写真・本・一品の紹介，琵琶湖博物館実習室，参加．

2024年2月19日，（仮称）東近江市森の文化博物館自然部会検討会，東近江市役所会議室，参加．

2024年2月27日，ビワマス稚魚調査，家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト，野洲市，調査指導．

2024年3月1日，令和5年度 近江東部地区土地改良事業推進協議会 環境配慮検討委員会（第1回），東近江市．

2024年3月7日，日野川支流のお魚救出作戦，蒲生野考現倶楽部，佐久良川（東近江市），参加．

2024年3月27日，（仮称）東近江市森の文化博物館自然部会検討会，東近江市役所会議室，参加．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

全国内水面漁業協同組合水産多面的機能発揮対策支援事業，サポート専門家（2013年～）．

MEL ジャパン，審査員（2016年～）．

東近江市環境審議会，委員（2017年～）．

国営土地改良事業「近江東部地区」推進協議会環境配慮検討委員会，委員（2020年～）．

東近江市森の文化博物館設置検討会委員（2022年～）．

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

共生社会システム学会, 理事・編集委員, 2023年4月～.

共生社会システム研究(共生社会システム学会)の投稿論文, 編集, 1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年4月～2023年10月, 東京農業大学, 講義「環境倫理」, 非常勤講師.

印刷物

【専門分野の著作】

八尋克郎 (2023) 田んぼは生き物の宝庫—昆虫. In: 妹尾裕介編, 琵琶湖博物館第31回企画展示「おこめ展～おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然～」展示解説書, 48-53.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

八尋克郎 (2023年9月17日) 私のこれまでのオサムシ科甲虫の研究と最近関心をもっていること. 日本昆虫学会第83回大会小集会「地表性甲虫談話会」, 佐賀大学 (佐賀市), [口頭発表].

八尋克郎 (2023年9月17日) 日本昆虫学会第83回大会小集会「地表性甲虫談話会」の司会・進行. 佐賀大学 (佐賀市), [座長].

八尋克郎 (2024年3月24日) 滋賀県多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石について. 「ワニもゾウもいた180万年前の自然を考える」座談会, 多賀町立博物館 (多賀町), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究協力者 (2019年度～2023年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本環境動物昆虫学会第13期環境アセスメント動物調査手法研究部会, 運営委員, 2010年2月～.

滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度～.

地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004年度～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2023年4月～9月, 龍谷大学「環境の科学」, 講義.

2023年10月～2024年3月, 龍谷大学「博物館情報・メディア論」, 講義.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2023年4月8日～2024年3月16日, 虫架け, はしかけ活動, 代表.

2023年6月7日, 古琵琶湖発掘調査隊, 昆虫化石のクリーニング, 指導.

他の博物館・機関等主催行事

2023年6月24日, 科学の教室 (立入町自治会), 立入町自治会館 (守山市), 講師.

2023年8月1日, 科学の教室 (立入町自治会), 琵琶湖博物館 (草津市), 講師.

2023年8月26日, 科学の教室 (立入町自治会), 立入町自治会館 (守山市), 講師.

2023年10月14日，科学の教室（立入町自治会），立入町自治会館（守山市），講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，部会長（2011年4月1日～）.

野生動植物との共生に関する検討会，委員（2012年4月1日～）.

守山市ほたるの森資料館，館内展示監修（2023年11月1日～2024年3月31日）.

研究活動に関する業績

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2023年7月～2023年9月，滋賀もりづくりアカデミー前期，「森林学講義」。
- 2023年7月～2023年9月，滋賀もりづくりアカデミー前期，「林業機械実習」。
- 2023年10月～2024年1月，滋賀もりづくりアカデミー後期「森林学講義」。
- 2023年10月～2024年1月，滋賀もりづくりアカデミー後期，「林業機械実習」。
- 2023年6月～2023年9月，滋賀県森林組合連合会緑の雇用実習生，「林業技術に関する講義」。
- 2023年6月～2023年9月，滋賀県森林組合連合会緑の雇用実習生，「林業機械実習」。
- 2023年6月13日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，高取山キャンプ場（滋賀県多賀町），指導業務。
- 2023年6月23日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，みなくち子どもの森（滋賀県甲賀市），指導業務。
- 2023年7月27日，森林体験学習「やまのこ」事業指導員研修，河辺生き物の森（滋賀県東近江市），講師。
- 2023年9月21日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，葛川少年自然の家（滋賀県大津市），指導業務。
- 2023年9月26日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，高取山キャンプ場（滋賀県多賀町），指導業務。
- 2023年9月27日，令和5年度「びわ湖の日」連続講座「琵琶湖を育む森林の価値と資源の利用」，立命館大学，講師。
- 2023年10月13日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，荒神山自然の家（滋賀県彦根市），指導業務。
- 2023年10月24日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，森林公園くつきの森（滋賀県高島市），指導業務。
- 2023年10月24日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，栗東森の未来館（滋賀県栗東市），指導業務。
- 2024年1月12日，滋賀県立甲南高等学校「森林科学コース実習」，甲南高校実習農園（滋賀県甲賀市），講師。
- 2024年2月18日，若者参画による環境学習プログラム推進事業，ニューラフレア2階（神戸市中央区），「第1部山トークでの活動紹介」。
- 2024年3月13日，森林体験学習「やまのこ」事業令和5年度第3回指導員研修，感想文を用いたプログラム効果測定各施設結果の報告会，林業普及センター（滋賀県野洲市），滋賀県森林政策課，講師。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

- 2023年4月～2024年3月毎月1回，日野里山フリースクール自然体験の日，滋賀県日野町，講師。
- 2023年6月～2024年3月各月，玉滝放課後こども教室，玉滝公民館（三重県伊賀市），講師。
- 2023年6月16日，NPO法人HCCグループ，つながるカフェ「学ぼうサスティナブルな暮らし方」，大津市市民活動センター，講師。
- 2023年7月18日，令和5年度滋賀県立伊香高等学校第1回「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」運営指導委員会，滋賀県立伊香高等学校（滋賀県長浜市），運営指導委員。
- 2023年9月1日，第1回甲賀の豊かな森林づくり構想策定委員会，甲賀市林業振興課（滋賀県甲賀市），委員。
- 2023年11月7日，第2回甲賀の豊かな森林づくり構想策定委員会，甲賀市林業振興課（滋賀県甲賀市），委員。
- 2023年12月9日，大原自治振興会地域環境部会企画「里山で楽しむ一日」，大原自治振興会（滋賀県甲賀市），講師。
- 2024年2月6日，第3回甲賀の豊かな森林づくり構想策定委員会，甲賀市林業振興課（滋賀県甲賀市），委員。
- 2024年3月23日，令和5年度滋賀県立伊香高等学校第3回「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」運営指導委員会，滋賀県立伊香高等学校（滋賀県長浜市），運営指導委員。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 甲賀愛林クラブ役員，女性部部长。
- 甲賀木の駅運営委員会，役員・事務局。
- くでじゅう甲賀，役員。

くぬぎの森自然遊び広場&山の学校, 代表.

巨木と水源の郷をまもる会, 会員.

滋賀県植物研究会, 会員.

滋賀もりづくりアカデミー, 講師.

林野庁補助事業「緑の雇用」事業, 講師.

日野里山フリースクール, 自然体験授業担当.

甲賀市甲賀町大原自治振興会, 副会長.

甲賀市甲賀の豊かな森林づくり構想策定委員会, 委員.

滋賀県立伊香高等学校新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業) 運営指導委員会, 運営委員.

里山実験室 HareMori, 主催.

印刷物

【学術論文】

Yamamoto, M., Sugahara, K., Asai, N., Yanagida, T., Yokoyama, H., and Shirakashi, S. (2023) Pathology of a Microsporidian *Inodosporus fujiokai* in Two *Onchorynchus* spp. *Fish Pathology*, 58 (3) : 60-70.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

松田 涼・堀江怜平・石崎大介・山本充孝・近藤昭宏・中村昌文・山中裕樹（2023年12月5日）琵琶湖および瀬田川における特定外来生物チャネルキャットフィッシュの環境DNAを用いた生息調査. 第6回環境DNA学会九州大会, 九州大学椎木講堂（福岡県福岡市）, [ポスター発表].

山本充孝（2024年2月10日）琵琶湖における外来魚駆除事業の変遷. 第19回「外来魚情報交換会」, 江戸川大学（千葉県流山市）, [口頭発表].

米加田徹・秋元勇毅・安東秀容・横山 博・菅原和宏・山本充孝・木南竜平・白樫 正・柳田哲矢（2024年3月9日）アマゴ魚体内における微孢子虫 *Inodosporus fujiokai* の挙動について. 令和6年度日本魚病学会春季大会, 東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区）, [ポスター発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2023年5月28日, 第22回「琵琶湖外来魚駆除の日」(外来魚解剖教室), 琵琶湖を戻す会, 烏丸半島多目的広場(滋賀県草津市), 講師.

2023年7月23日, 赤野井湾探検会(ブラックバスの解剖), びわこ豊穰の郷, 玉津小津漁業協同組合(滋賀県守山市), 講師.

2023年11月23日, 自然とふれあう 遊びと学びのたいけんフェア「びわこのお魚 楽しみ隊」, 滋賀県環境政策課, 矢橋帰帆島大はらっぱ広場(滋賀県草津市), 講師.

総合研究・共同研究による印刷物

- 堀越昌子 (2024) 琵琶湖のコアユを「へしこ」と「なれずし」に加工する. *滋賀の食事文化年報*, 32 : 19-23.
- 落合千帆・渡部圭一・成田茉優 (2024) 近江舞子浜の利用と管理. 吉田丈人・落合千帆・深町加津枝・三好岩生 編, *災害対応の伝統伝承知ー比良山麓の里山から (地球研叢書)*, 昭和堂 : 113-131.
- 関野 樹 (2023) タイム・リゾルバーー時間名リソースからの時間範囲取得. *情報処理学会シンポジウム じんもんこん 2023 論文集*, : 59-66.
- Tuji, A., Niijima, Y. and Ichise, S. (2023) Distribution and Phylogeny of *Dolichospermum hangangegense* (Nostcales, Cyanobacteria) Found in Japanese Lakes and Reservoirs. *Bulletin of the National Science Museum Ser.*, B49: 83-95.
- 渡部圭一 (2023) 旧津田内湖のサデ網漁. *淡海文化財論叢*, 淡海文化財論叢刊行会, 15, 269-273.
- 渡部圭一 (2023) はげ山とむらの資源管理. *日本民俗学*, 316 : 35-70.
- 渡部圭一・落合千帆・佐藤啓花 (2024) 石材利用と地域文化. 吉田丈人・落合千帆・深町加津枝・三好岩生 編, *災害対応の伝統伝承知ー比良山麓の里山から (地球研叢書)*, 昭和堂 : 133-150.

*編集者注 : 学芸職員および特別研究員による印刷物については、各員のページを参照。
このリストでは、研究課題ごとに分けず、著者名のアルファベット順に並べた。

2023 年度の研究活動を振り返って

新型コロナウイルス感染症の区分が5類に移行し、野外調査や学会参加等が旧に復すことによって、研究活動も順次制限が説かれるようになってきた。一方で、水槽破損などによるイレギュラーな業務量の拡大もあり、多くの職員が研究にまい進できない状況も発生した。こうした中でも、当館では第三次中長期計画に基づき「世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進」「研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える」「研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化」を計画的に進め、博物館の研究事業である総合研究1件、共同研究9件、申請専門研究3件に加え、外部助成金を受けた研究として科研費13件、その他12件を実施した。また2022年度からは滋賀県と連携協定を結んだ伊藤忠商事による支援の下「琵琶湖地域の生物多様性総合保全に関する連携研究プロジェクト」で希少淡水魚の保護・増殖に関する研究も進めている。これらの研究の成果は学術論文31件、専門向けの著述37件、一般向けの著述84件のほか、企画展示の開催、常設展示の更新、各種交流事業を通じて社会に還元した。

研究成果の発信力の強化としては、過去に刊行した研究報告書のウェブ公開（J-Stage）を継続することで新たな利用者の獲得を目指しており、閲覧ページ数、ダウンロード数ともに順調に増加している。また、YouTubeで公開された動画も1本あたり4～12万件のアクセスを獲得している。ウェブを利用した据え置き型の情報発信が順調に進む一方で、同じウェブでの情報提供でも講座の告知は苦戦している。デジタル化した時代に合わせた告知方法の検討は大きな課題である。

外部機関との連携では、前述のように伊藤忠商事との連携研究が進んだことと、MOUを締結している韓国洛東江生物資源館との交流の再開が大きなトピックである。後者については3年ぶりに相互訪問が行われ、今後の研究の課題や、企画展示での標本・データの相互利用などについての方針が協議された。

研究環境の整備、特に研究の遂行に必要な備品類の更新は相変わらず大きな課題である。これについては調達計画を再検討するべく準備を進めている。

研究部長 芳賀裕樹

琵琶湖博物館業績目録 第28号
2023年度

令和6年(2024年)9月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091
電話 077-568-4811(代)